

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団 MAGAZINE

定価635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

AB=A'B'の幾何

A Geometrical Analysis of AB=A'B' in Quadrilaterals

川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

折り図 Diagrams

小鳥 神谷哲史

Little Bird

Kamiya Satoshi

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

マンタ 吉野一生

Manta Ray

Yoshino Issei

つまみおり Information

OrigamiUSAコンベンションレポート

The OrigamiUSA Convention Report



104
通巻 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号

SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線 Line indicating valley fold	山折り線 Line indicating mountain fold	手前に折る Fold paper forwards	後ろへ折る Fold paper backwards	折り筋をつけ Making a crease line	段折り Pleat fold
裏返す Turn paper over	引き出す Pull out	図の見る 位置が変わる Rotation	図が大きくなる A magnified view	見えない ところ A hidden line	押す、 押しつぶす Push paper in

表紙解説

小鳥

作:神谷哲史 (P.22)

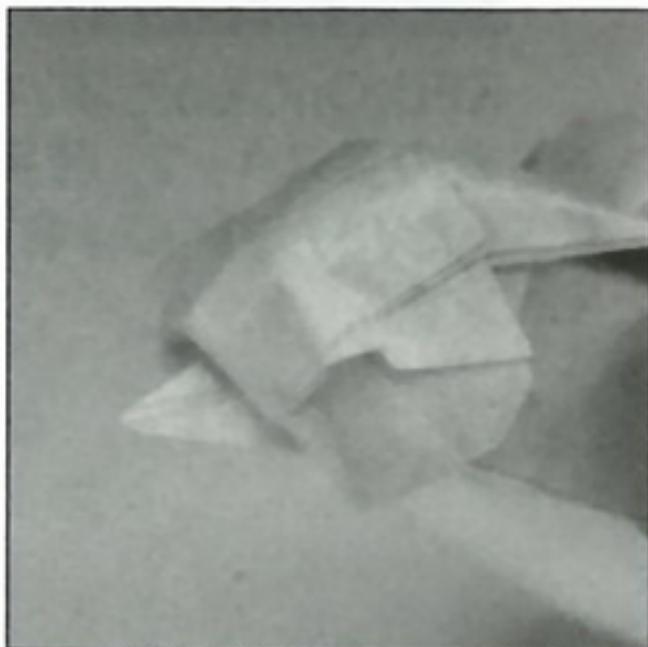
Little Bird

by Kamiya Satoshi (P.22)

■両手でふくら包み込んでくれと言わんばかり、全身の丸み表現を可能にした構成。折り図を正確に読みとて折りこなすだけで満足せずに、仕上げ加工もいろいろと模索してみてください。題材と折り手の癖に合う紙を自分で探す、その試行錯誤過程自体がレベルアップへの近道であり、すべて無駄にならずに役立ちます。

(解説:北條高史) Comments : Hojo Takashi

No. 104



Little Bird : Kamiya Satoshi

クローズアップ／Close-up

P.11 AB=A'B'の幾何

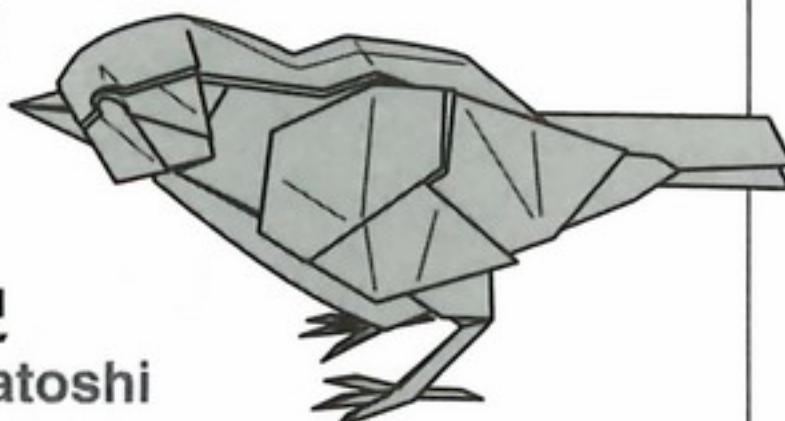
A Geometrical Analysis of
 $AB=A'B'$ in Quadrilaterals

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

折り図／Diagrams and Crease Pattern

P.22 小鳥

Little Bird



神谷哲史
Kamiya Satoshi

P.34 展開図折りに挑戦！

Crease Pattern Challenge!

マンタ

Manta Ray

吉野一生 Yoshino Issei

カラーページ／Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 まーしーのユニット・オルタナティブ

Mercy's Unit Alternative

ペコ
Giver

田中将司
Tanaka Masashi

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

プチトマトとみかん

Cherry Tomato and Mandarin Orange

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物／Articles

P.14 過去の折り紙に学ぶ

Learning from the Paperfolding of the Past

ボアズ・シュバル
Boaz Shuvai

リリアン・オッペンハイマー：折り紙の女王

The Queen of Origami

翻訳：羽鳥公士郎
Translator : Hatori Koshiro

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫
Komatsu Hideo

『ペーパーマジック立体折り紙』岩倉啓祐

"Paper Magic: 3-Dimensional Origami"

P.18 折紙散歩右往左往

Origami-Sampo to Unexpected Directions

前川 淳
Maekawa Jun

折紙散歩者、静岡を往く

An Origami Walker in Shizuoka

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

シッポ・マボナ Sipho Mabona

翻訳：羽鳥公士郎
Translator : Hatori Koshiro

コラム／Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.32 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

金澤隆史
Kanazawa Takashi

P.33 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報／Information

P.36 つまみおり

Rabbit Ear

OrigamiUSAコンベンションレポート
The OrigamiUSA Convention Report



田中将司
Tanaka Masashi

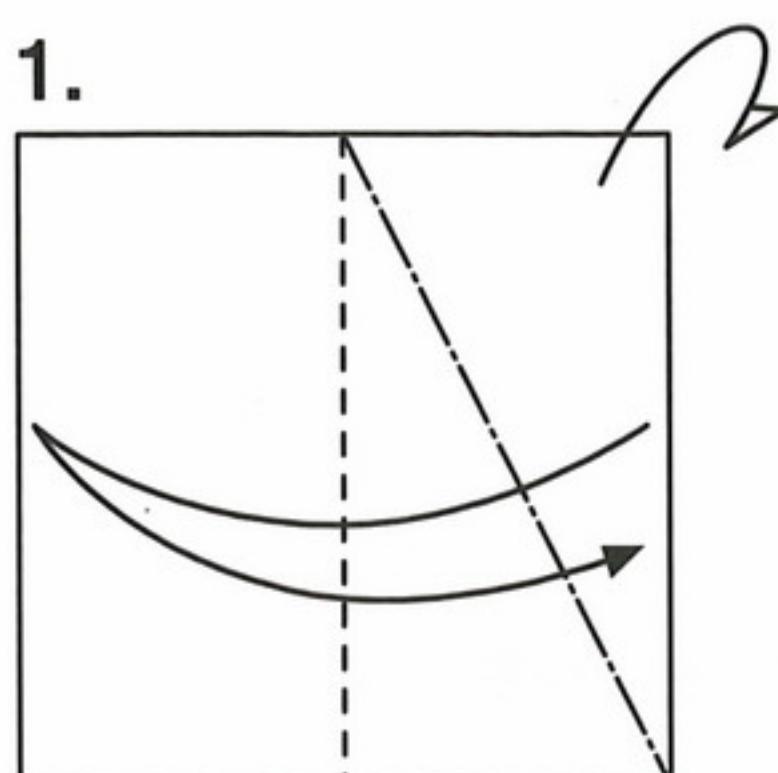


第1回 ペコ Giver

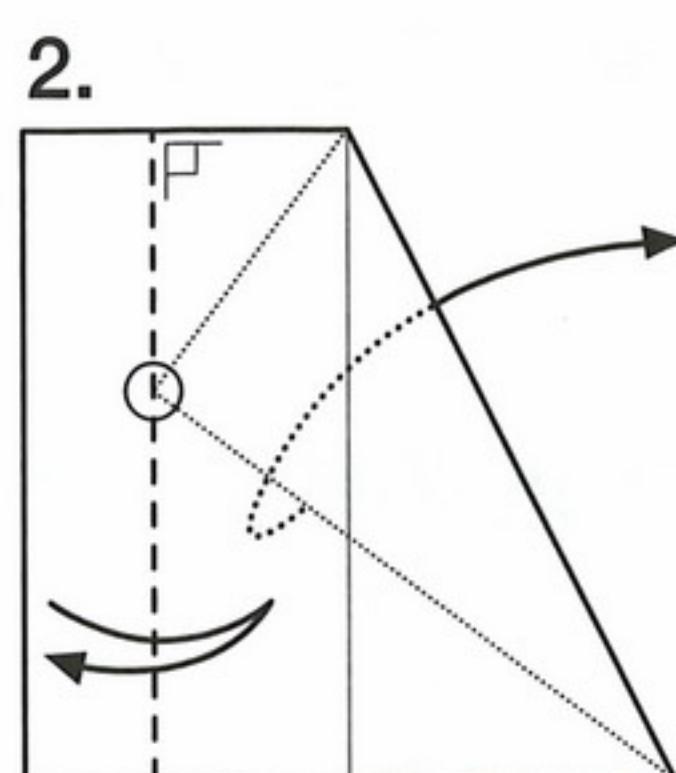
KFD-OriClub所属。折紙探偵団東海友の会スタッフ。苦手なものは酔っ払ったYさん。詳細は名古屋コンベンションで。

【5等分定規】

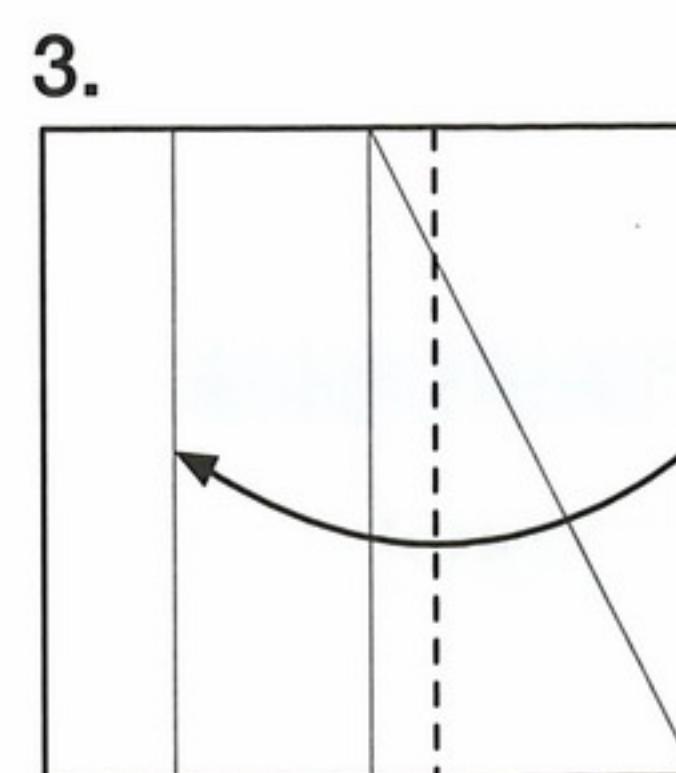
パーツを折る紙と同サイズの正方形を用意する。



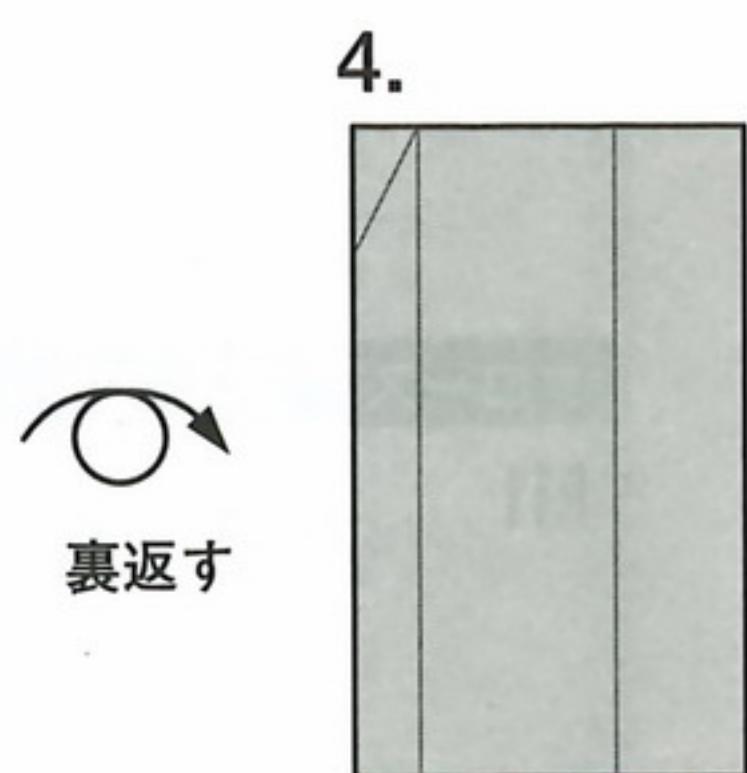
半分に折って開き
出来た長方形の
対角線を折る。



○印カドからの
垂線を折ってから
全て開く。

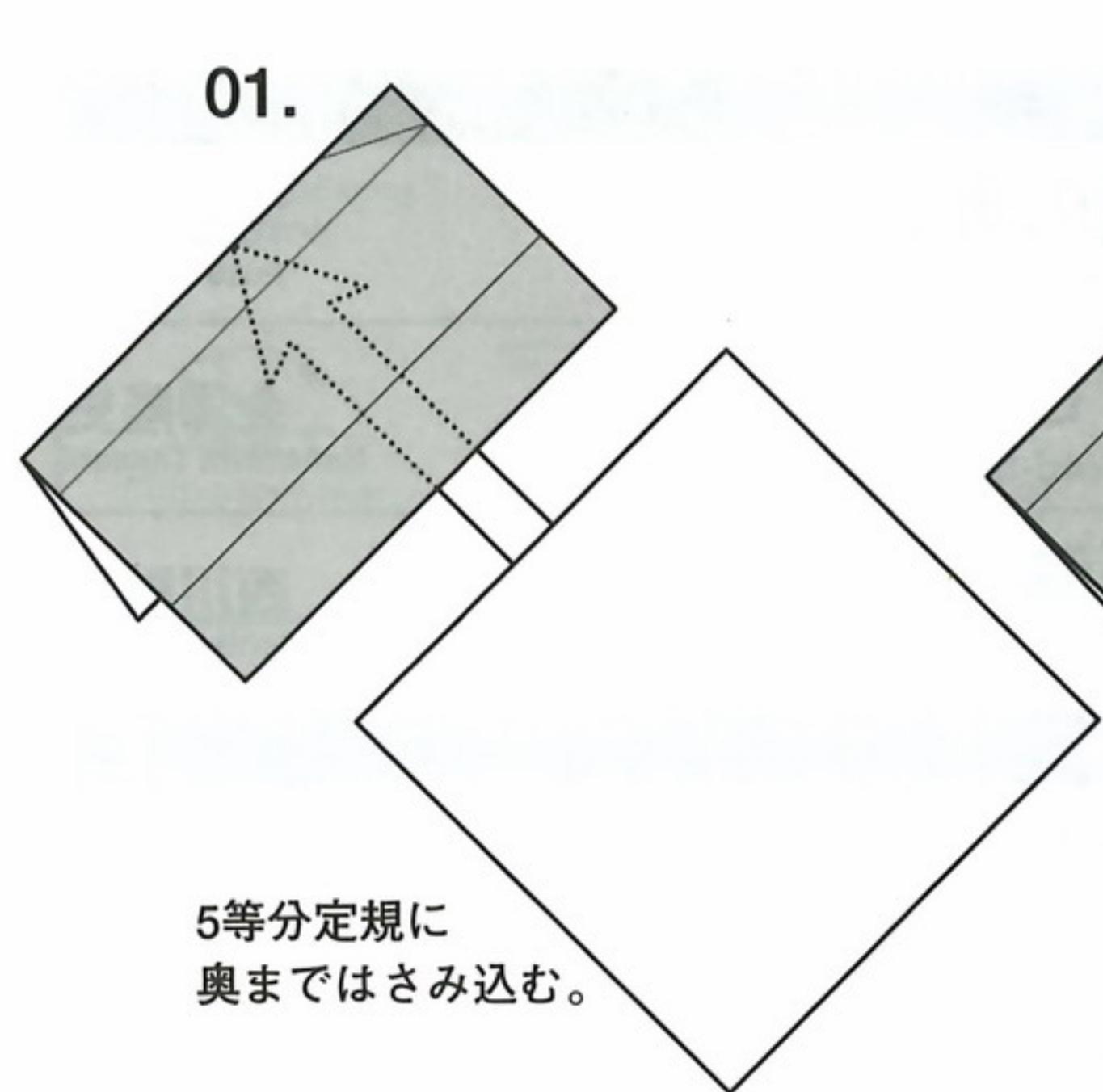


2工程で付けた線と
フチを合わせて折る。

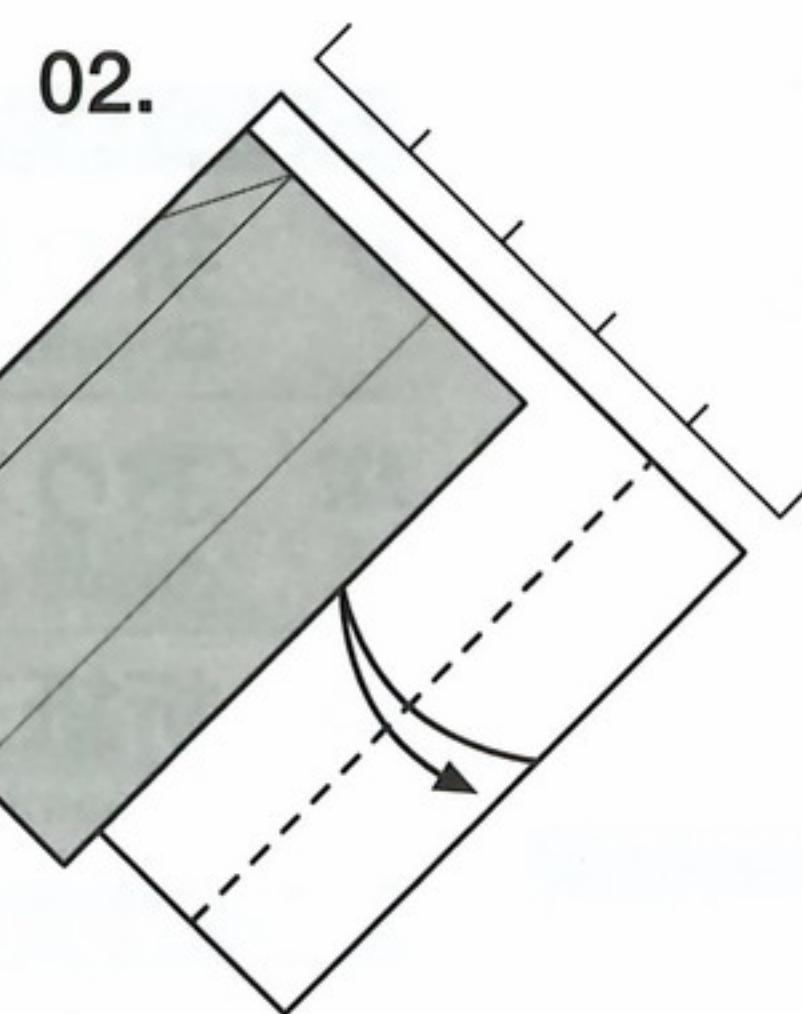


5等分定規
裏返す

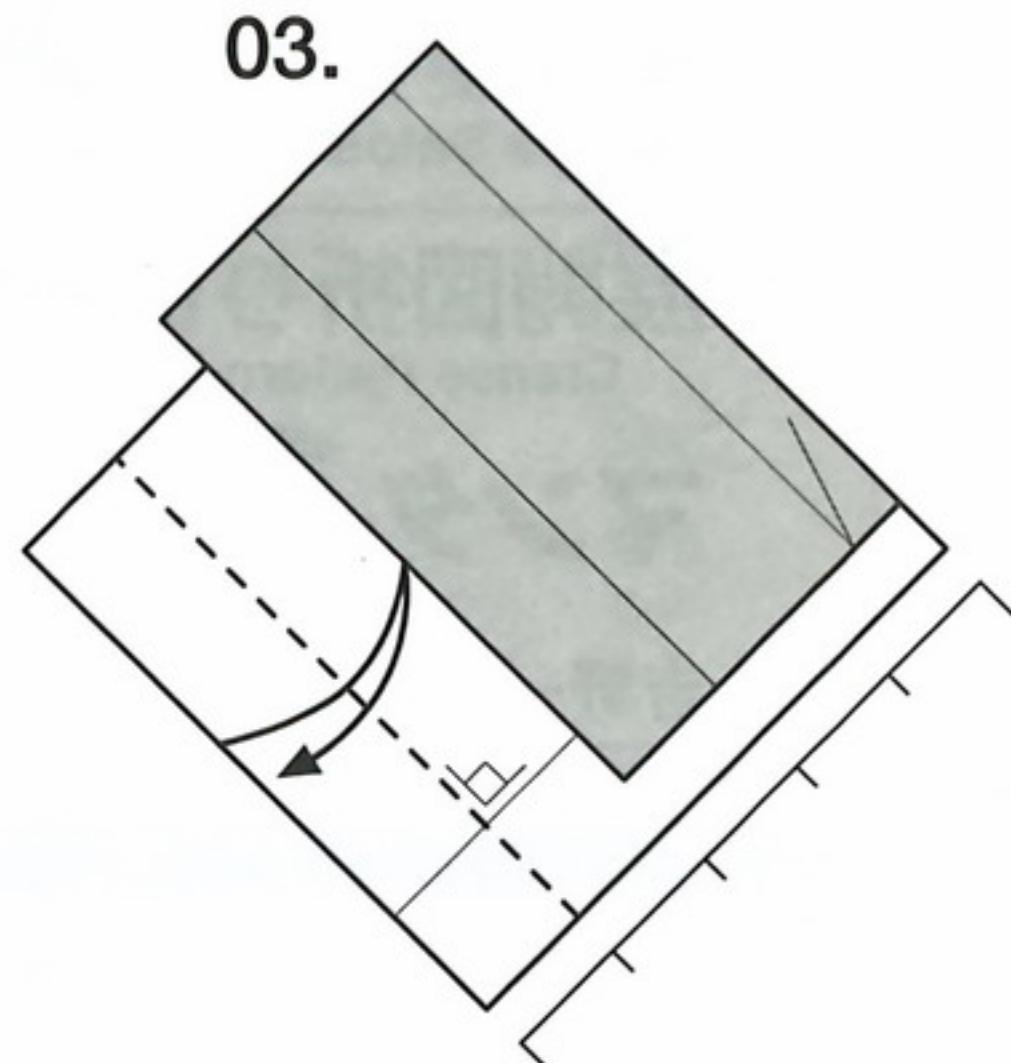
【ペコ・パーツ】



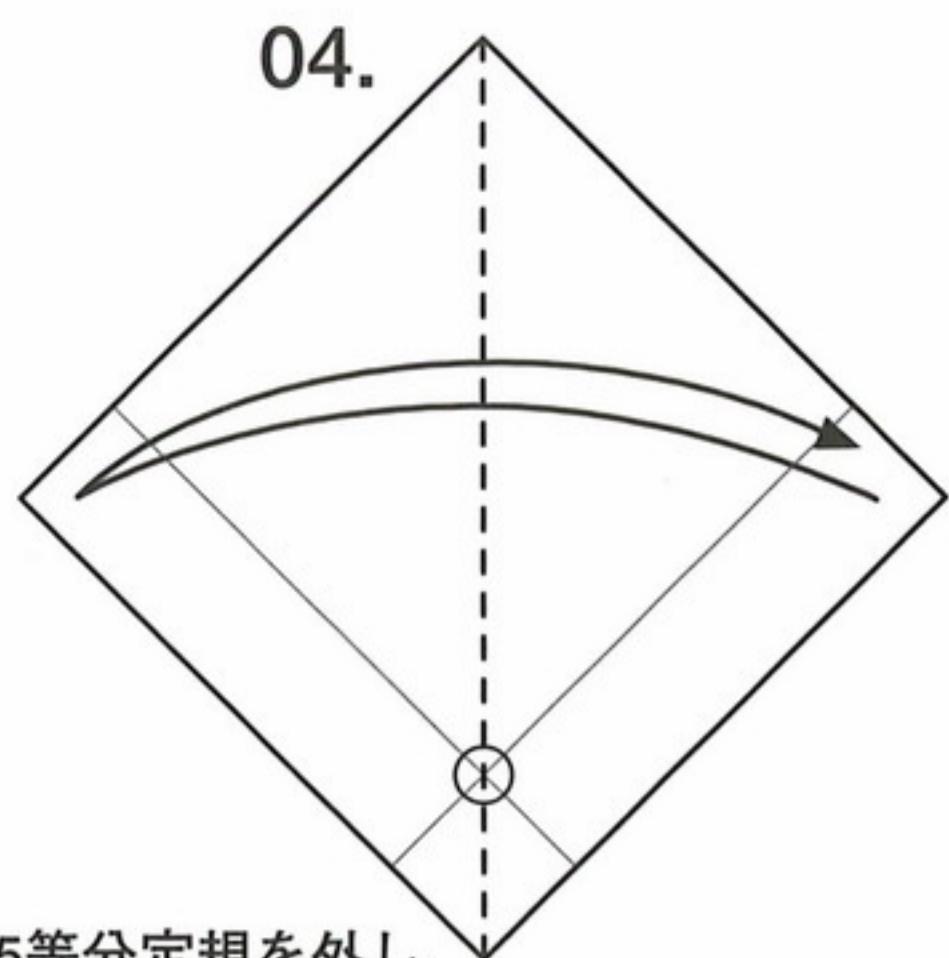
5等分定規に
奥まではさみ込む。



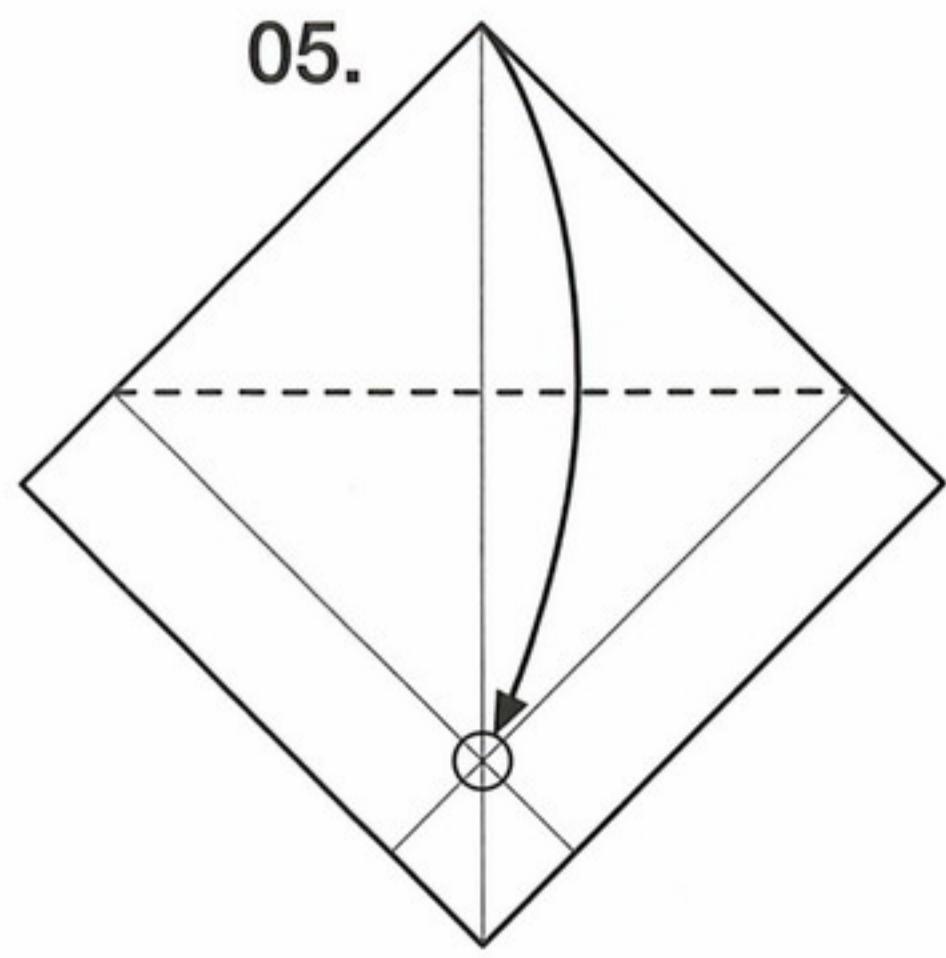
フチとフチを
合わせて折る。



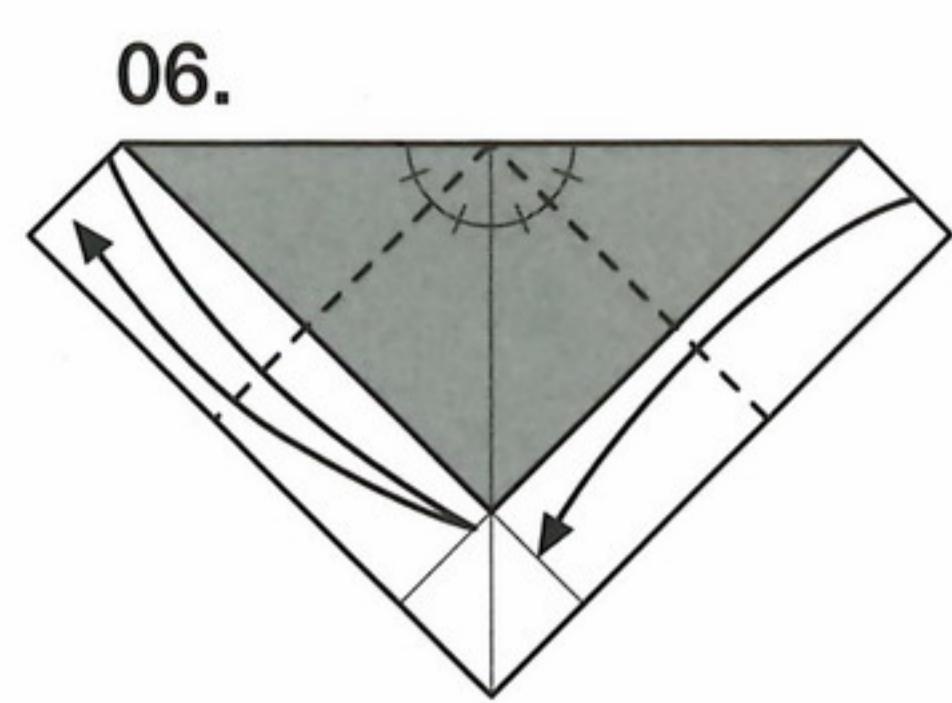
さらに5等分定規を使い
02工程の線とクロスする
折り線を付ける。



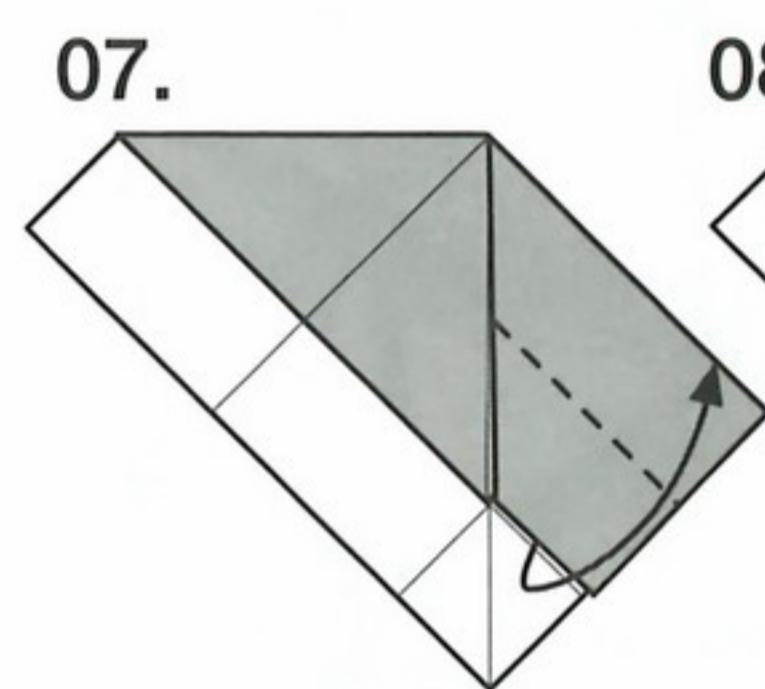
5等分定規を外し、
○印交点を通る
対角線を折って開く。



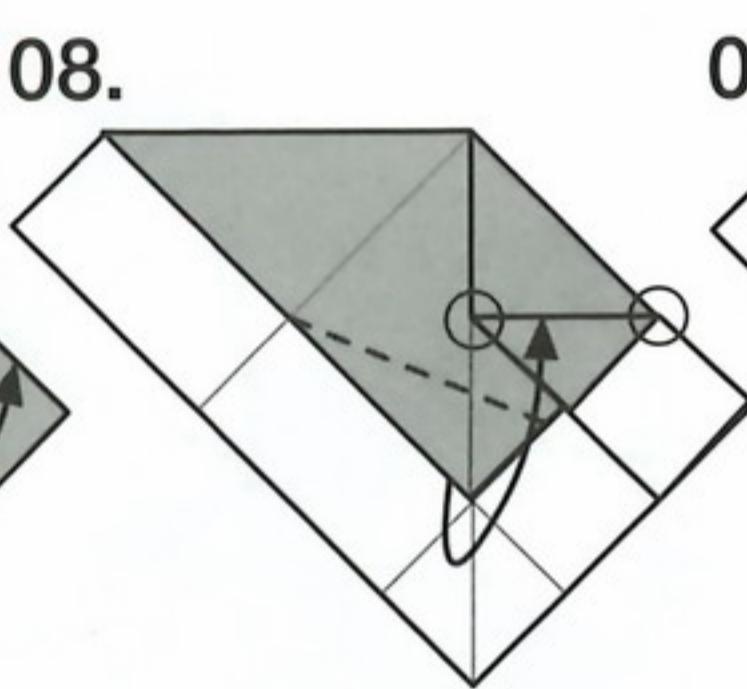
○印交点とカドを
合わせて折る。



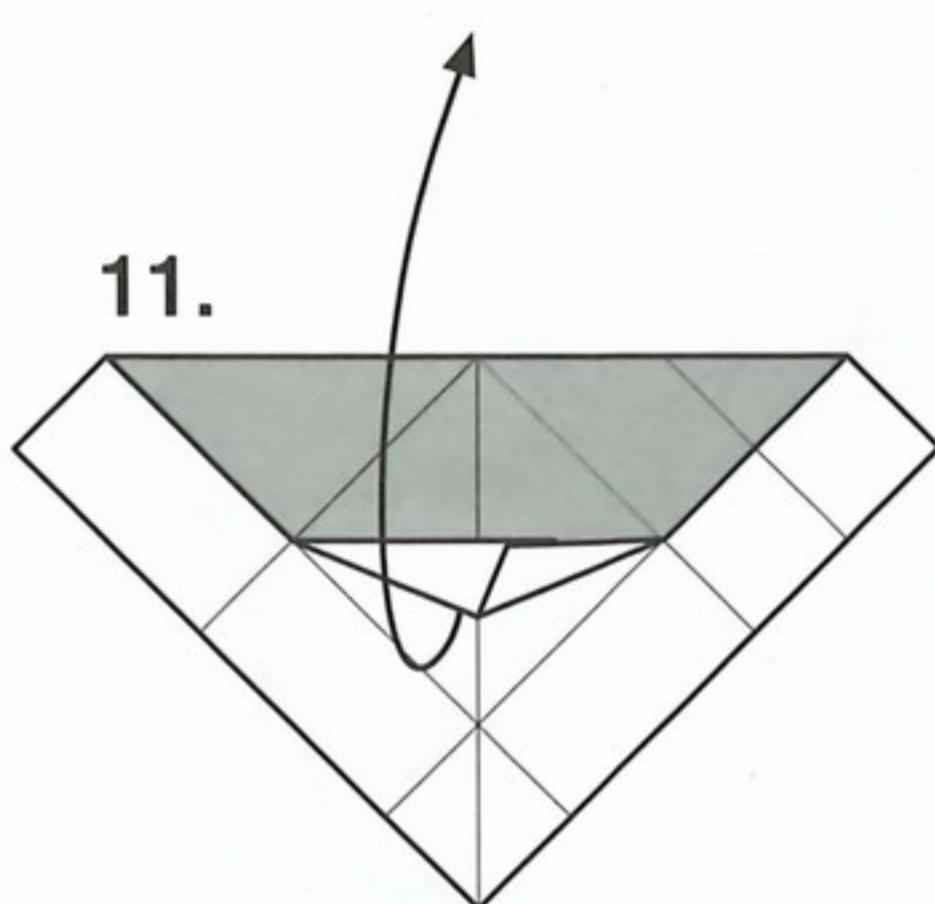
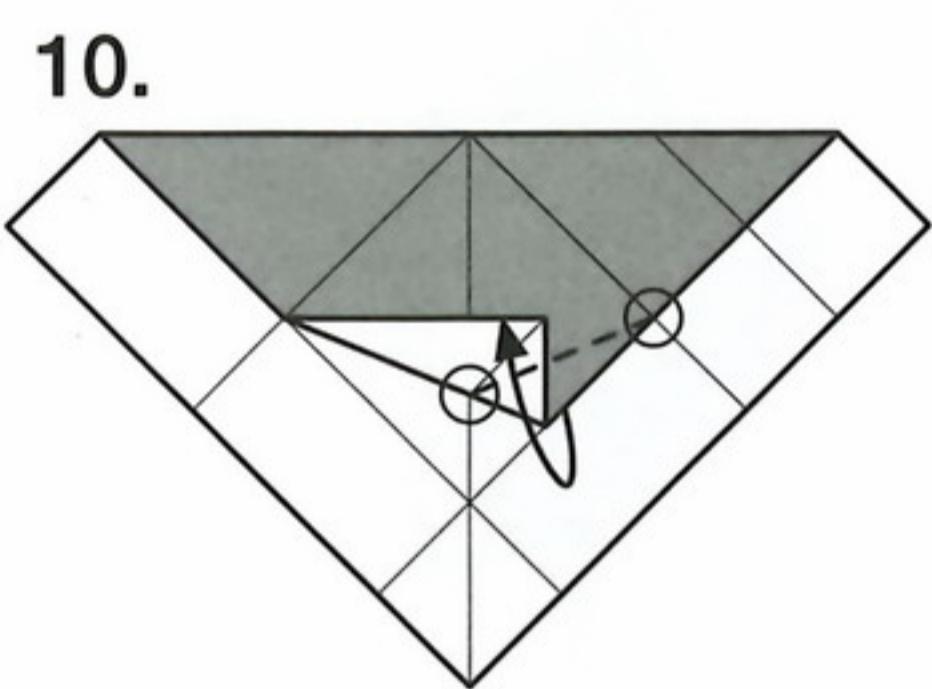
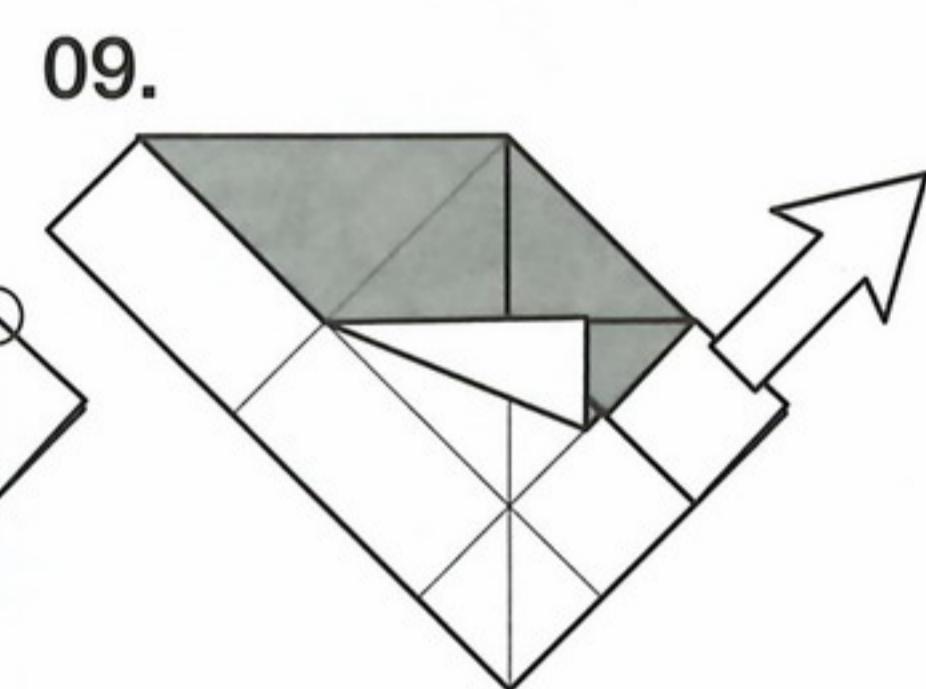
片方は開く。



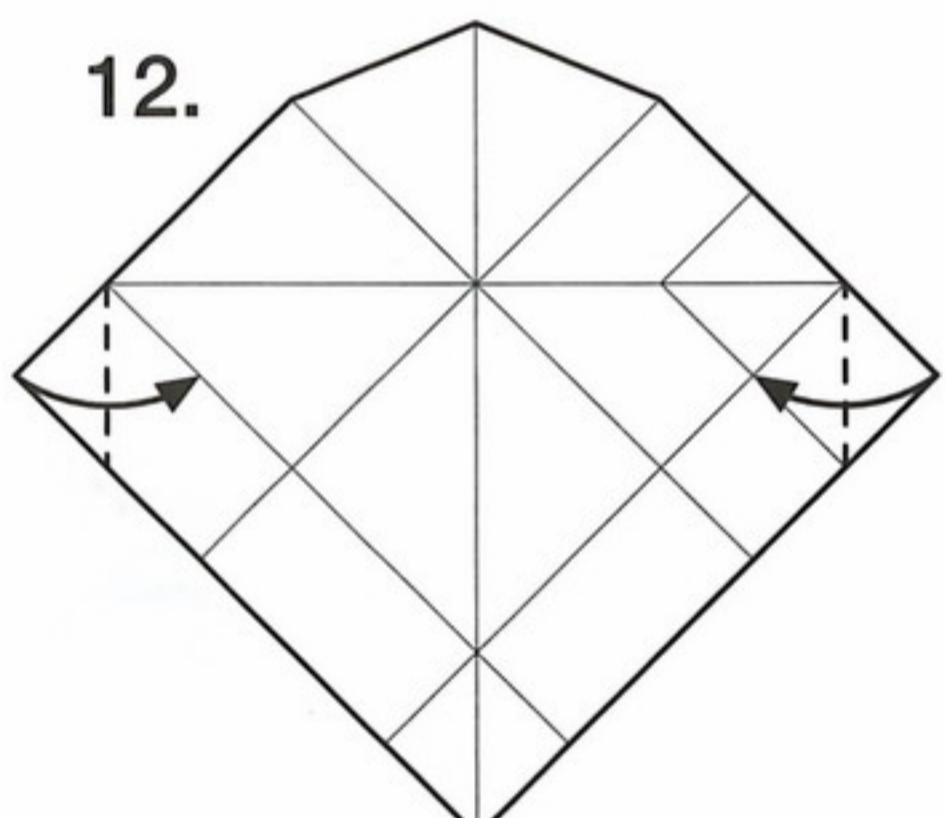
○印ラインと
フチを合わせて折る。



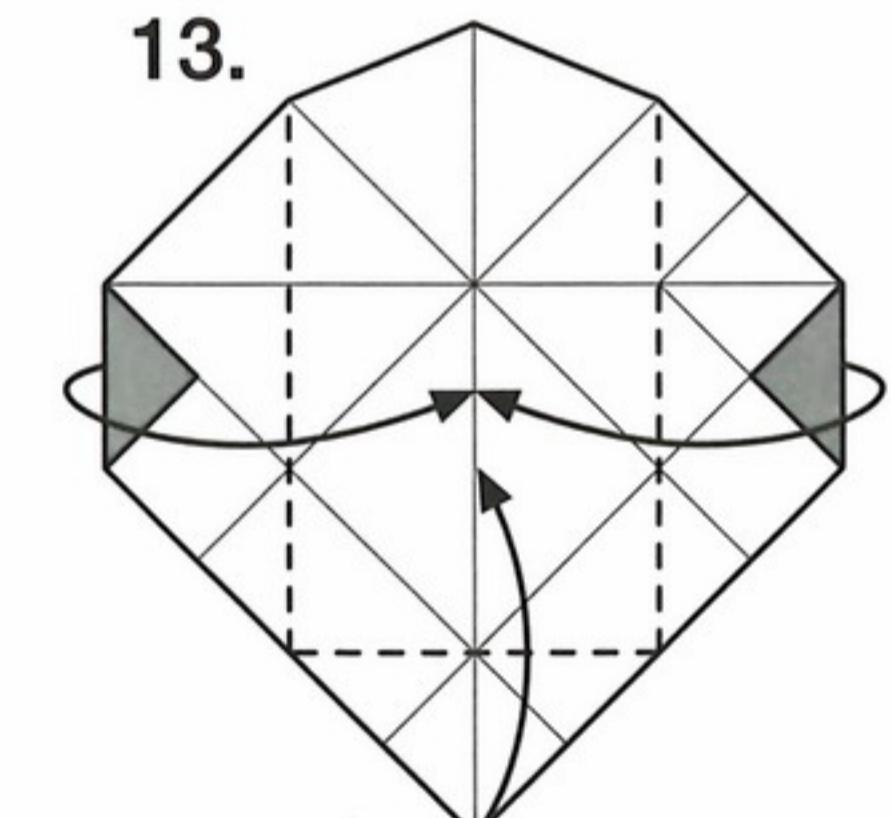
引っ張り出す。



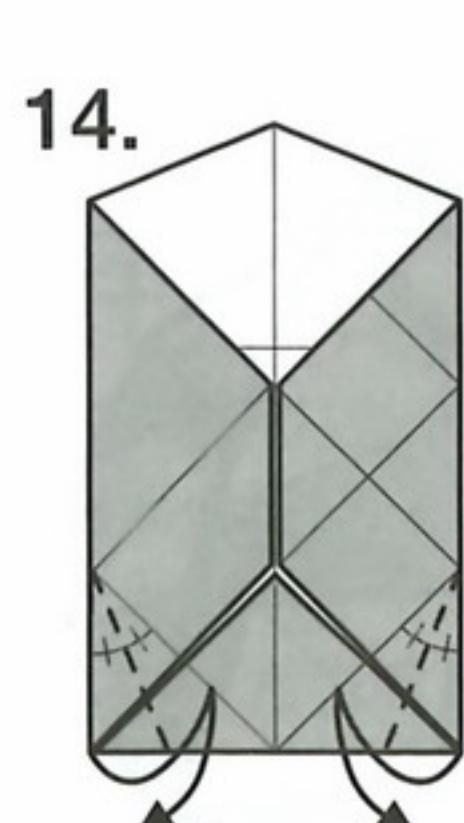
開く。



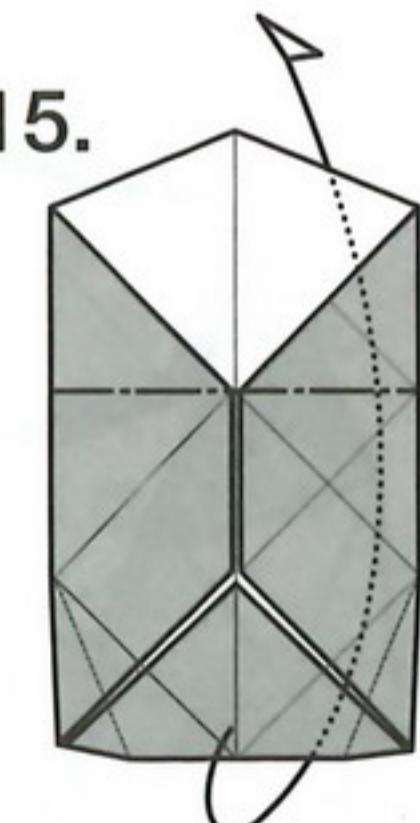
カドを折る。



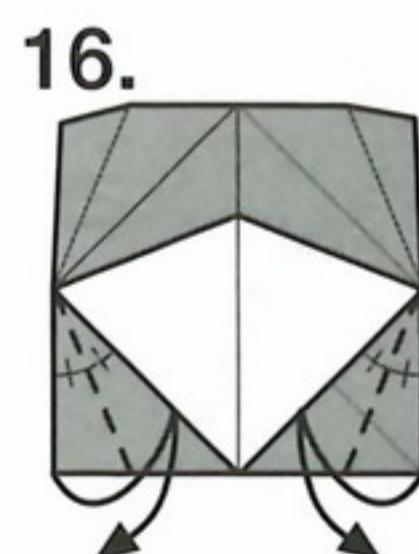
中心線に集める。



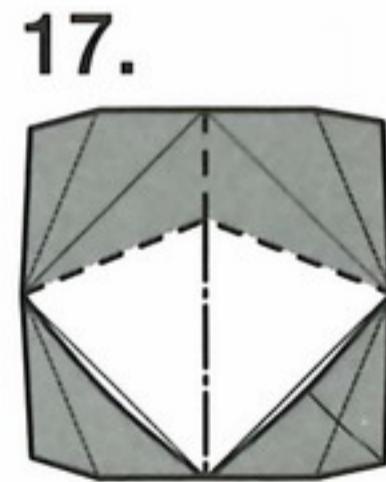
ユニットの
腕となる部位に
抜けにくくする
ための加工。



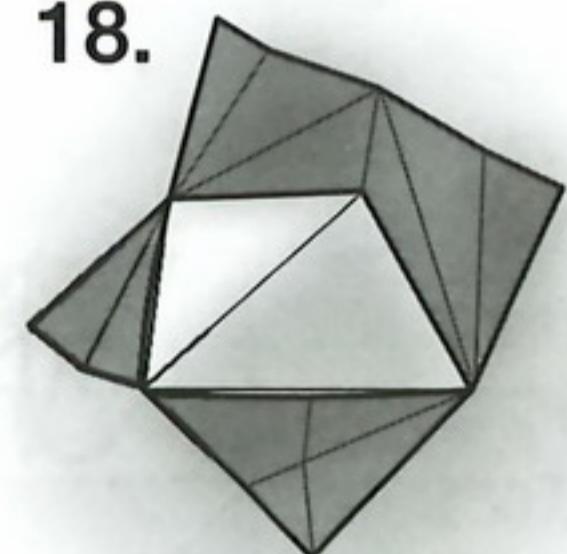
後ろへ
折り上げる。



腕と対応させる
ためのポケット加工。

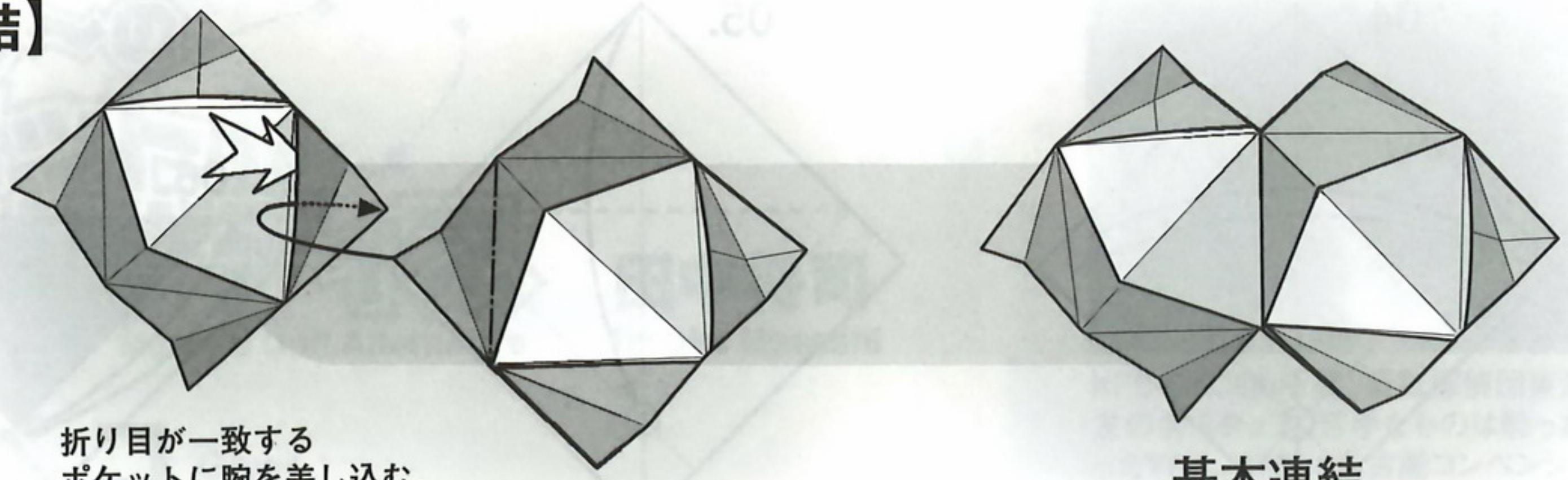


図の山谷を付け
立体化。



ペコ・パート

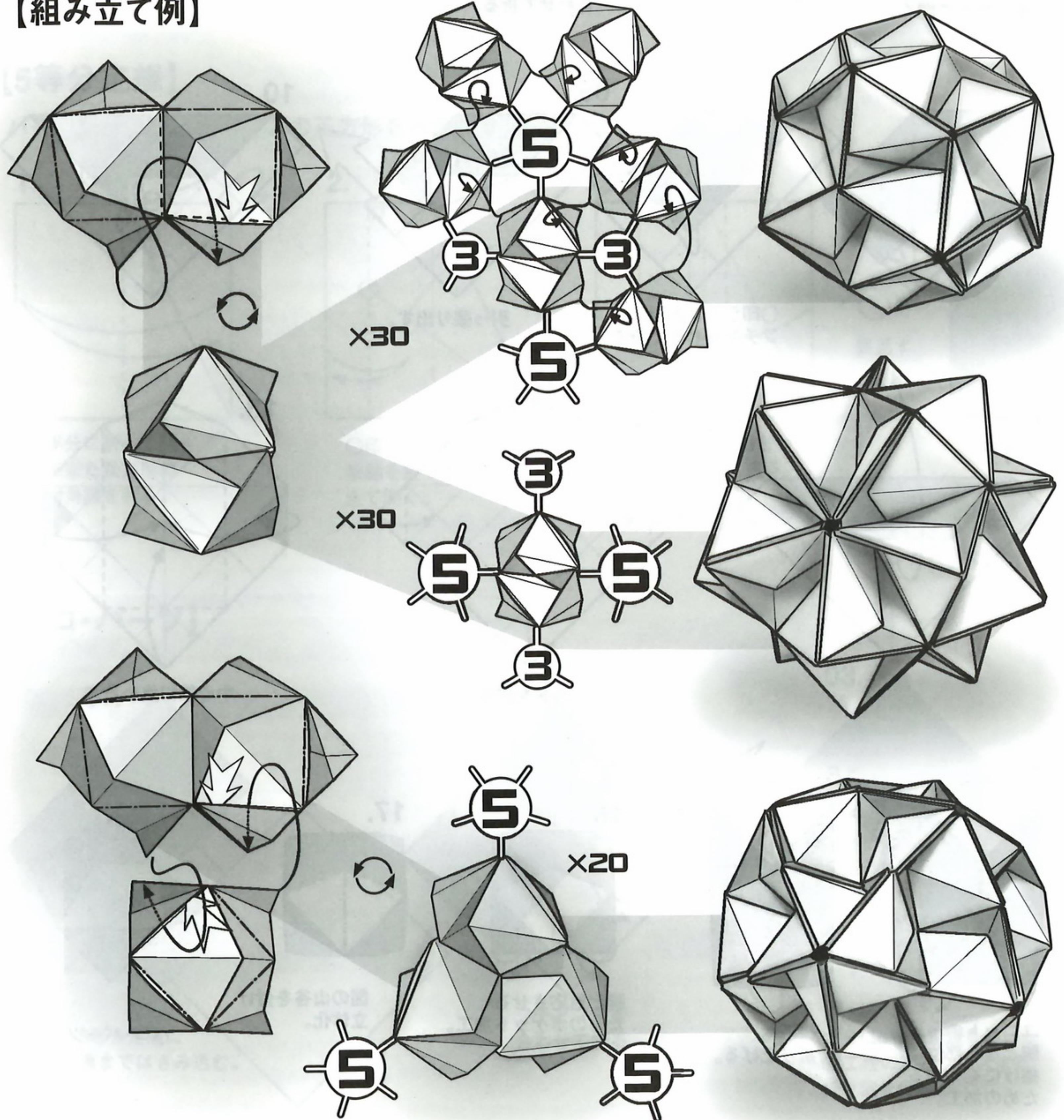
【基本連結】

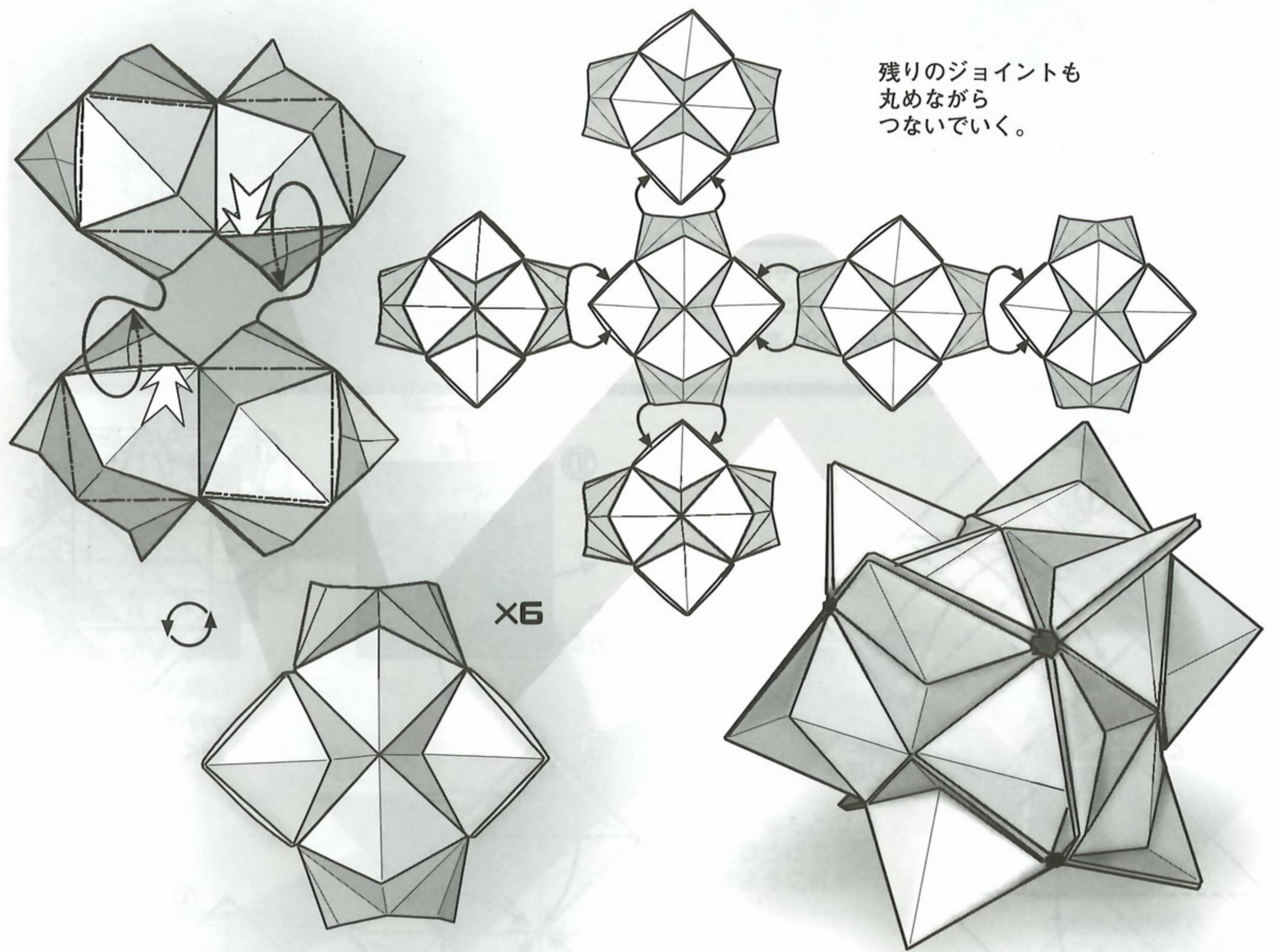


折り目が一致する
ポケットに腕を差し込む。

基本連結

【組み立て例】





残りのジョイントも
丸めながら
つないでいく。

折り紙の 周辺

第24回
1500円と30万円
Can 1,500 yen
Become 300,000 yen?

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

宅配便で届いた新刊本の撮影済みの作品が壊れていた。段ボール箱に注意深く梱包され、上面と側面の計5か所に『上積厳禁』と赤字で大きく書いてあるにもかかわらず、上に何か相当重い箱をのせたような跡がくっきりついていた。重さでへこんで中の作品がつぶれたのは明白。業者の明らかなミス。撮影済みだったのは幸いだった。どうしようか迷ったが、出

版社の担当に次第を告げた。やがて地元業者から連絡があった。ごめんなさいだけで済ますのは、送り返してくださいとされた編集者の手間に対しても失礼だし、何より折り紙作品に価値がないことになる。破損保証の請求をすることにした。出した側の東京からまた連絡があるという。そこで困ったのは作品の値段をどうつけるか。壊れたのは9点。作品は手の込んだものでなく、レベル的には伝承の「升」程度が4点。ユニットの箱が5点。やがて連絡があり「で、どれくらいの価値のものなのでしょう?」保証の上限が30万円ということは、初めに連絡してきた地元業者から聞いていた。「いろいろ考えたのですが1点1500円という勘定にしました」と、電話の向こうで明らかにほっとした声がした。「では、書類を送ります」

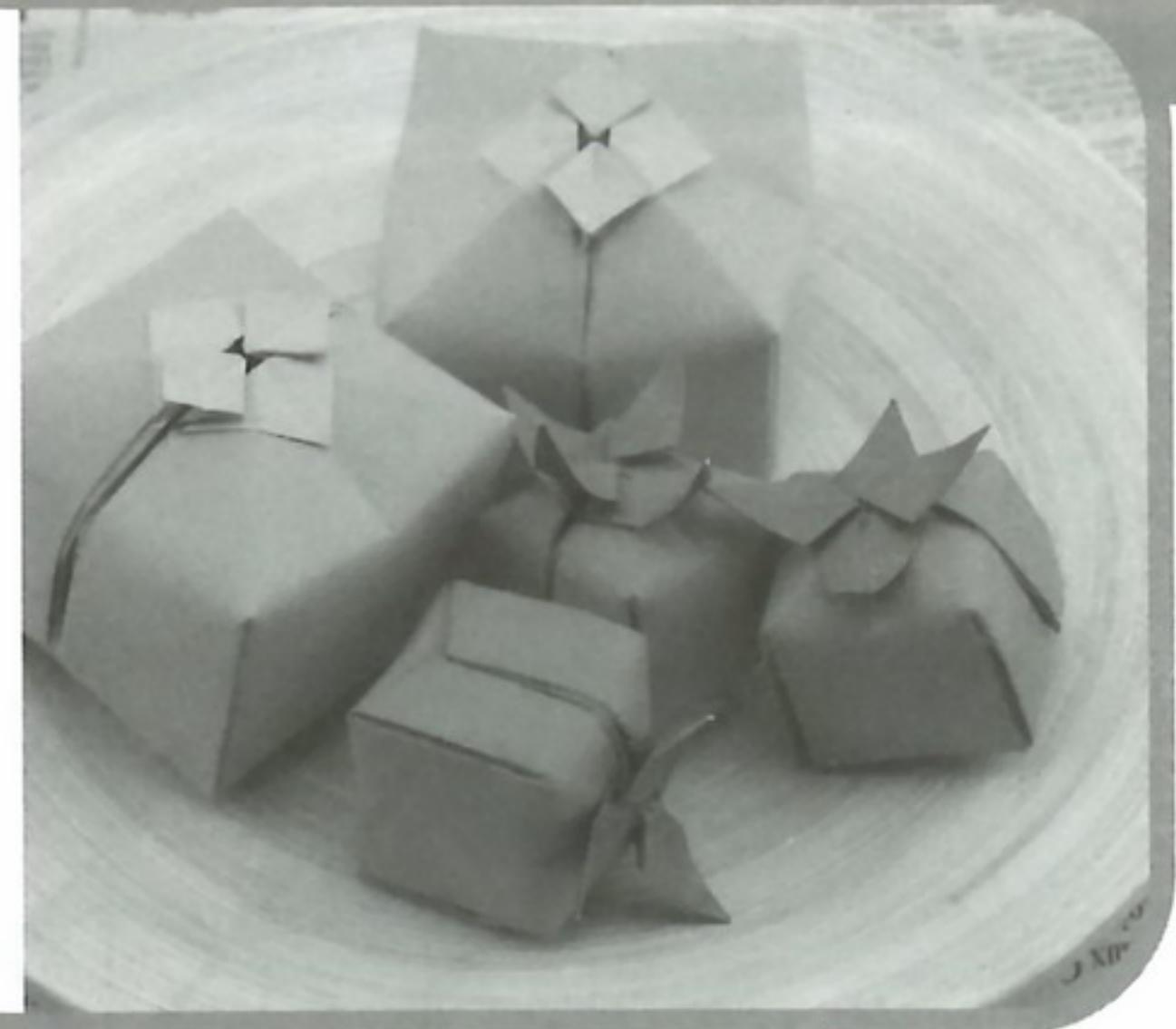
タロ氏と版画の場合だったらどうするか、額面だけのものか、と頭をひねったけれど、私はこれでいいと判断した。やりとりの中で、撮影前だったら値段は多少変るでしょうけれど、とも言った。復元に技術と時間が必要な作品、だれでも短時間に折れる作品、折り手順が面白い作品。折り紙作品はひとくくりにできない。

また最近『平織り』作品の値段を聞かれて、例の金額が頭にあったせいか、「30万円」と答えた。本音はたいそう手間をかけた大作で、同じものを作る気もしないし売る気もないから。でも待てよ、それが破損して保証金30万円受けたとしても、きっと気持ちはおさまらないだろう。売れてだれかが持っているのと破損とではずいぶん違う。

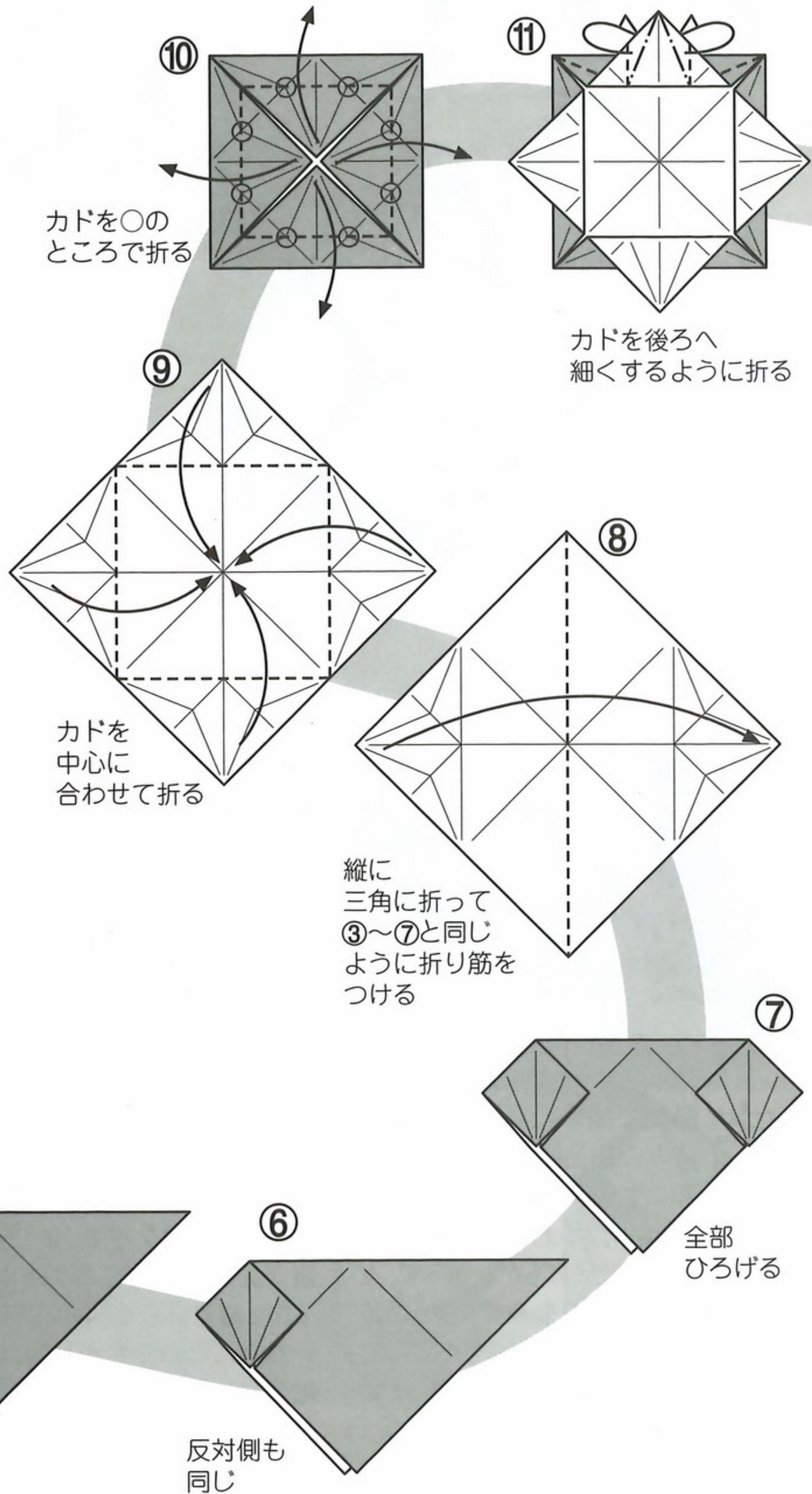
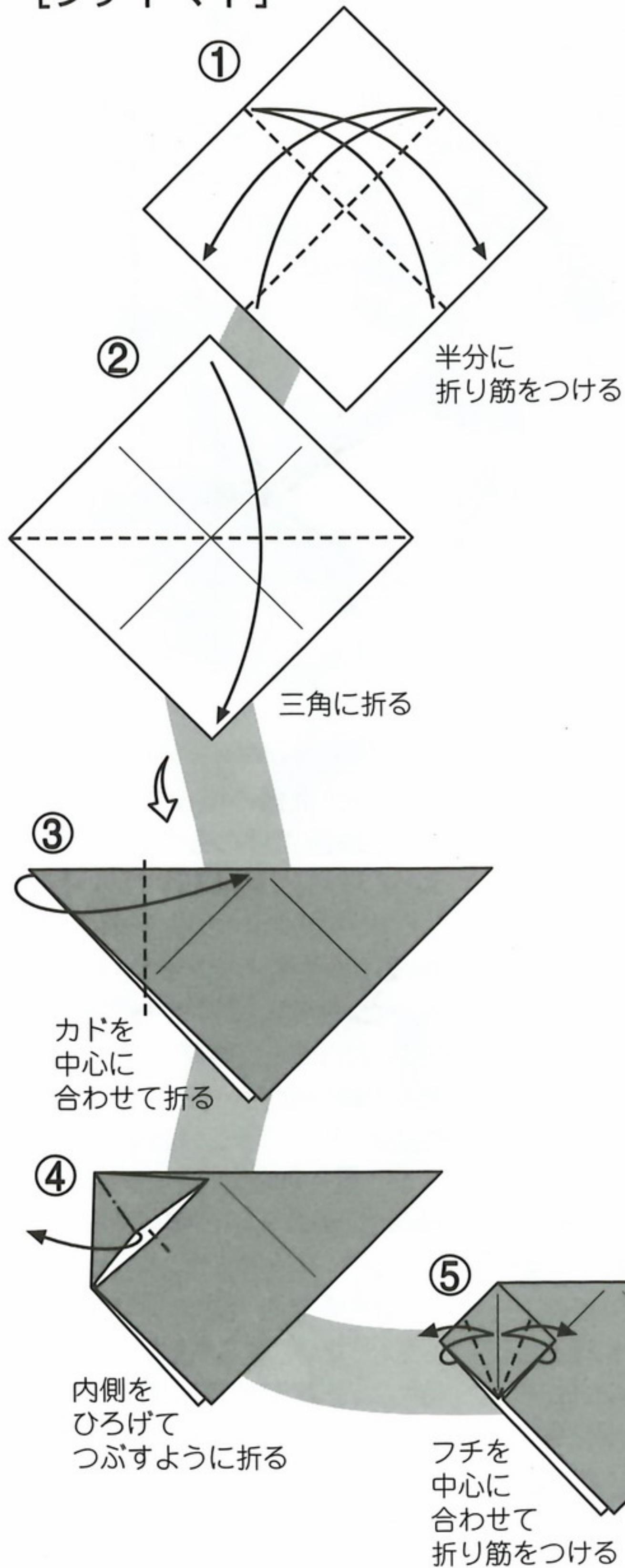
第25回 プチトマトとみかん

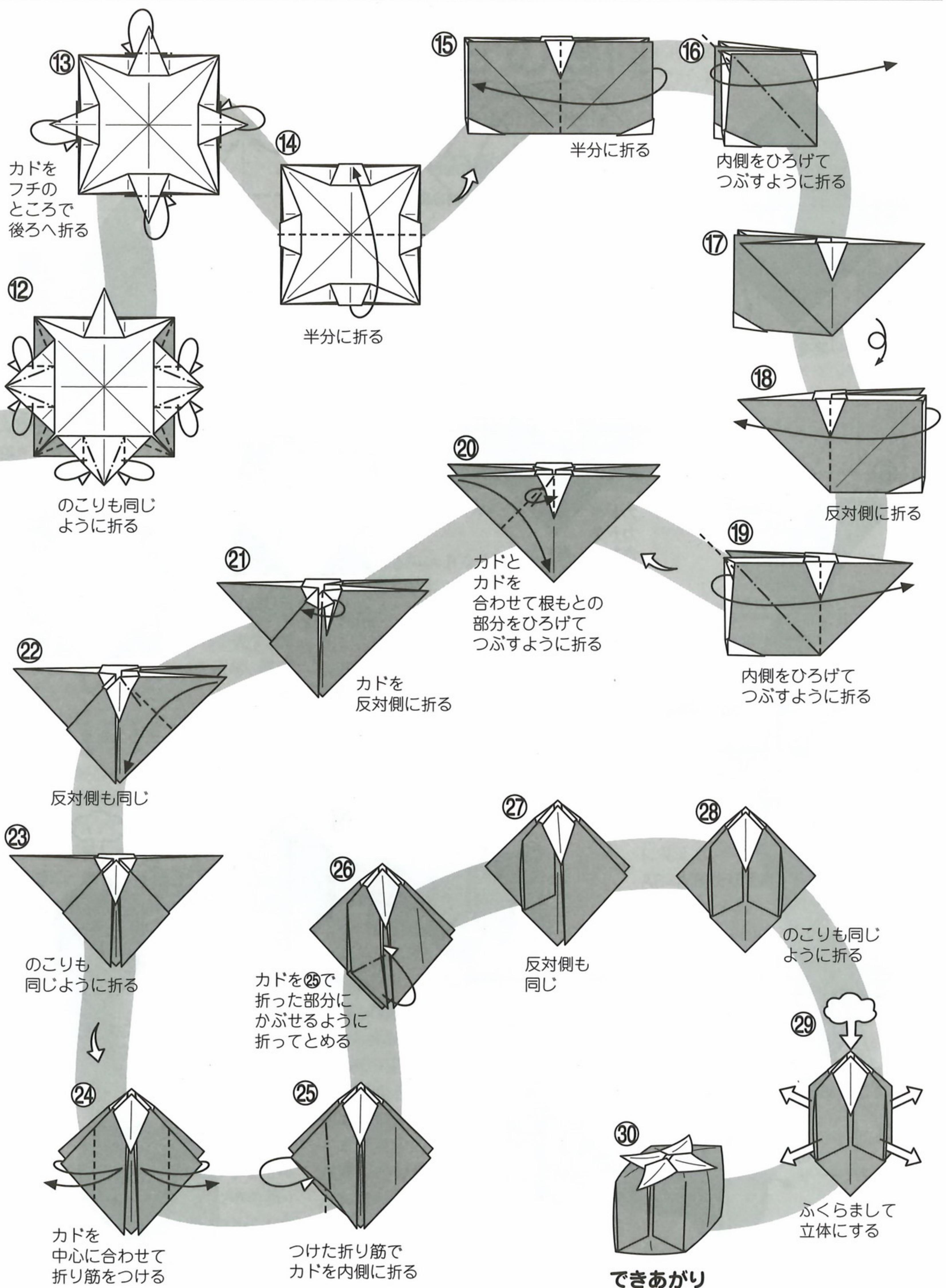
Cherry Tomato and Mandarin Orange

立体的な野菜・果物を考えている時に、思いつきから伝承作品の「風船」をざぶとん折りをしてから折ったらうまくヘタを折り出すことができました。今回はそのバリエーションの中からプチトマトとみかんを紹介します。

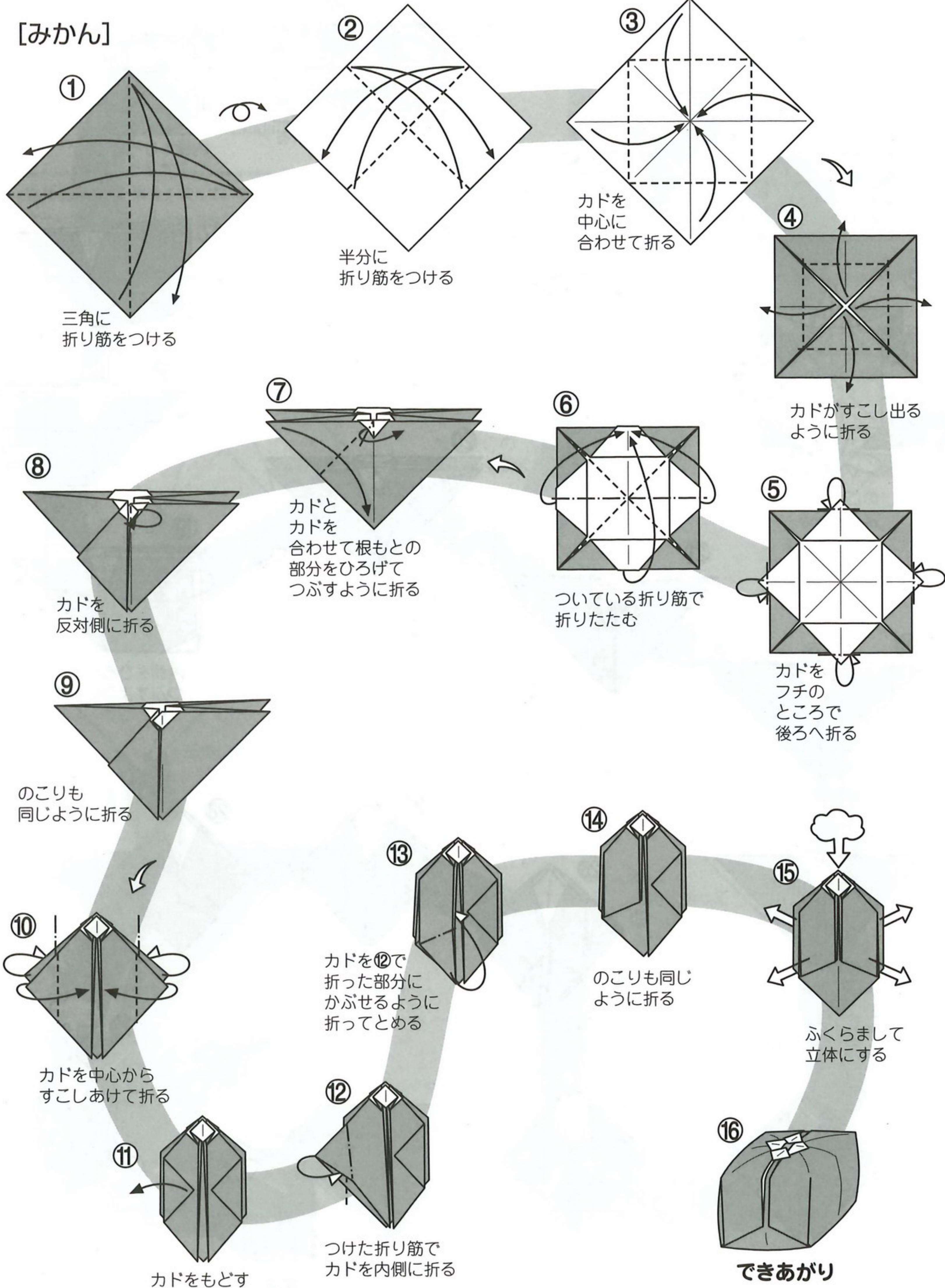


[プチトマト]





[みかん]



AB=A'B'の幾何

A Geometrical Analysis of
AB=A'B' in Quadrilaterals

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

はじめに

2006年12月17日、日本折紙学会JOASホールにて、記念すべき第1回折り紙の科学・数学・教育研究集会が開催された。本研究は、そこで行われた館知宏氏の研究発表にヒントを得た折り畳み問題を数学的に発展させる過程を記録したものである。

毛皮模様と糊しろが印刷された紙を切り貼りして立体的な動物にするペーパークラフトをご存知であろう。館氏は、これに似たものを切り貼りせずに折って立体にすることを考えた。図1はその模式図で、グレーの三角形が毛皮模様部分、その間の四角形が糊しろを表す。糊しろを挟んで向かい合った辺は、糊づけしたときぴったり重なるので長さが等しい。氏は糊しろを図2のような線で折り畳んで辺ABが辺A'B'に重なるようにした。折ると糊しろは一つの面(壁)となって線分AB(=A'B')の下にぶらさがる。四角形ABB'A'内で折り線が完結し他の糊しろに影響しないところがミソである。氏はさらに糊しろで囲まれた部分(図1中央部)をうまく折り畳んで、模様以外の部分をすべて折り隠す方法を確立した。

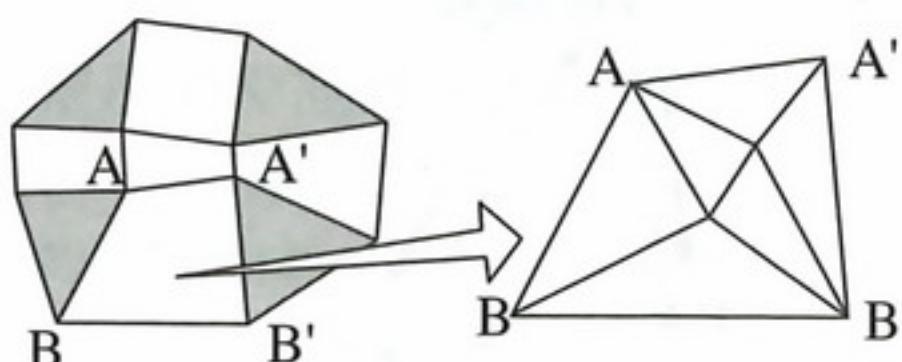


図1 AB=A'B' 図2 館氏の折り線

定式化

AB=A'B'折り問題1 AB=A'B'なる四角形ABB'A'がある。図3のような2本の折り線でこの四角形を折って辺ABと辺A'B'が重なるようにする。このような折り線をすべて求めよ。

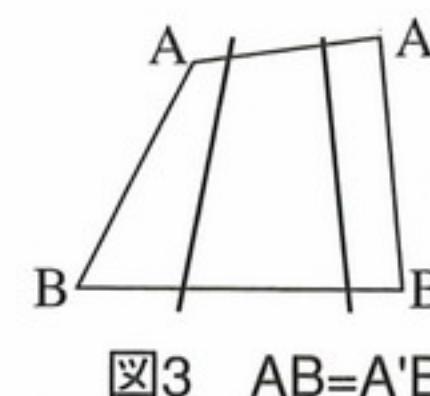


図3 AB=A'B'

この問題は、図2を元に作ったものであるが、等長辺の重ね合わせ以外、館氏の研究と共通するところがない。解いても折り紙造形に寄与する訳でもない。それでも問題が明快であり、良い結果が得られる予感がしたので、研究することにした。

実際にAB=A'B'なる四角い紙を折ってみた(図4)。点Aを点A'、点Bを点B'に合わせると、紙が筒状になる。筒をつぶすと求める折り線が得られる(図5)。つぶし方を変えると、求める折り線がいくらでも得られる。

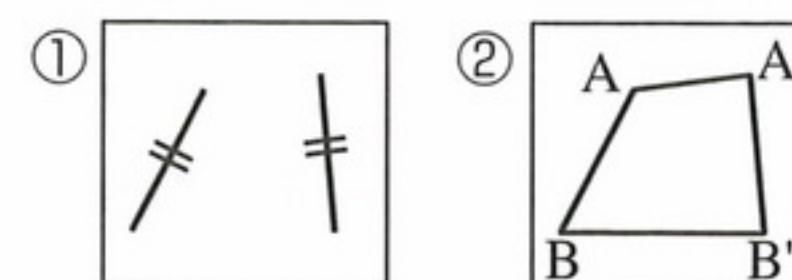
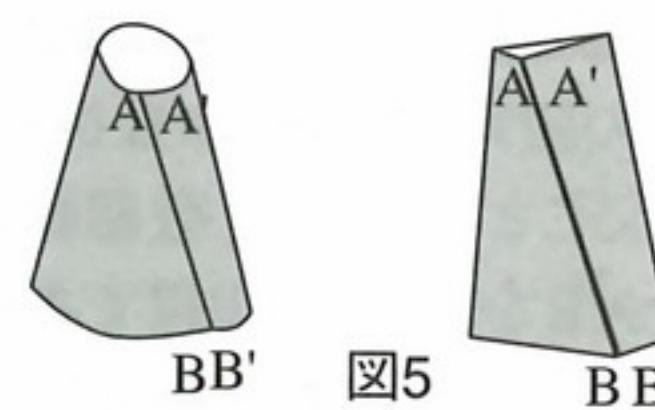


図4 AB=A'B'なる四角形の作り方



特殊解

図5の方法で問題1の答えがいくらでも得られるが、適当につぶしているため折り線の正確な位置がわからない。そこで明確な目安のある折り線(特殊解)を求ることにする。

まず点Bを点B'に合わせて辺BB'の垂直二等分線を折る(図6①)。次にA'をA''に合わせて折る(②)。するとABとA'B'が重なる(③)。辺AA'の垂直二等分線から折り始めると別の折り線が得られる(図7)。

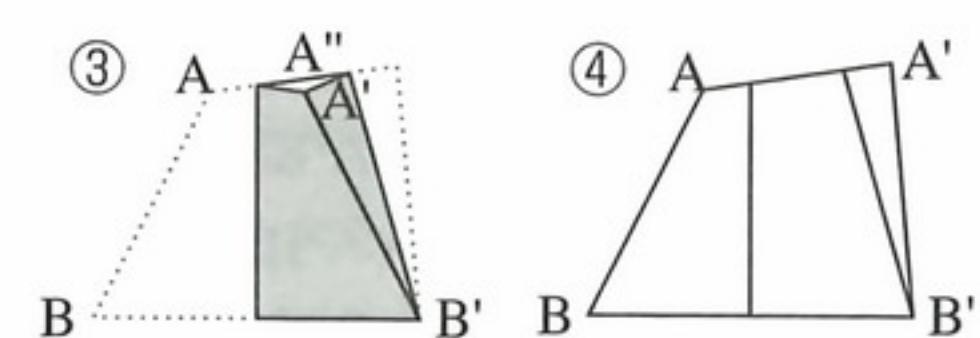
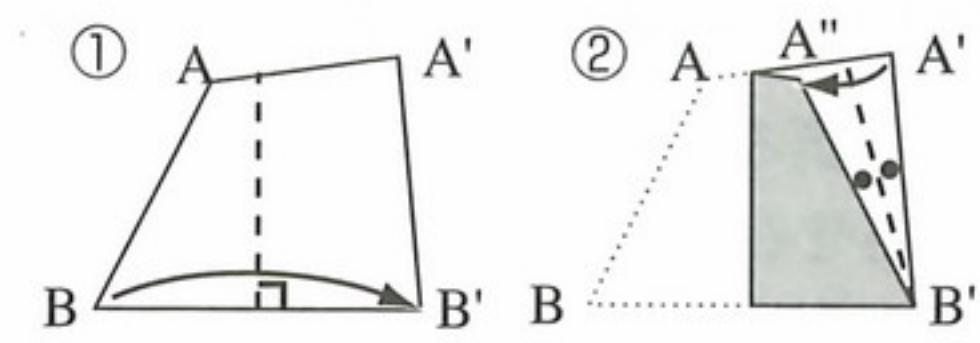


図6 特殊解1



図7 特殊解2

折り線の性質

図8は図6の折り線と辺を延長したものである。

性質1 折り線のなす角度が辺ABと辺A'B'のなす角度の半分。
に見える。そこで、
AB=A'B'折り問題2 問題1の折り線の性質を調べよ。

性質1は、図9のように角度を記入することで、中学生でも証明できる。

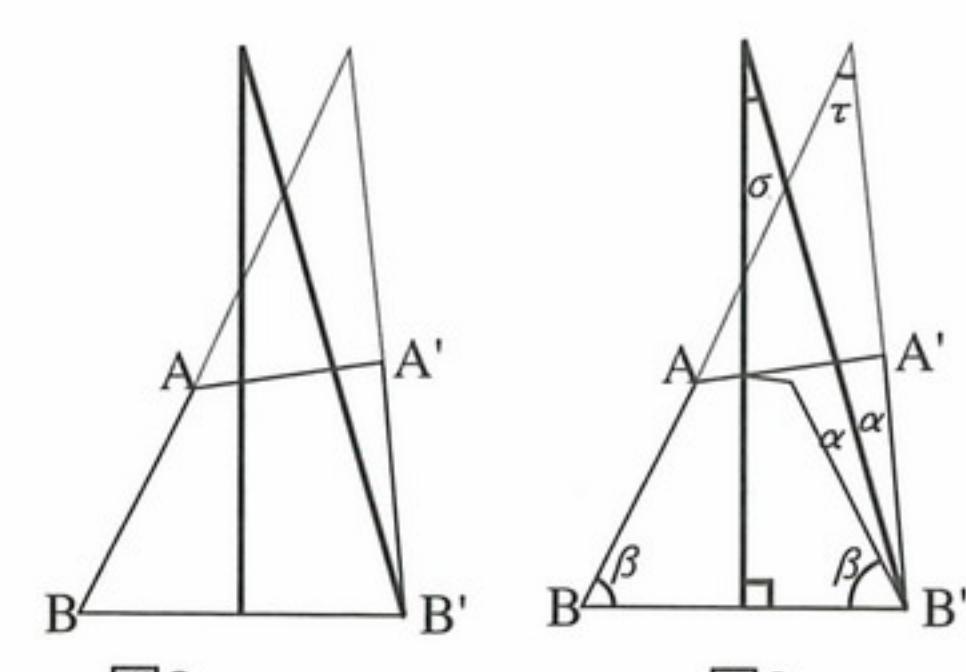


図8

$$\sigma = 90^\circ - \alpha - \beta$$

$$\tau = 180^\circ - 2\alpha - 2\beta \Rightarrow \sigma = \tau / 2$$

AB=A'B'の幾何

A Geometrical Analysis of
AB=A'B' in Quadrilaterals

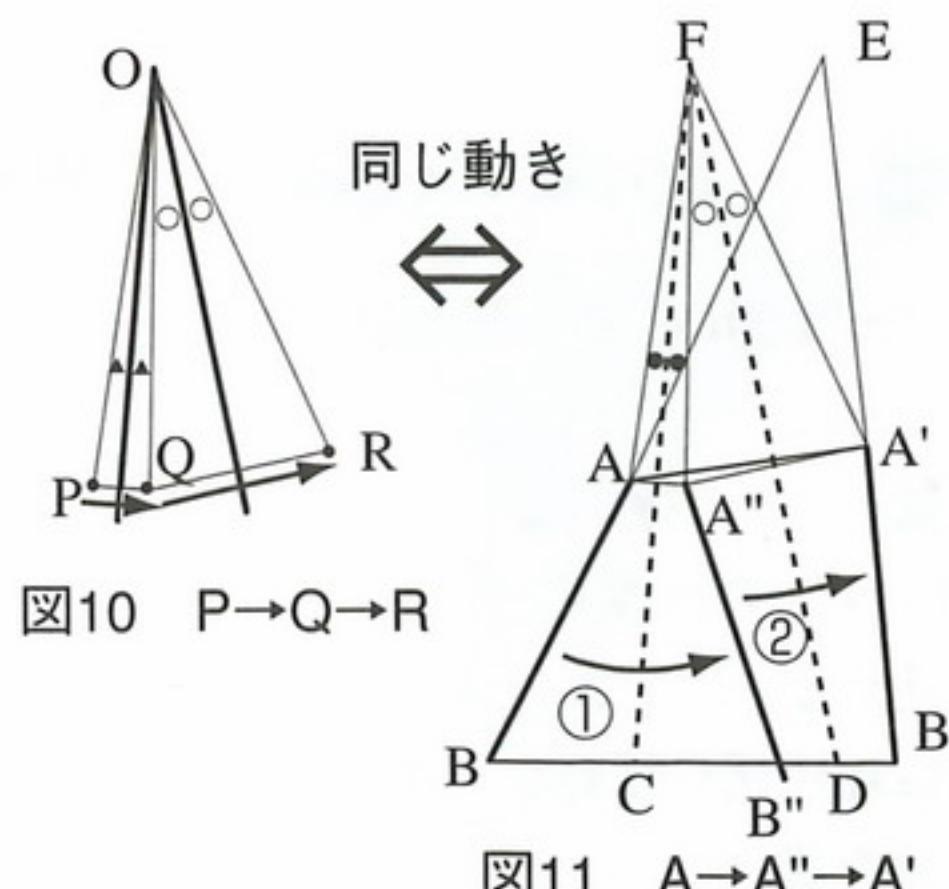
川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

性質1の本質

紙を折ることは、折り線に関して対称移動させることである。図10は線対称移動を2回くり返したもので、対称軸のなす角の2倍回転して、点Pが点Rに移っていることがわかる。

図11は線分ABを線分A'B'に重ねる折り線である。A→A''→A'やB→B''→B'は図10と同じ動きをするので、線分AB→線分A'B'は∠CFDの2倍の回転移動になる。したがって、線分ABと線分A'B'のなす角∠BEB'は折り線のなす角の2倍になる。2つの折り=折り線のなす角の2倍回転と結びつけることで性質1の本質が見える。



回転の中心

回転の中心Fを求めよう。図11において、点F中心の回転によってFAはFA'に移動するので、 $\triangle AFF'$ は二等辺三角形($FA=FA'$)になる。二等辺三角形の底辺の垂直二等分線は頂点を通るので、回転の中心Fは辺AA'の垂直二等分線上にある。同様にFは辺BB'の垂直二等分線上にあり、Fは垂直二等分線の交点になる。

回転の中心Fは折り線の交点として登場した。したがって折り線のとり方に依存する。ところが辺の垂直二等分線

の交点は、折り線とは無関係に四角形ABB'A'だけで定まる。そこで、

性質2 AB=A'B'折り問題1の解(折り線)はみな一点を通る。

性質3 性質2の点は辺AA'、辺BB'の垂直二等分線の交点になる(図12)。

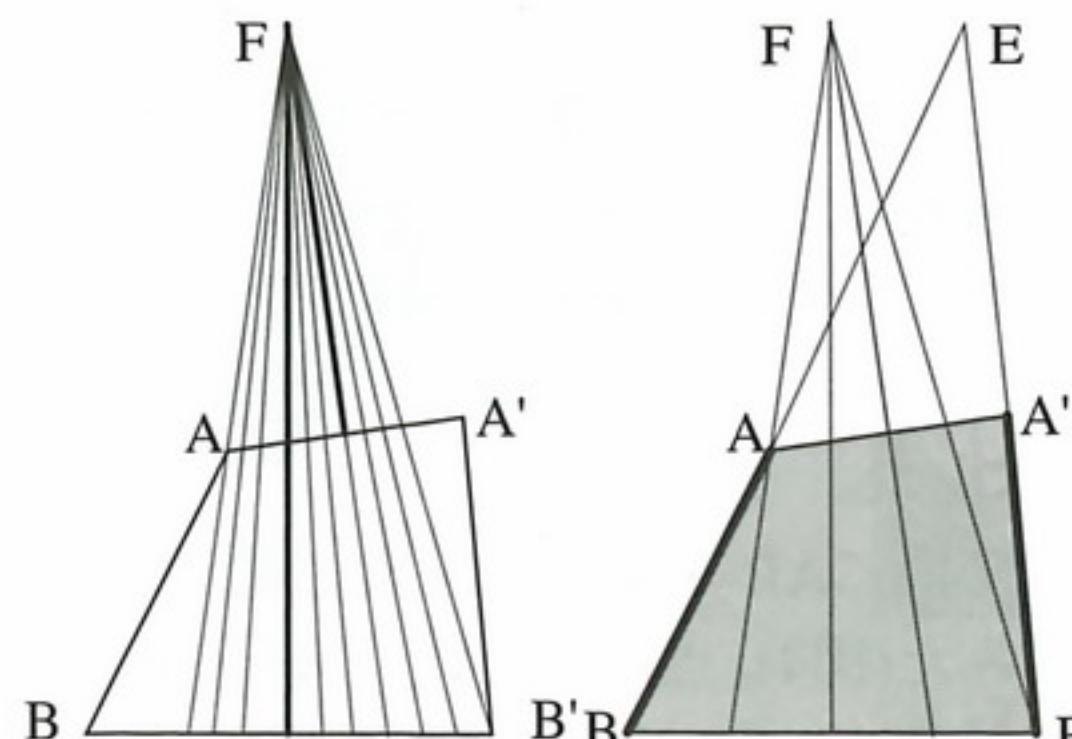


図12 折り線の交点 図13 2つの中心

なければならない。以上をまとめると、

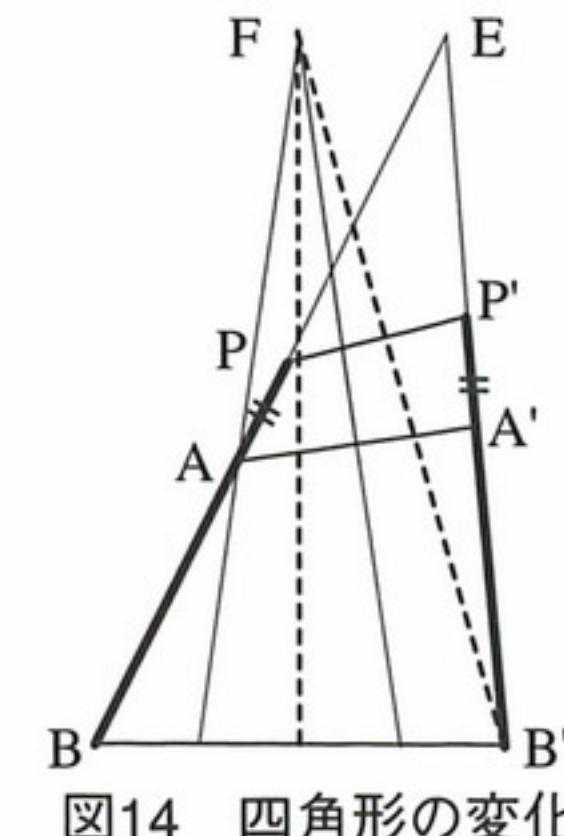


図14 四角形の変化

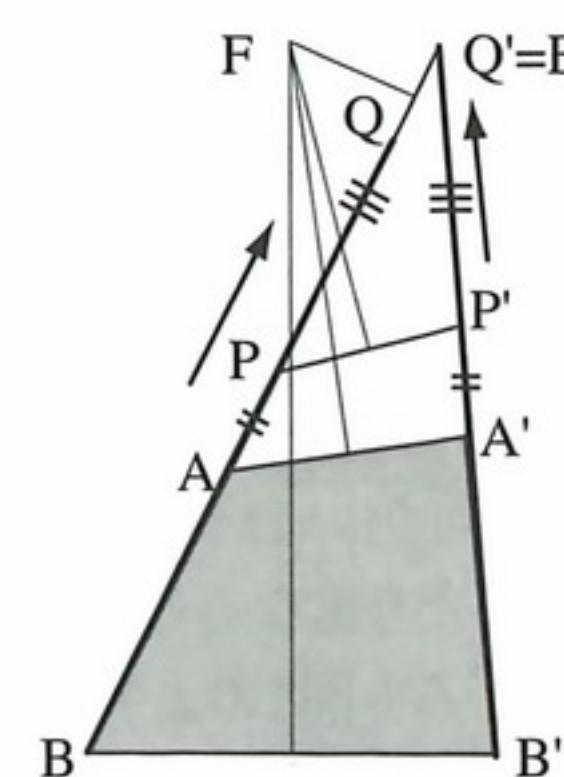


図15 ∠BEB'で考える

AB=A'B'折り問題には、回転の中心Fと辺の延長線の交点Eという2つの中心がある。これら2点の間に何か関係があるに違いない。

2辺AB,A'B'を点E方向に等長延長して四角形PBB'P'を作る(図14)。PB=P'B'だから、この四角形でPB=P'B'折り問題を考察することができる。破線は線分ABと線分A'B'を重ねる折り線であるが、この線で四角形PBB'P'を折ると、線分AB,A'B'を含む2辺PB,P'B'もまた重なる。これは、AB=A'B'折り問題が、四角形ではなく∠BEB'で考えるべきものであることを意味する。

点P,P'を点Eに向かって等速で移動する動点と考える。動点はやがて点Eに到達する(図15)。そのときのP,P'をQ,Q'と表すと、 $\angle Q=180^\circ$ であるため四角形QBB'Q'は三角形にしか見えないが、線分QQ'は四角形の一辺である。したがって辺QQ'の垂直二等分線は、辺AA'やBB'の垂直二等分線同様に、点Fを通ら

定理 図16のような定点Oと $\angle O$ と定点O'がある。動点P,Qがそれぞれ点O,O'を出発して、等速で点Oから遠ざかる。時刻tにおける動点P,QをそれぞれPt,Qtと表す。このとき、

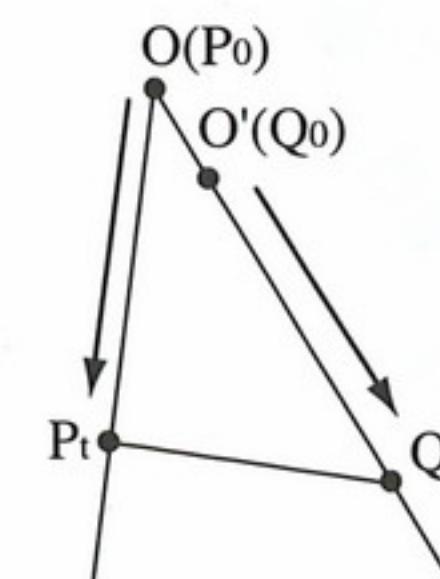
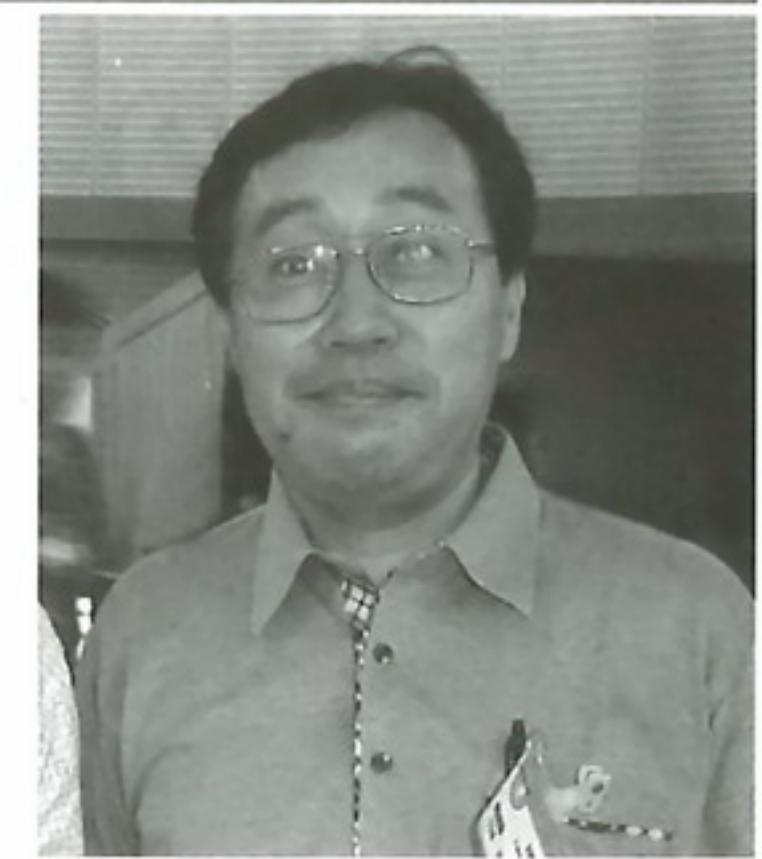


図16 AB=A'B'折り問題の別表現

性質3' 線分PtQtの垂直二等分線は、時刻tに依らず定点を通る。以下、この定点をFと表す。

性質4 点Fは、線分OO'の垂直二等分線と $\angle O$ の外角の二等分線(太線)の交点になる。

○川崎敏和(かわさき・としかず)=阿南高専准教授。高校時代吉澤章氏の白鳥と出会い折り紙に魅せられ、大学入学後折り紙を始める。折り鶴変形理論で博士号(数理学)を取得。著書『バラと折り紙と数学と』(森北出版)、『折り紙夢WORLD』(朝日出版)など。



性質5 $\angle O$ の半分の大きさの $\angle F$ (破線)を作つて、この線で四角形 $PtPsQsQt$ を折ると、辺 $PtPs$ と辺 $QtQs$ はぴったり重なる。

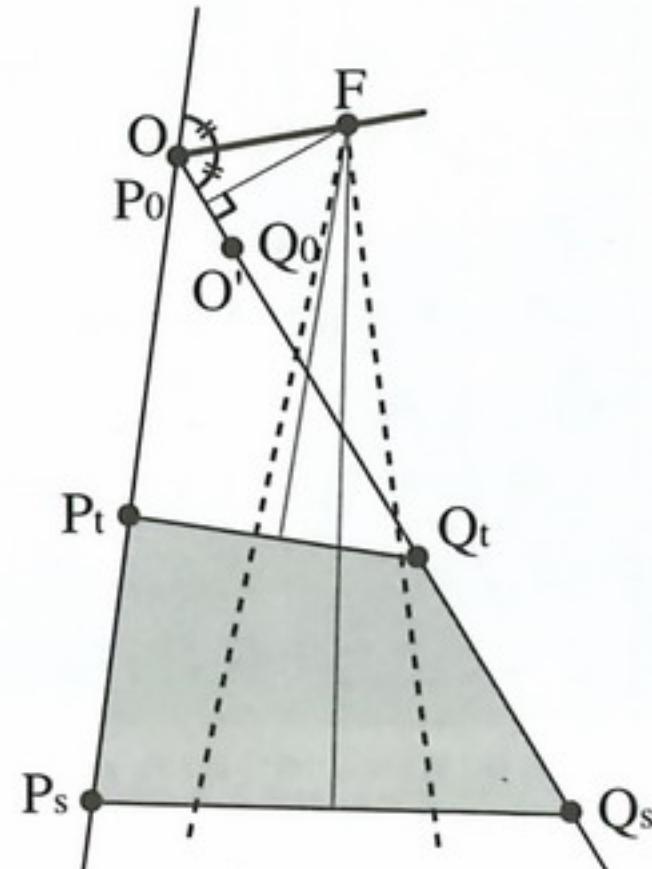


図17 AB=A'B'折り問題の解

証明 性質4以外は証明済み。点Fが線分OO'の垂直二等分線上にあることも証明済み。したがつて、点Fが $\angle O$ の外角の二等分線上にあることを示せば証明が完了する。

ちょっと変わつた証明をしよう。点Qが線分OO'の中点にくるまで時間をもどす。この点を Q_0 と表す。この時、点 P_0 は点Pの位置にある。線分P-Q₀は、線分PtQtと同じ役割を果たすはずである。この線分の垂直二等分線は $\angle O$ の外角の二等分線であるから、性質4が成り立つ....はずである(図18)。

補助線や座標を入れて計算すれば厳密な証明はできる。レベルは東大入試程度。興味ある人は挑戦されたい。

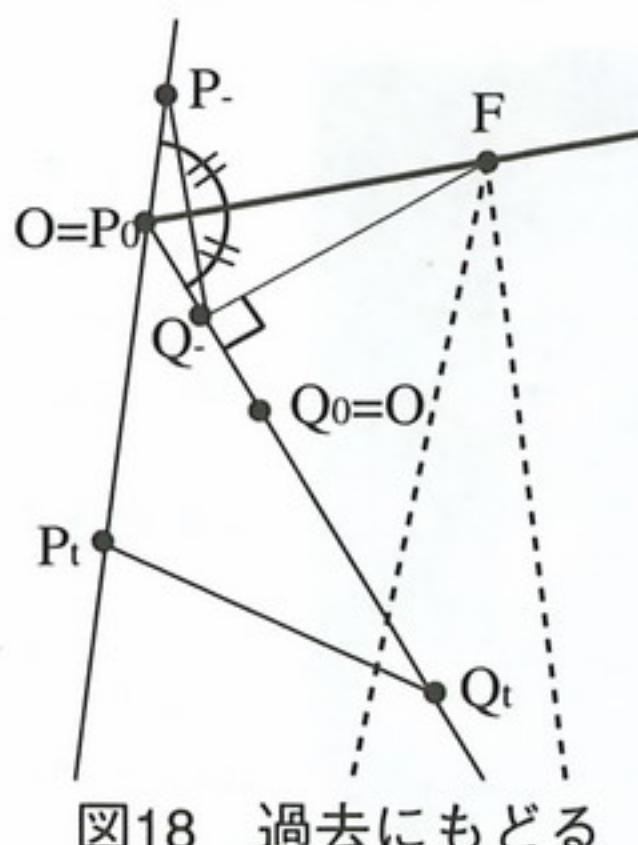


図18 過去にもどる

前川氏の質問

第8回関西コンベンションにおいてAB=A'B'折り問題の研究発表を行なつたとき、前川淳氏から次の質問を受けた。

質問 辺ABと辺A'B'が平行の場合はどうなるか?

このケースでは、四角形は平行四辺形となり、辺を延長しても交点はできない。つまり図13の点Eは無限遠点となる。交点Fを与える2直線(辺AA',BB'の垂直二等分線)も平行で、点Fは無限遠点になる(図19)。さらに $\angle F=\angle E/\sqrt{2}$ は次のように姿を変える。

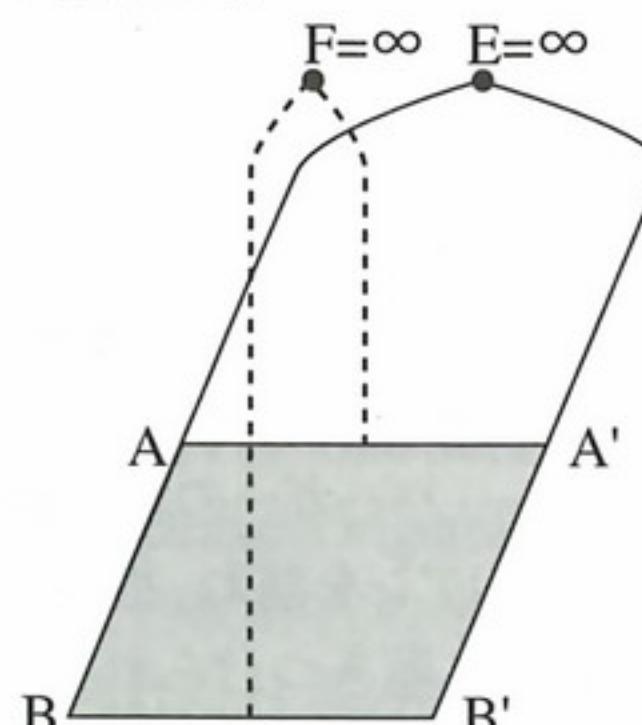


図19 平行四辺形の場合

性質6 辺AA'に垂直で辺AA'の半分の間隔を持つ2直線で平行四辺形ABB'A'を折ると、辺ABと辺A'B'はぴたり重なる(図20)。

なす角0の平行線に対しては、線の間隔が角度の代役をしていることがわかる。似たことが、2点から放射状に延びる折り線による平坦折りにおける山谷問題でも起こる。興味ある方は拙著『バラと折り紙と数学と』(森北出版)を参照されたい。

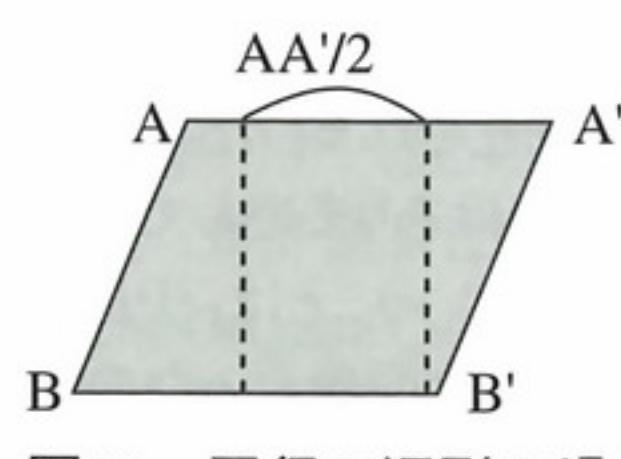


図20 平行四辺形の場合

第2回研究集会

第2回折り紙の科学・数学・教育研究集会でも指摘されたが、図17で折り線が辺QtQsを横切る場合が気になった人がいるであろう(図21)。このような問題は神経質になって考え込まなくとも、AB=A'B'折り問題が良質であればすっきりと解決するものである。

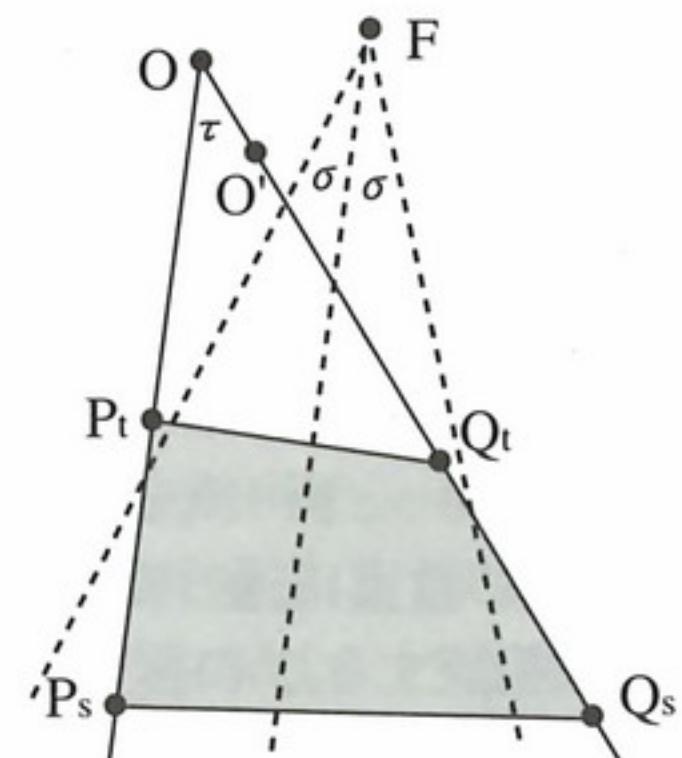


図21 折り線がQtQsを横切る

案の定、会のあとで羽鳥公士郎氏から、図21のような答えが示された。「折り線が3本だからこれは答えではない!」と反応されないことを願う。折り線がQtを通る場合、第3の折り線はPtを通る。そこで、
性質7 点Fは辺PtQtを底辺とし $\angle O$ と同じ大きさの頂角を持つ二等辺三角形の頂点に位置する。

辺PtQtに立つ等角 $\angle O, \angle F$ とくれば円周角。点Fは $\triangle OPtQt$ と $\triangle OPsQs$ の外接円の交点である(図22)。

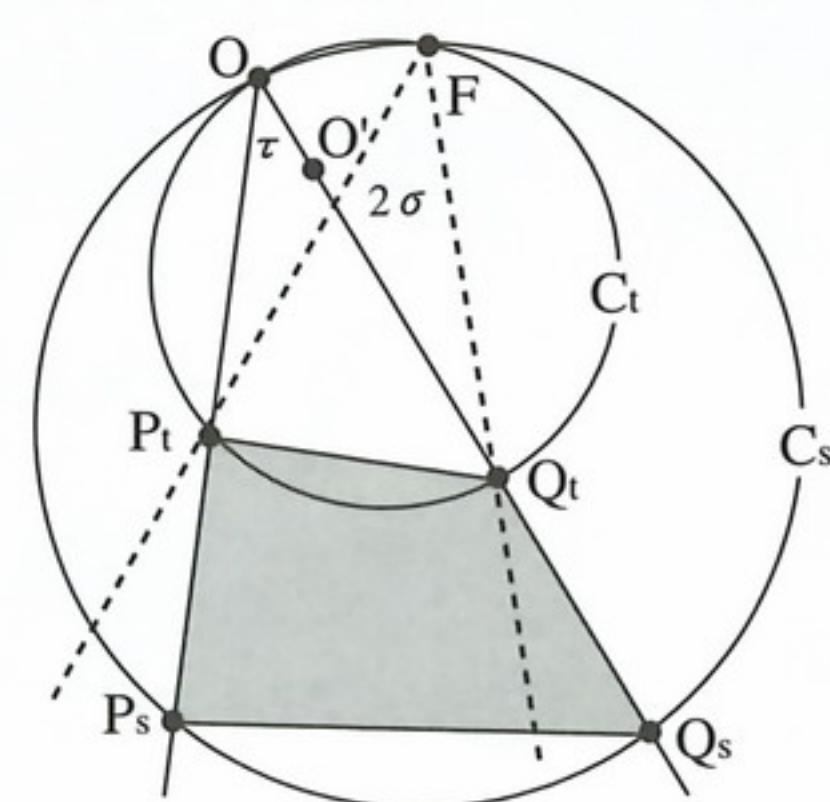
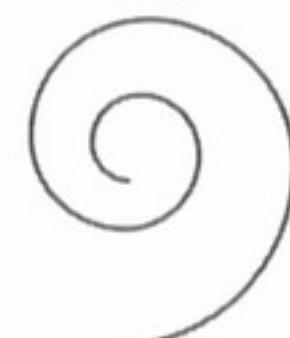


図22 外接円

過去の折り紙に学ぶ 第2回



ボアズ・シュバル 訳:羽鳥公士郎
Boaz Shuval Translator: Hatori Koshiro

Learning from the Paperfolding of the Past

リリアン・オッペンハイマー:折り紙の女王 The Queen of Origami

リリアンが初めて折り紙に接したのは、1920年代の終わりでした。そのころ、娘のモリーが髄膜炎を患っており、彼女が気を紛らわせるようにと、折り紙の本を購入したのです。ところが、モリーが快復すると、その折り紙の本は忘れられてしまいました。

1949年に、リリアンの夫ジョセフ・クラスカルが他界しました。そこでリリアンは、ジョセフのいとこジュディ・オッペンハイマーに説得されて、1950年代の初め、エミリー・ローゼンタールが開いていた夜間のクラフト教室に通うようになります(後にリリアンはジュディの父であるハリー・オッペンハイマーと再婚しました)。エミリーは教室の中で折り紙も教えていましたが、コースが終了した後で、リリアンがもっと折り紙を教えてほしいと頼むと、同じ教室に通っていたフリーダ・ローリーに相談するように言いました。フリーダは快諾しましたが、実際のところはリリアンのほうが折り紙をよく知っていました。それでも、両者は折り紙という共通の趣味を通じてすぐに親しくなり、頻繁に会って折り紙を教えあうようになりました。

リリアンの息子は、母が折り紙という新しい趣味を見つけたことを知ると、かつてリリアンが病床のモリーに見せていた折り紙の本のことを思い出しました。その本は見つかって、リリアンとフリーダの折り紙の知識は大きく広がることになりました。

1950年代の中ごろ、リリアンは出版されて間もないロバート・ハービンの本『Paper

Magic』を手に入れました。この本は、当時英語で出版されていたどの折り紙の本とも異なっていました。折り紙に対してより体系的なアプローチをとっていたのです。基本形や、中割折りや花弁折りといった標準的な折り方が紹介されていました。リリアンはこの本に夢中になり、すぐにロバート・ハービンに手紙を書きました。そこで両者のあいだで文通が始まり、その数か月後、1957年の夏には、リリアンはアメリカからイギリスに飛んでロバート・ハービンに会っています。そして、彼を通じて、吉澤章やリジヤ・モントーヤといった世界中の折り紙作家たちと文通を始め、また世界中の折り紙の本を集めようになりました。

1958年、在米日本人向け英字新聞の編集者が、リリアンの友人であるフリーダ・ローリーを通じて折り紙に興味を持つようになりました。その編集者がリリアンとフリーダを取り材し、折り紙の記事を3本掲載したところ、その連載記事がニューヨーク・タイムズの記者マイヤー・バーガーの目に留まりました。彼は自らリリアンを訪ね、彼女の折り紙に対する情熱に惹きつけられて、ニューヨーク・タイムズに記事を書きました。その記事の中で、彼はリリアンの折り紙を「指のあいだから生まれる宝石」と書いています。その記事が掲載されてから数日間、リリアンはテレビ出演の依頼を何度も受けました。

マスコミに取りあげられるようになったリリアンは、一般の人からも折り紙についての問い合わせを受けるようになりました。リリアンは友人のフリーダ・ローリーと個人的に折り紙を教え合っていたのですが、それが一般の人にまで広がって、多くの人に折り紙を教えるようになりました。そこで1958年、ニューヨークのグラマシーパークにあった彼女のアパートにThe Origami Center of Americaが設立されました。これは公的な組織となることはありませんでした。この会の会員であるということは、リリアンの友人であるということと同義だったのです。しかし、この折り紙センターは文字通り折り紙の

中心地となりました。機関誌『The Origamian』を発行し、折り紙の本の通信販売も始めました。

The Origami Center of Americaは、発足当時、リリアンのアパートで月曜日に短時間の折り紙教室を開いていました。この教室は大盛況で、すぐに教室の日数が増えました。この「Origami Mondays」はそれ自体が一種の組織となり、長いあいだ続けられました。そして今でも、OrigamiUSAがこの伝統を引き継ぎ、すべての折り紙愛好家が参加できる例会を毎月1回日曜日に開いています。

リリアンの2人目の夫ハリー・オッペンハイマーは、1962年に他界しました。リリアンは悲しみに打ちひしがれましたが、すぐに立ち直り、折り紙にさらに打ち込むようになりました。その一環として、The Origami Centerを移転するため、新しいアパートに引っ越し、自らもそこに住みました。

1962年11月6日、リリアンはアメリカの折り紙作家フレッド・ロームを彼女の新居に招きました。彼女はこれを単なる個人的な訪問に終わらせるのではなく、初めての「折り紙会議」と位置づけました。そしてその2年後、最初のコンベンションを開催しました。このコンベンションの最初の案内は、The Origamianの第3巻第2号に掲載されたもので、1964年に「Origami Meet」の開催を予定していると書かれています。この案内では、世界中の主要な折り紙作家を招待する予定だと述べられ、「折り紙では言語の障壁をはじめあらゆる障壁を乗り越えることができ



リリアンと連れ合いのベルディ・アダムス(1987)
Lillian in October 1987 together with her partner Verdi Adams



1992年 The Friends of The Origami Center(現OrigamiUSA)コンベンションの開会を宣言するリリアン
Lillian officially opens the 1992 New York convention

○ボアズ・シュバル(Boaz Shuval)：1980年イスラエル生まれ。幼少のころから紙に興味を持ち、6才か7才のときに折り紙を始める。現在の職業は電気技師。アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ在住。



ロンドンを訪れたリリアンとBOSのメンバー(1990年12月),左からアイリス・ウォーカー、ジョン・スミス、デビッド・リスター、リリアン、ミック・ガイ、ロザリー(リリアンの娘)、ジョアン・ホームウッド

Lillian with members of the BOS during a visit to London in December 1990 left to right: Iris Walker, John Smith, David Lister, Lillian, Mick Guy, Rosalie (Lillian's daughter), Joan Homewood.

る」ため言葉の壁は参加者にとって問題にならないだろうとして、参加を呼びかけています。The Origamianの第4巻第2号にはさらに詳細な案内が掲載されています。この会合の名称もコンベンションとなり、開催日は1964年10月31日から11月1日と決まっています。はじめの何度かのコンベンションは小規模でしたが、その伝統は受け継がれ、今日のような大規模なものにまで発展しました。

1963年、リリアンは再びテレビに出演しました。その翌週、同じ番組に、昆虫学者アリス・グレイが出演しました。アリスは、表紙に折り紙のセミが載っていた本を見かけたことがあって、折り紙に興味を持っていたので、この日も撮影の合間の空き時間を持つために、折り紙を折っていました。それを見た撮影班の人たちが、先週は「折り紙レディー」がここにいたのだから、先週も来ていればよかったのに、とアリスに言いました。アリスはリリアンに電話をし、両者はすぐに友人になりました。アリスはまず、専門の分類学を駆使して、The Origami Centerの膨大な折り紙資料を整理しました。アリスの役割は次第に拡大し、1964年にはThe Origamianの編集者になりました。アリスは

昆虫学者としてアメリカ自然史博物館に勤務しており、後にOrigamiUSAの前身であるthe Friends of the Origami Center of Americaが設立されたとき、所在地が同博物館に置かれました。

The Origami Centerは、今日のOrigamiUSAの発端となっただけでなく、世界中の折紙団体の設立にも大き

きな役割を果たしました。1960年代の初め、リリアンはイギリスのアイリス・ウォーカーに18人の名簿を提供し、その人たちを中心となってOrigami Portfolio Societyが発足しました。これがBritish Origami Societyの前身です。また、1960年代の半ばには、河合豊彰に率いられた日本の折り紙作家の代表団がニューヨークを訪れました。その中の1人であった高濱利恵は、リリアンのThe Origami Centerに感銘を受け、日本にもこのような、すべての人が平等な新しい折り紙団体を作ろうと考えました。そして1967年に創作折り紙グループ'67が結成されるのです。

The Origami Centerは公的な組織ではなく、リリアンとその友人たちがボランティアで運営していました。やや不定期ながらThe Origamianを発行し、コンベンションを企画し、本を販売して、折り紙愛好家を1つにまとめていました。しかし次第に、より公的な組織を設立する必要が生じ、1980年代の初めにThe Friends of the Origami Centerが設立されました。リリアンはこの組織を歓迎しましたが、自らが評議員に加わることは拒みました。The Origami CenterはThe Friendsと共に存し続けましたが、コンベンションや本の販売、Origami Mondaysや機関誌といつ

たThe Origami Centerの役割は徐々にThe Friendsに移りました。そしてThe Friendsが後にOrigamiUSAとなりました。

1992年7月24日、リリアン・オッペンハイマーは他界しました。その3日後、ニューヨークタイムズに「アメリカ人に折り紙を知らしめたリリアン・V・オッペンハイマー、93歳で死去」と題する追悼記事が掲載されました。しかし、彼女の功績はアメリカ国内にとどまるものではありません。彼女こそ、眞の意味で折り紙の女王でした。

2005年、OrigamiUSAは、世界中の折り紙団体と協力して「世界折り紙の日」という国際的なイベントを立ち上げました。このイベントは、リリアン・オッペンハイマーの誕生日である10月24日に、折り紙を「街中に」広げようというものです。この日には、世界中の折り紙愛好家が、電車の中や図書館、バス停、ショッピングモールなど公共の場所で折り紙を折り、折り紙の楽しさを人々のあいだに広げることが提唱されています。そして今年、2007年からは、10月24日から日本の折り紙の日である11月11日までを「世界折り紙の日々」として、世界中の折り紙愛好家が折り紙を広めることになっています。



1998年BOSノッティンガムコンベンションにて。リリアンの生誕100年の誕生日を祝い、100個の風船を空に放った。それぞれの風船には折り紙作品を貼ったカードがつけられている。

1998 - folders at the BOS Nottingham Convention released exactly 100 balloons on the 100th anniversary of Lillian's birthday. Each balloon had an origami model attached and a card.

写真提供:ロビン・メイシー

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

小松英夫 Komatsu Hideo

2冊目『ペーパーマジック立体折り紙』岩倉啓祐

“Paper Magic: 3-Dimensional Origami” by Iwakura Keisuke

僕の場合、折り紙というのは、何かを創造したいという要求のエネルギーを発散させる一つの手段であります。それだけに一つの作品が完成をみるとたとえようのない満足感を味わうことができます。(中略)一枚の正方形から様々なものを創造する。なんとなく口マンを感じさせることばではありませんか。」(後書きより)

今回取り上げる本は、1983年8月に永岡書店より刊行された『ペーパーマジック立体折り紙』です(写真1)。著者の岩倉啓祐氏については、折り紙の著書が本書のみということもあって、ほとんど情報がありません。先立つ1981年3月に、同じ永岡書店から、『ルービック・キューブー1分を切る秘密のテクニック』というルービックキューブの攻略本を出していて、その本の前書きによると1980年の修学旅行中にルービックキューブに出会ったそうなので、生年は1963年ごろと推測されます。実に20歳ほどの若さで個人作品集を書き下ろしたわけであり、大変に驚かされます。

本は、4部構成になっています(表1)。基礎編では、記号や基本技法の解説に続いて、「基礎折り」の図解がされています。基礎折りは全部で3種あり、「恐竜の基礎折りI」「恐竜の基礎折りII」「昆虫の

基礎折り」となっています(図1)。これらは今で言う「直角二等辺三角形分子」の組み合わせによる基本形の系列で、現在使われている折り紙用語では「アヤメの基本形」「ざぶとんツルの基本形」「4ツルの基本形」と同じものです。「ざぶとん折り」から始め、実質「ざぶとんサカナの基本形」による「エラスモザウルス」を除き、収録作品の全てはこれら3種の基礎折りから作られています。「昆虫の基礎折り」(4ツル)は、昆虫を作るために作者が独力で開発したと書かれています。

続く本編には、恐竜編で9種、昆虫編は7種、動物編は5種の作品が、非常に丁寧な手描きの折り図で図解されています。

本書でもっとも特徴的な点が、この折り図の表現にあると言えるでしょう(写真2)。1ページ2~4個という比較的大きなサイズの図は、複雑な紙の重なりが忠実に描写されていて、その書き込みの緻密さには目をみはるものがあります。また、つまみ折りや沈め折りなどの特殊な折り方は、必ず途中図を交えて仔細に説明されており、コンプレックス系の入門書として優れた内容になっています。およそ1000点にも及ぶ図を丹念に描く労力を想像するに、著者の「読者に折り方を伝えたい」という情熱の強さが感じられ、感嘆の念を禁じえません。

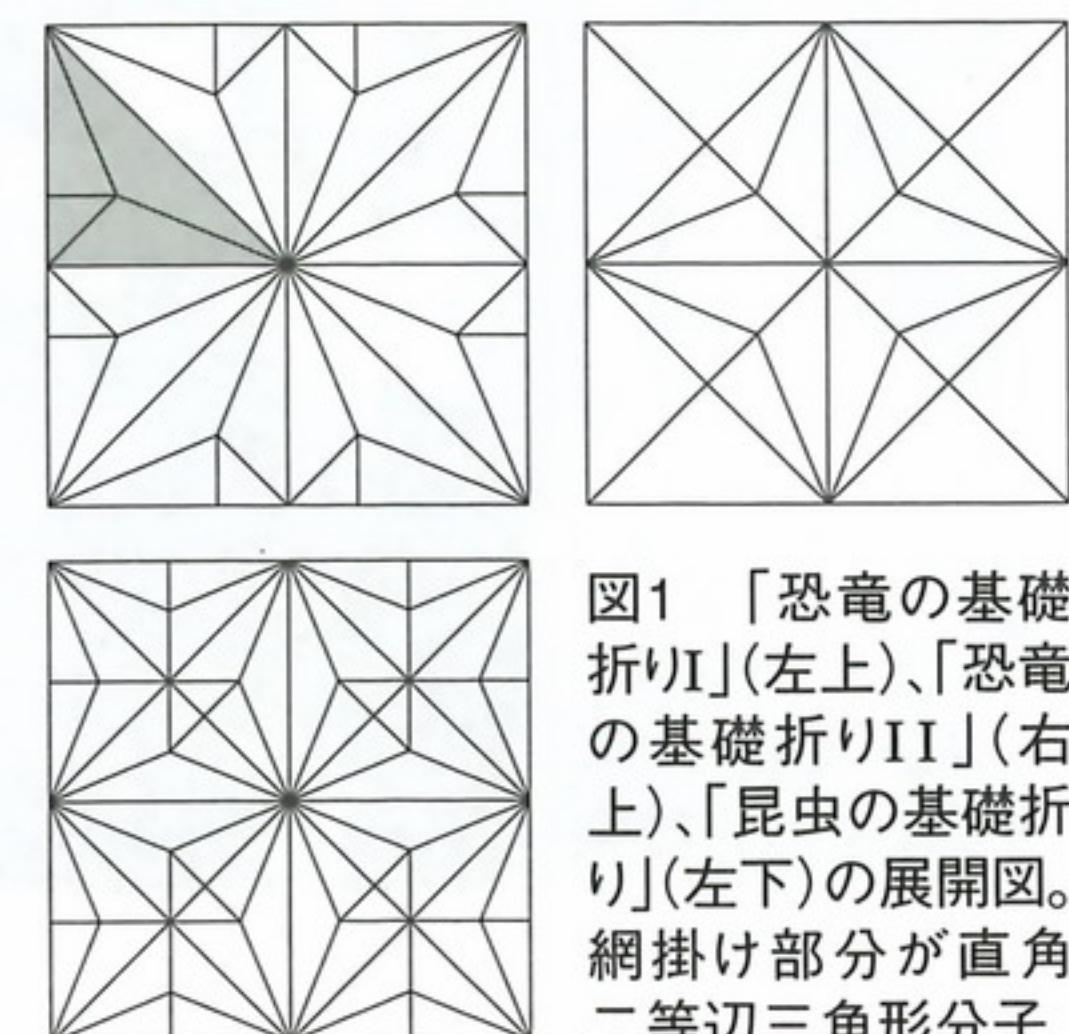


図1 「恐竜の基礎折りI」(左上)、「恐竜の基礎折りII」(右上)、「昆虫の基礎折り」(左下)の展開図。網掛け部分が直角二等辺三角形分子

作品そのものはどうでしょうか。先に記したとおり、全ての作品は単純なツルーアヤメ系列の基本形によるもので、現在の感覚からは古さを感じることは否めません。当時でも、手法的な新規性はすでに薄れていたと思われます。しかも、出版の半年前(1983年2月)に、折り紙設計の考えを打ち出した歴史的著作『ビバ!おりがみ』(前川淳・笠原邦彦/サンリオ)が発売されたばかりで、残念な出版のタイミングでもありました。しかしそうは言っても、不切正方形1枚折りで恐竜や昆虫の代表的な種を揃えた折り紙本は他にあり

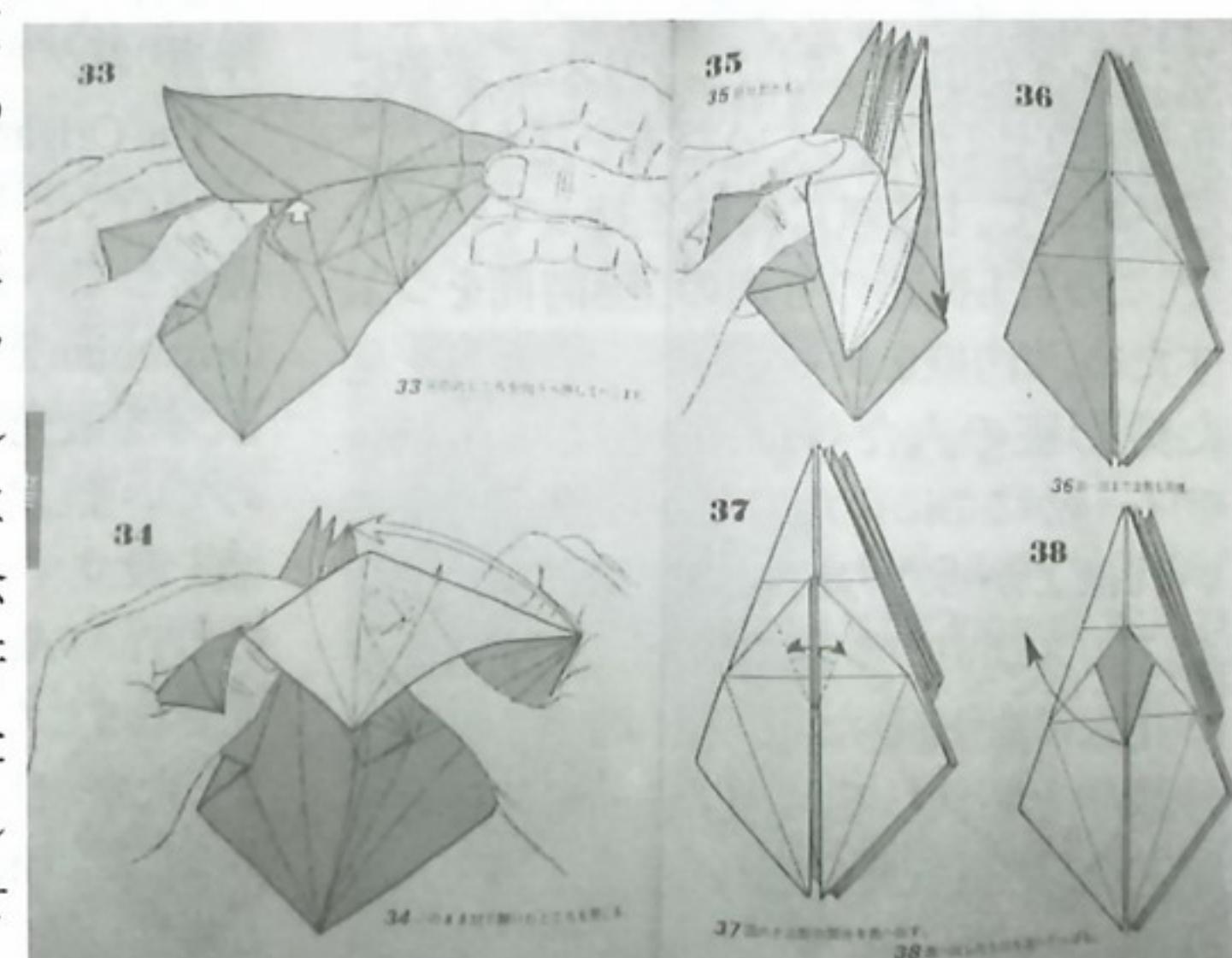


写真2 繊密な折り図

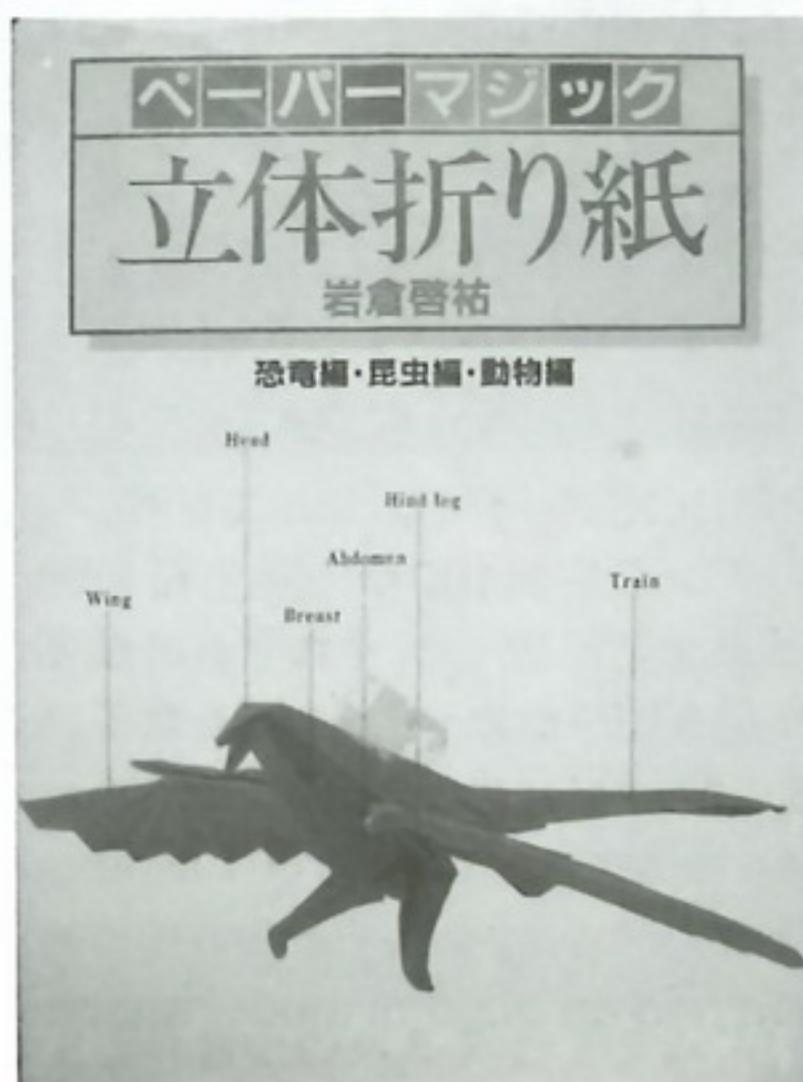


写真1 『ペーパーマジック立体折り紙』表紙

○小松英夫(こまつ・ひでお)=
1977年生まれ。図書館担当。主に
資料の整理・データ入力を行ってい
る。現在作品集を準備中。



ませんでしたので、この種の題材を好む人々(特に少年)にとって、大いに魅力を放つ本だったことでしょう。創作家の山田勝久氏や光森康郎氏は、本書を通して折り紙にのめりこんだそうです。

前書きにおいて著者は、「諸先生方の様々な秀作」に触発されて、中学2年生ごろから創作を始めた旨を書いていますが、具体的には『世界の折り紙傑作集』(高濱利恵／日本文芸社)からの影響が見られます(このことは、西川誠司氏よりご教示いただきました)。『世界の折り紙傑作集』は1977年刊行で、時期的にもちょうど重なります。また、「アヤメ」「ざぶとんツル」の基本形が記載されており、『立体折り紙』の前書きで岩倉氏が「恐竜の基礎折りは、もともとあった基礎折りを使わせていただきました」と書いている内容とも矛盾しません(ただ「ざぶとん折り蛙の基礎」という4ツル状の構造を持つ基本形がありますが、山谷が通常の4ツルとは違っているため別物と見なして良さそうです)。

明らかな影響が認められるのは恐竜作品で、特に「ティラノザウルス」は、『世界の折り紙傑作集』収録のジョン・モントロール氏作「ティラナザウラス(Tyrannosaurus)」に酷似しています(写

真3)。仕上げの工程を経た結果、大分印象の異なる造形となっているものの、カドの使い方などの基本的な構想は「ティラノザウルス」そのままと言えます。そして、この基本構造は「オルニソレステス」でも用いられていて、さらに「始祖鳥」と翼竜2種も、前足を後足に、後足を羽にあてたバリエーションとして見ることができます。また、「トリケラトプス」も、デビッド・ブリル氏の「きつね(Fox)」と同一の基本構造から発展させたものです。推測するに、岩倉氏は『世界の折り紙傑作集』の掲載作品を自分なりにアレンジするところから自身の創作をスタートさせたのではないかでしょうか。

なお、同じ時期に刊行され、ツルーアヤメ系列の基本形を紹介している本には、1976年刊の『おりがみ3 超難解マニア向き作品集』(笠原邦彦／すばる書房)もありますが、同書には、「4ツル」よりも複雑な「4アヤメ」による節足動物の作品が掲載されていることなどから、岩倉氏はこの本は読んでいなかった可能性が高いように思われます。

折り紙設計が発展し

た現在では、複雑な対象を折るときに、とにかく「4ツル」から試行錯誤してみよう、というようなアプローチは、ほとんど採られることがなくなりました。岩倉氏もまた、そのような方法の限界を感じていたようで、後書きに「これらの作品は一つの基本形からなるべくたくさんのものを造りたいという枠の中から生まれたものですし、過去の作品には、あまり上出来とは思えないものもあります」と書いています。さらに続く文には「そして、最近の傾向としては基本形という概念さえ無くなってきたように思います」との表現があり、これはもしかすると設計的な発想を指して書かれたのかもしれません。しかし、岩倉氏のその後の動向は全く不明です。

※『世界の折り紙傑作集』、『おりがみ3 超難解マニア向き作品集』も日本折紙学会図書館に所蔵されています。

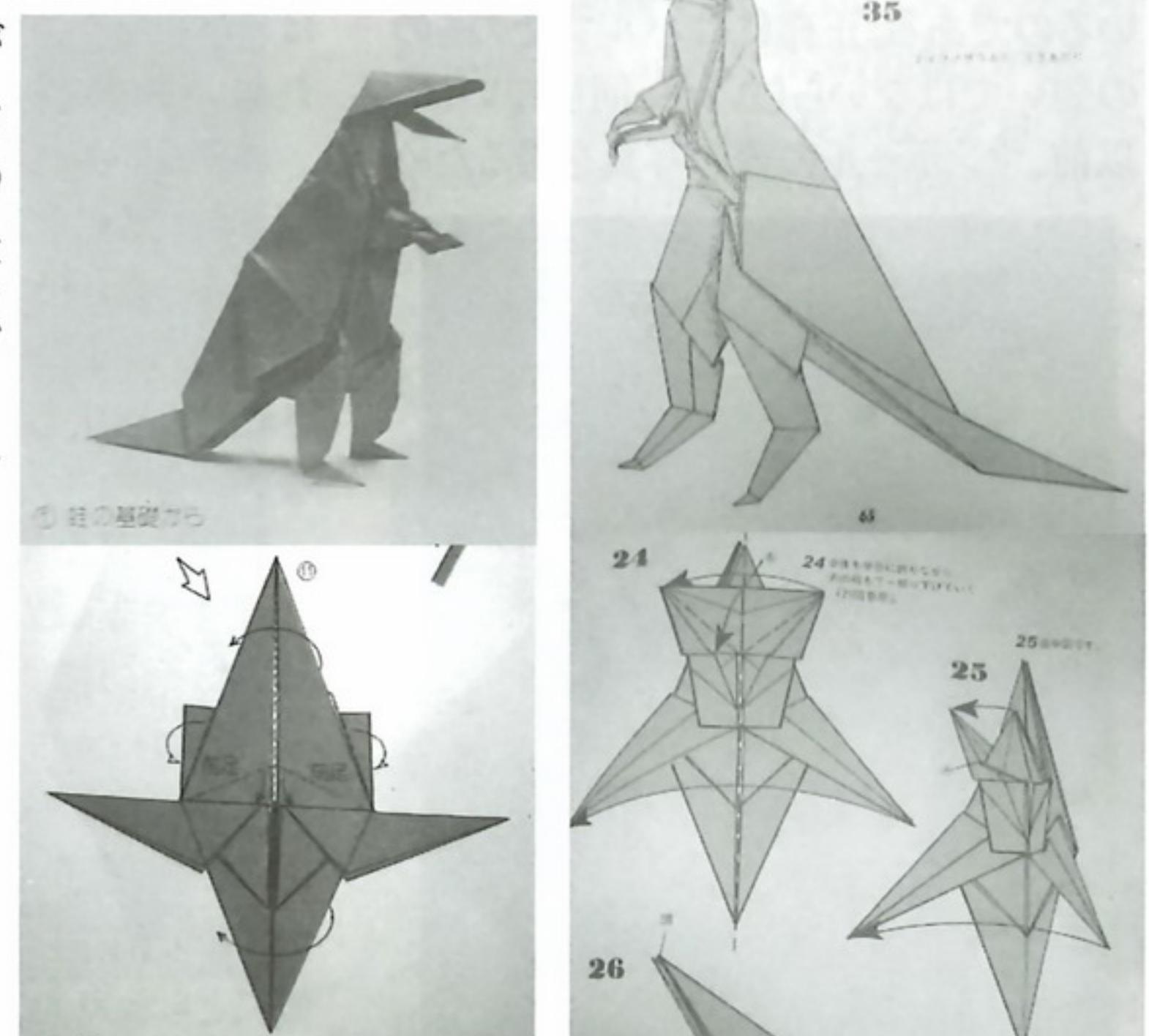


写真3 岩倉氏作「ティラノザウルス」(右)とモントロール氏作「ティラナザウラス」の比較。ともにアヤメの基本形から

基礎編	折り紙について／折り方のやくそく／折り方の基本／恐竜の基礎折りⅠ／恐竜の基礎折りⅡ／昆虫の基礎折り／引き伸しの要領
恐竜編	ティラノザウルス／トリケラトプス／ランホリンクス／始祖鳥／テラノドン／オルニソレステス／走っているオルニソレステス／エラスモザウルス／プロントザウルス
昆虫編	カブトムシ／くわがた／トンボ／羽の白いトンボ／タガメ／バッタ／セミ
動物編	にわとり／尾の色の違うにわとり／鹿／らくだ／カンガルー

表1 『ペーパーマジック立体折り紙』の内容

折紙散歩右往

Origami-Sampo
to Unexpected Directions

前川 淳

Maekawa Jun

第2回 折紙散歩者、静岡を往く

An Origami Walker in Shizuoka

東 海道新幹線・新富士駅周辺の車窓からの眺めは、初めて見るものにとって、日本を象徴する風景と映るかもしれない。すなわち、林立する煙突を前景にした富士山である。煙突は100mを超えるものもあり、20m以上のものは100本を超えるという。それらのほとんどは、富士山麓の豊富な水資源を利用した製紙工場のものである。

盛夏を感じさせる6月のある日、わたしは、朝一番の新幹線で新富士駅に降り立ち、工場の出勤時間の中を、富士市の中心に向かって歩いた。そして、そこがまさに工場街であることを実感した。近くで見るとほんとうに巨大な煙突、街角に置かれた大気監視装置、そして漂うパルプの匂い。街中どこでもそうだというわけではないが、漁師町の磯の香りのように、匂いが街のバックグラウンドになっているのである。正確にはパルプそのものの匂いではないらしいが、同じ匂いは、以前、マンホールの蓋の写真を撮るために



富士市の折鶴のモニュメント
The Orizuru Monument in the City of Fuji

に寄った川之江市(現四国中央市)でも感じた。川之江もやはり製紙を主要産業としている街で、マンホールには折鶴がデザインされている。

折鶴。そう、富士市での散歩の目的も折鶴である。お目当てのものは、マンホールではなく(むろん、マンホールも念入りにチェックしたが、折鶴ではなかった)、以前『折紙探偵団新聞』でも紹介された金属製のモニュメントである。幅約2mの2羽のその折鶴は、「紙の町」の象徴として、市役所近くの青葉通りの歩道に設置されている。

富士市の製紙産業から受ける印象は、煙突と工場に象徴されるように、きわめて散文的実際的で、同じ「紙の町」でも、福井の今立などとは大きく異なっている。伝統産業の紙漉きではなく、産業と生活を支える紙。それでも、紙の象徴としては、詩的な存在である折鶴が呼び出されているのだ。

ステンレスの折鶴はきれいだった。設置されてから何年も経っているが、汚れはなかった。それは、6~70年代に悪名を馳せたこの地域の水質大気汚染が改善されたことの、ひとつの証拠なのかもしれない。

折鶴を見た後、岳南鉄道の吉原本町の駅まで歩いた。新富士駅から全部で5kmほどの道のりである。名前も知らなかったローカル私鉄の、30分に1回の電車を小さなホームで待ちながら、平日であることも相まって、ふと、わたしはいったいここで何をしているのだろう、という感慨にとらわれた。様々な街があり、ひとが住み、働いている。わたしはただ散歩をしている。

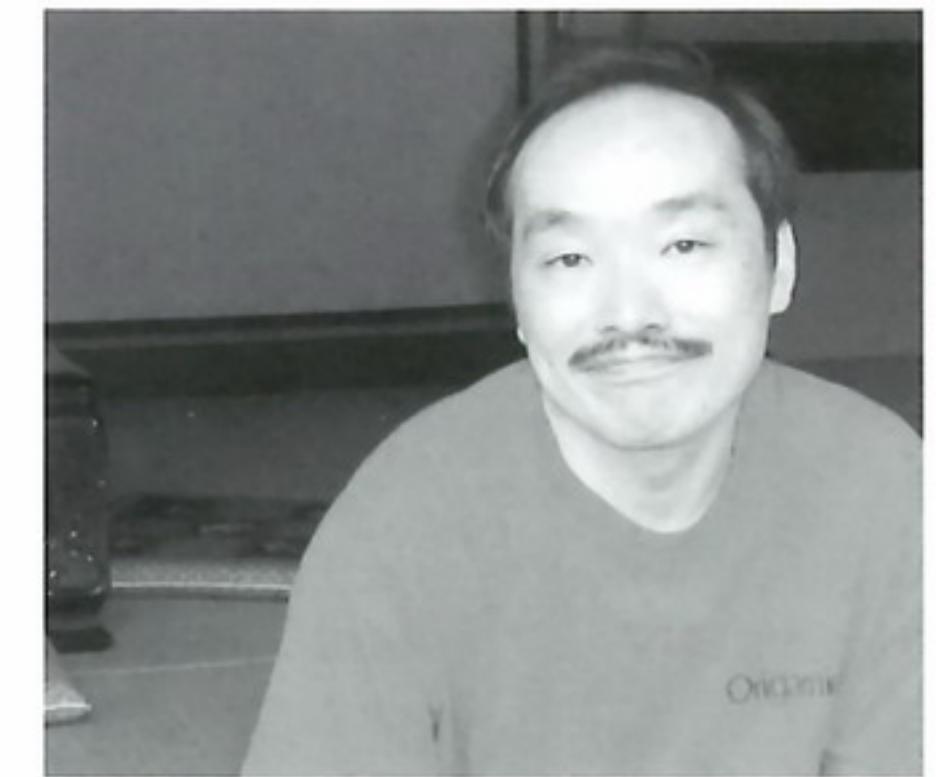
して、わたしはさらに散歩を続ける。まずは、吉原から三島に戻り、三島市に隣接する長泉(ながいずみ)町の、特種製紙株式会社の資料館PAM(Paper And Materialの略)に向かった。特種製紙というのは、紙にうるさい折紙者であれば、必ずお世話になっている紙をつくっている会社である。レザック、タント、彩雲、里紙、カラペなど。この資料館は、じつに洗練された建物だ。それもそのはず、以前この散歩シリーズで紹介した、神戸の紙の教会の設計者として知られる板茂氏による建物なのである。資料も充実しており、大型文房具店などで紙を選ぶのが好きなひとは楽しめること請け合いの施設だ。なお、見学には事前の予約が必要である(電話:055-988-2401)。

ここでわたしは、レザック96オリヒメ、レザック80つむぎ、レザック75など、レザッ



特種製紙株式会社 資料展示室
An Exhibition Room of Tokushu-Seishi Co.

The Shizuoka prefecture in the mid pacific area of Japan is famous for paper-manufacturing using rich water resources from the Mt. Fuji. In the City of Fuji we can find a huge orizuru monument, a symbol of "The City of Paper". In the Town of Nagaizumi to the west of Fuji we find an archive exhibit owned by Tokushu-Seishi Co., where we can see various kinds of paper. We also find sculpture with origami-structure in the City of Shizuoka, though I don't see evidence of its relation to paper manufacturing. We can't help discovering something "origami" all over Japan.



7月下旬に、『本格折り紙一入門から上級まで』(日貿出版社 2200円)を出版しました。

○前川 淳(まえかわ・じゅん)=折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため長野・山梨で過ごす。好きなもの:阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

クという紙の名前についた数字の意味を初めて知ることになった。以前から漠然と何だろうと思い、かつ、それまでに気がついていて当然だったのだが、それはつまり、年号なのであった。レザック75は1975年に開発された紙なのである。長年のひっかかりが解けた。なお、タントという名は、色の数が多いことから(日本語の「たんと」と、イタリア語の「Tanto」(たくさん))で、カラペはカラー・ラッピングペーパーの略である。「カラー」の「ラ」ではなく、ラッピングの「ラ」だ。以上、たぶん生涯一度も使うことはないと思われる豆知識である。

三島には恵比寿大黒の折紙神像でも知られる三島大社もある。この日は、吉日だったのか、何人もお宮参りの家族が来ていた。境内は、パルプの匂いではなく、神社が飼育している鹿の匂いがした。三島は町の中に網の目のようにきれいな水が流れ、歩道も整備され、散歩に向いた町である。気持ちよく歩いた。しかし、帰ってきて、より印象に残っているのは、なぜか富士、吉原の町であった。生活や産業がむき出しになった風景に比べて、三島の町をショールームのように感じてしまったのかもしれない。

この日は極端に朝が早かったので、ここまで午前の部である。三島駅前で桜エビのかき揚げ定食という、ガイドブック的な地元特産をかき込んだわたしは、静岡市に向かった。静岡には、折紙探偵団静岡友の会の例会会場を提供している紙ショップ・「紙友館ますたけ」もあるが、今回の目的はそれではない。駅前にかなり強力な折り紙物件があ

ることが判明し、それを見に行ったのである。

発見したのは、静岡市在住の山梨明子さんとおおのひろみさんである。たまたま寄った場所で見つけたということだが、本誌を通して、折紙散歩魂(?)がじわじわと読者に浸透していることを示す証である!、と考えることにしよう。

モノはホテルセンチュリー静岡のロビーにある彫刻、御宿至(みしゅくいたる)さんの「風の扉(記憶のカタチ)」という作品である。これは、写真で見るより、实物を見た場合の折り紙的感覚が大きいものだった。よく見ると、単に鉄板を溶接したのではなく、一枚の板を折ったように加工してある。すなわち、重なった部分は、板の厚みに違いがある。そして、そのかたちは不切正方形一枚折りなの

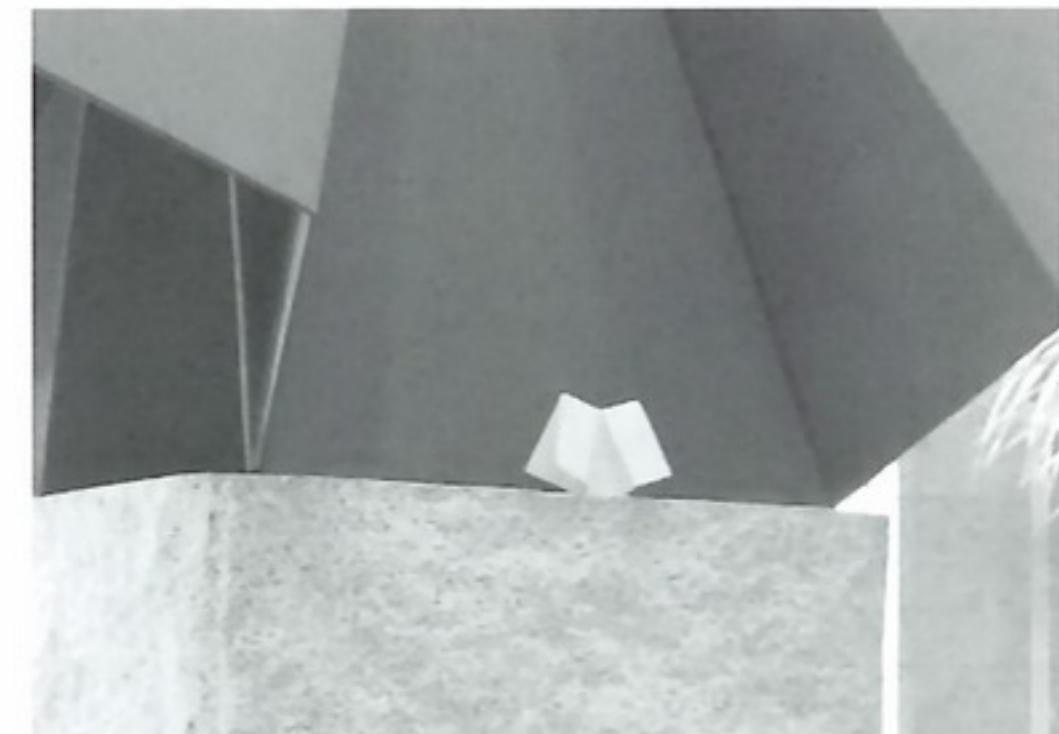


「風の扉(記憶のカタチ)」御宿至
"Gate of Wind (Shape of Memory)"
MISHUKU Itatu

である。彫刻を前にして、山梨さんがじっさいに折り紙で折って確認したので、まず間違いない。じっさいに鉄板を折ったということはないだろうが(厚過ぎる)、形状としては、折ったかたちになっているのだ。

山梨さんは、御宿さんの知人を介して御宿さん本人にも連絡をとったところで、この日は氏の作品集も見せてもらった。これも大きな収穫であった。御宿さんは、二艘舟の折りかけのようなもの、笠原邦彦さんの半開折りみたいなもの、ポール・ジャクソンさんの一線折りを思わせる曲面など、きわめて折り紙的な金属彫刻を数多くつくる彫刻家だったのである。浜松のアクトシティにも折り紙的な作品があるという。

というわけで、旧国名で言えば、伊豆、駿河と巡って、遠江の浜松には脚は伸ばせなかつたが、前号の埼玉に続いて、県特集を静岡篇でまとめることになった。47都道府県で、ほんとうに47回続くかもしれない。あと8年である。長いな。なお、富士市では、「富士地域煙突ゼロ作戦」という計画が進行中であるという。8年後、煙突が減って空が広くなった第2回静岡篇の取材が楽しみだ。って、本気かい!



山梨明子氏による「風の扉」の再現モデル
A Replica Model of "Gate of Wind" by
YAMANASHI Akiko

■いよいよ東京コンベンション直前となりました。存分に楽しみ尽くすためには、なによりもまず体調を整えることが第一。徹折りはほどほどにして早く寝るのだぞ、少年たち(苦笑)

「ペコ60A」(黒赤)「ペコ60B」(黄青)

「ペコ60C」(赤緑) 作：田中将司 (P.4)

Giver-60A (Black-Red), Giver-60B (Yellow-Blue),

Giver-60C (Red-Green) : Tanaka Masashi (P.4)

■昆虫や動物の造形で注目を集めた田中氏ですが、最近はユニットに対してもマルチな才能を発揮、新作を次々に誕生させています。新たな視点から増殖させた立体群を、今後不定期かつ高頻度に発表していただく予定です。



「プチトマト」「みかん」作：やまぐち真 (P.8)

Cherry Tomato and Mandarin Orange:

Yamaguchi Makoto (P.8)

■伝承の「風船」を拡張して、インサイドアウトによる「へた」の領域をプラス。果物や野菜にぴったりの基本構造となりました。細身にしたりずんぐりとさせたり、それぞれの題材に合ったプロポーションを目指して練習しましょう。



MFPPコンベンション展示作品より
Exhibits from the 2007 MFPP Convention



David Brill

Eric Joisel

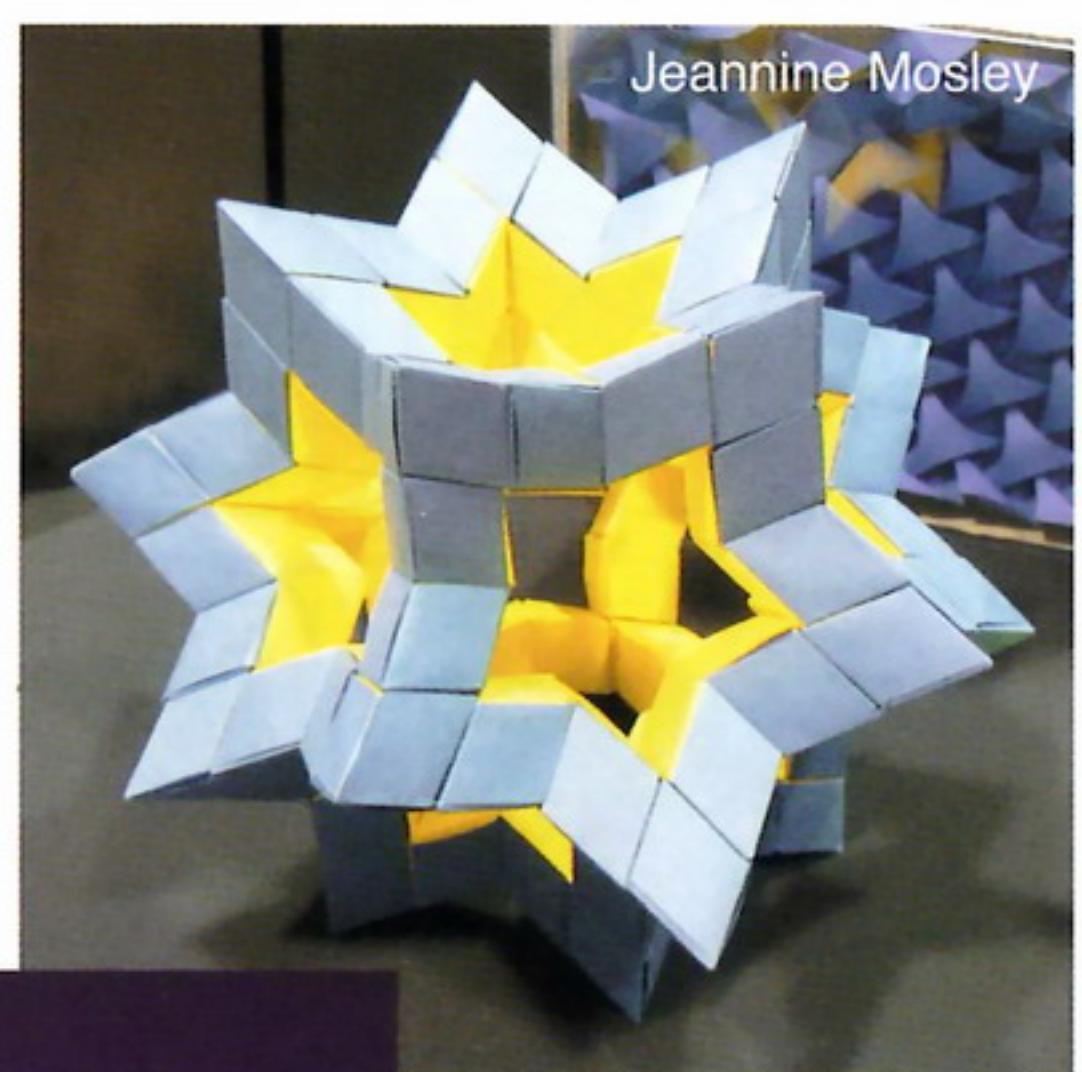
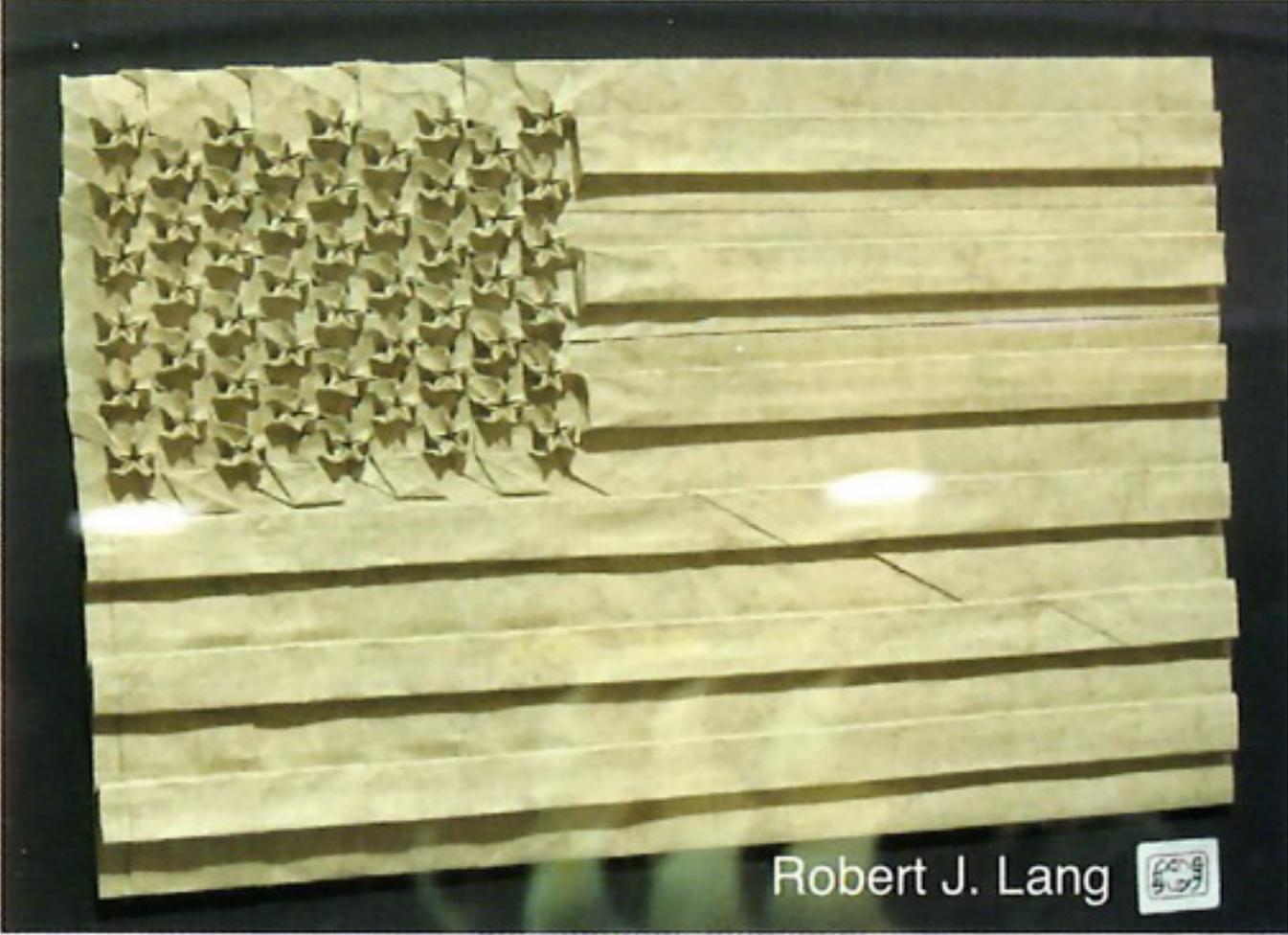


■Brill氏とJoisel氏、両巨匠の技術の粋を間近で味わうことのできる貴重な機会となったフランスのコンベンション。「題材を正確に把握する」段階から、いかにして「折り紙ならではの形状を目指してデザインし直す」段階へと跳躍するか、さまざまな角度から学ぶためのヒントが隠されているようです。

人物造形に携わる者としては特に、おすもうさんの強烈な存在感が非常に気になります…。

OrigamiUSAコンベンション展示作品より Exhibits from the 2007 OrigamiUSA Convention

■コンプレックスの動物・昆虫造形は、毎年とどまるところを知らない密度と速度で発展中。これでもかこれでもかというほどの熱気、圧倒的なパワーが充満しています。かたや、幾何造形にも新しい方向性。Lang氏の星条旗には精度の高い加工と同時に、生物題材に勝るとも劣らない濃厚なエネルギーが投入されていて、見る者を圧倒します。



小鳥 Little Bird

神谷哲史

Model & Diagrams by Kamiya Satoshi

2006/08/xx

対角線に
折り筋をつける

半分に
折り筋をつける

カドを中心に合わせて
折り筋をつける

半分の角度で
折り筋をつける

カドを折り筋に合わせて
折り筋をつける

○を通る線で
折り筋をつける

縁を折り筋に合わせて
折り筋をつける

縁を折り筋に合わせて
折り筋をつける

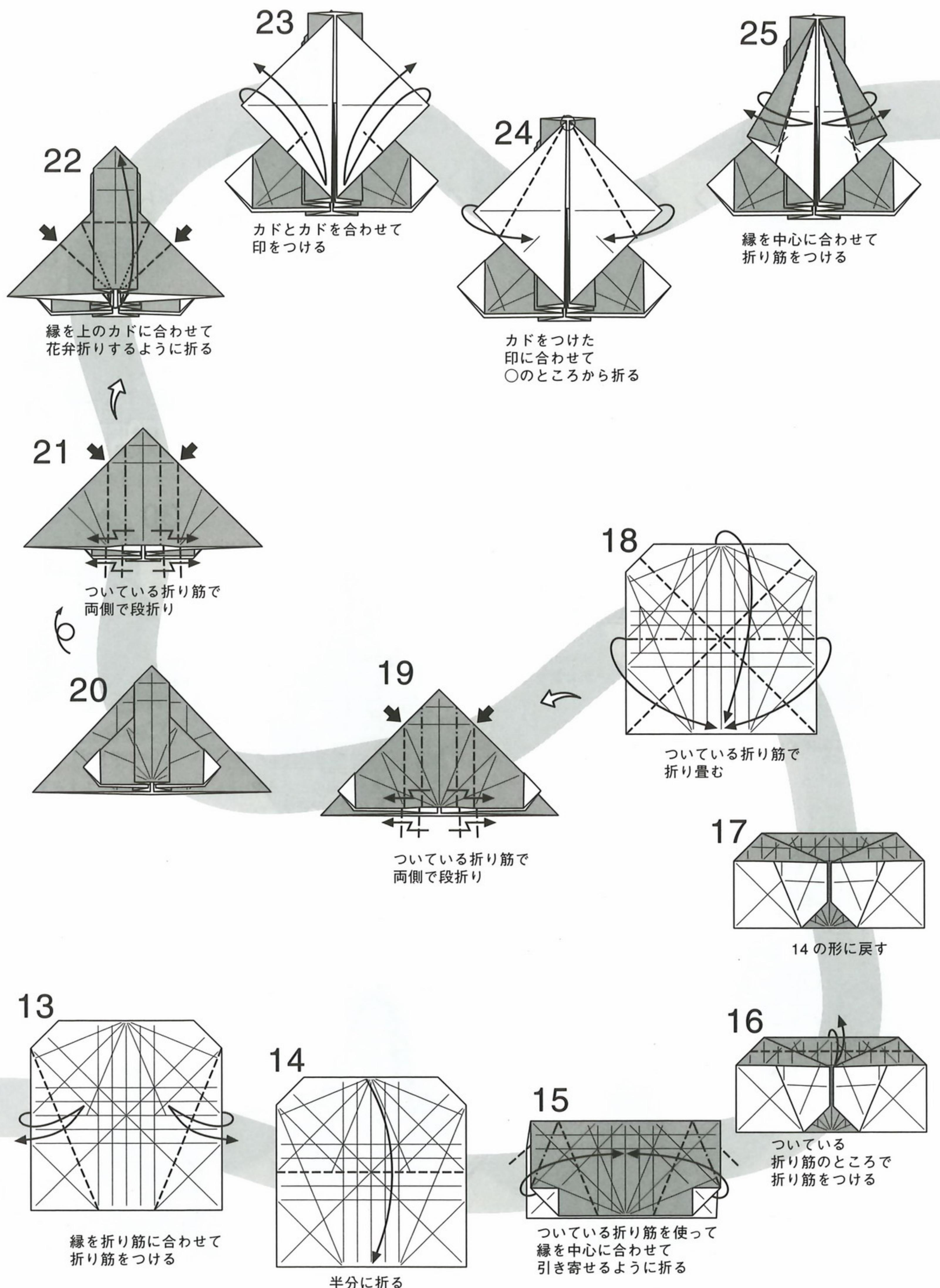
折り筋と折り筋を合わせて
折り筋をつける

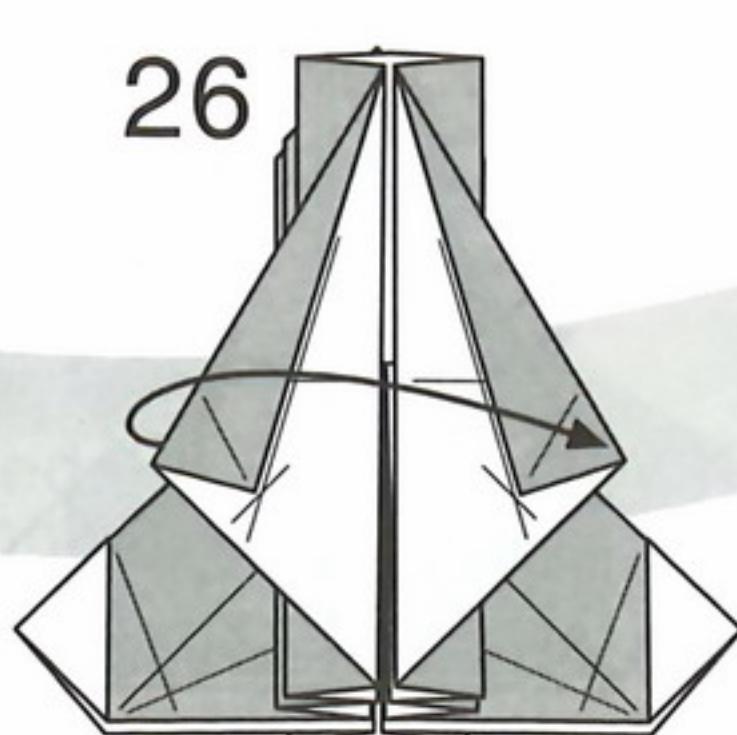
折り筋と折り筋を合わせて
折り筋をつける

カドを折り筋に
合わせて折る

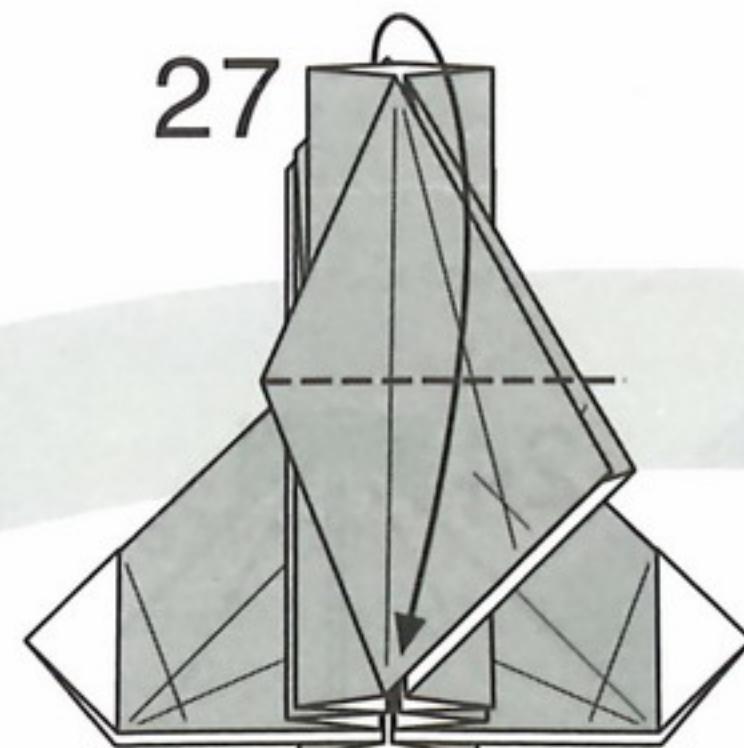
○を結ぶ線で
折り筋をつける

22

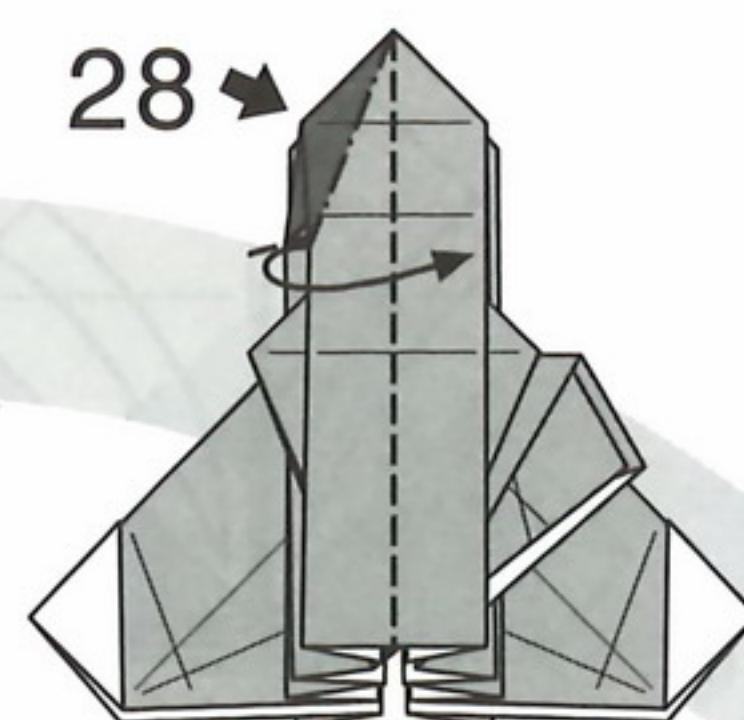




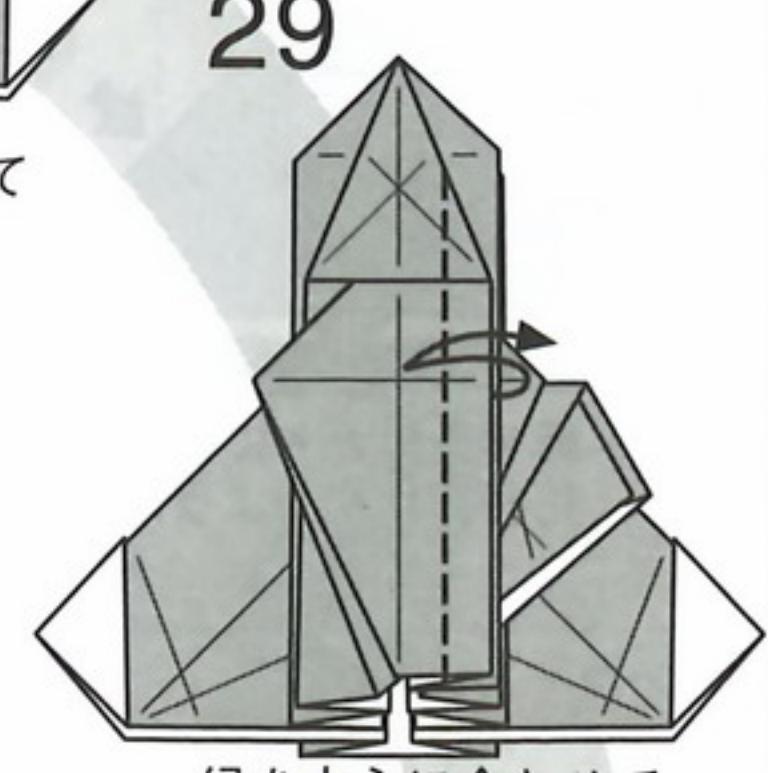
手前の1枚を
反対側に折る



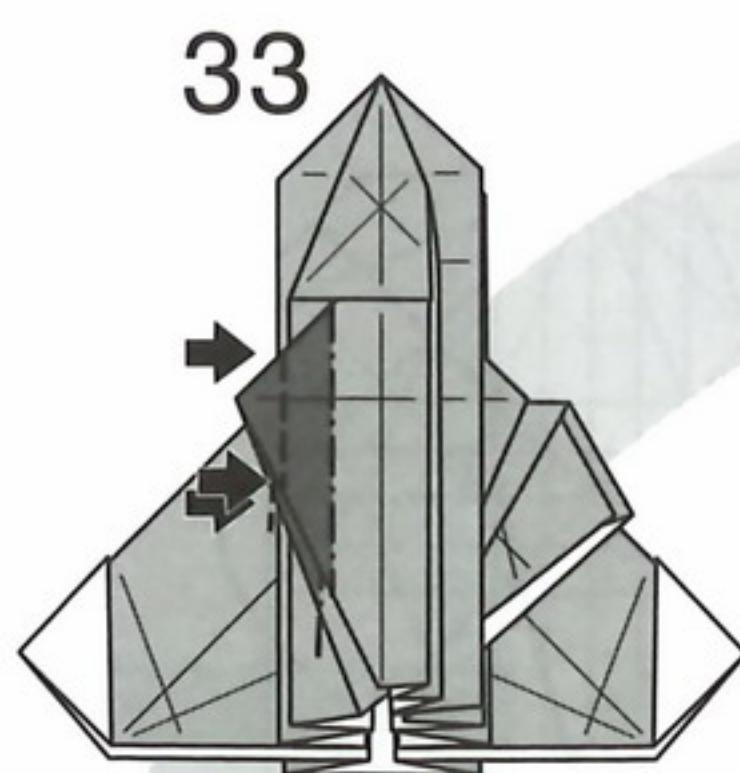
縁を下に折る



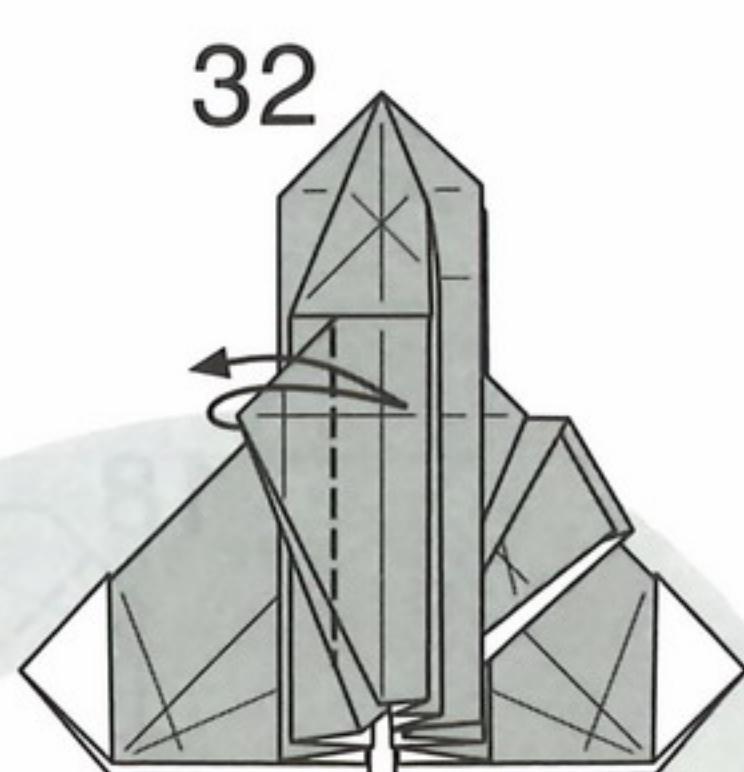
■の部分を広げて
つぶすように折る



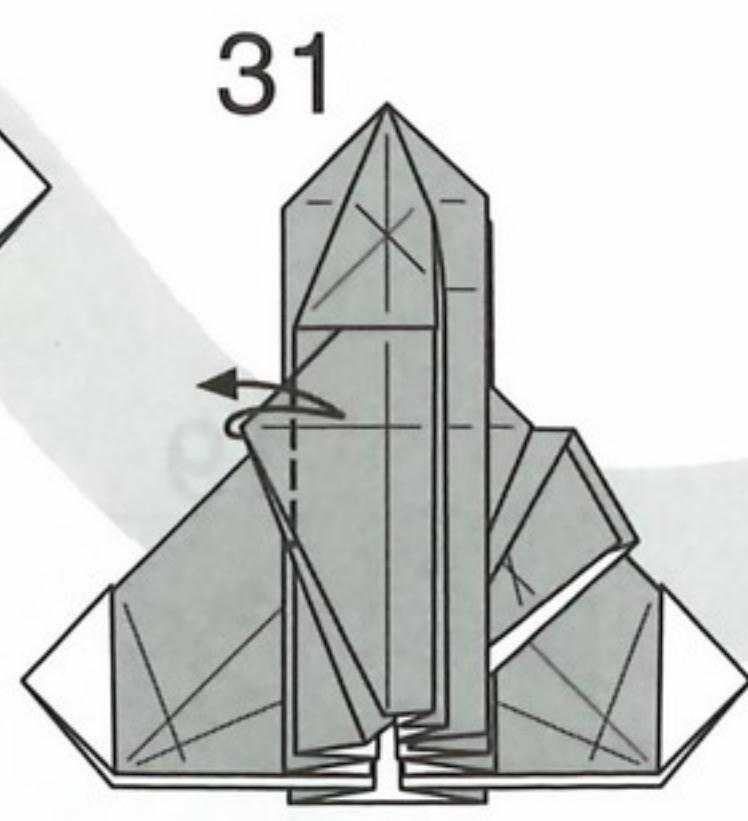
縁を中心^に合わせて
折り筋をつける



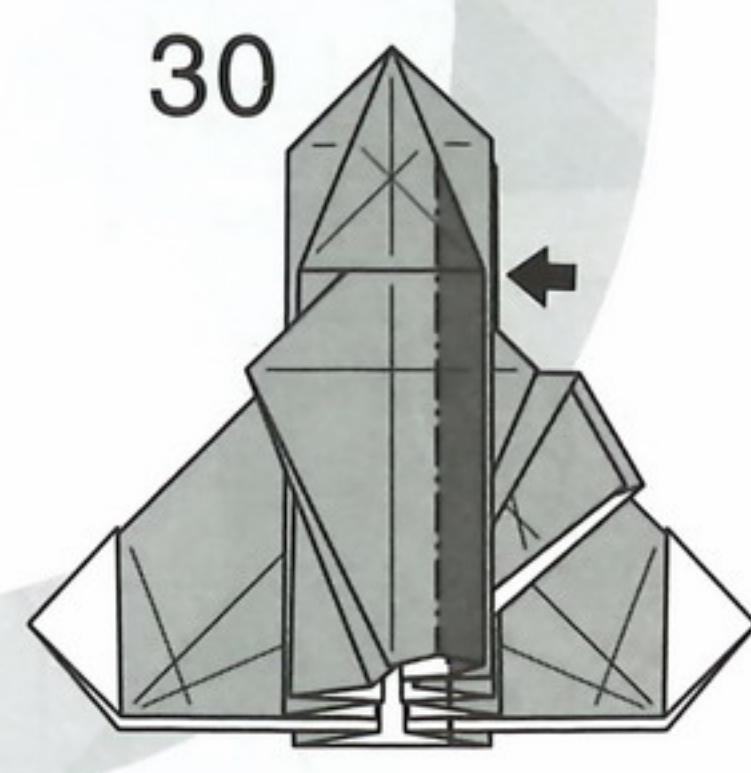
しづめ段折り



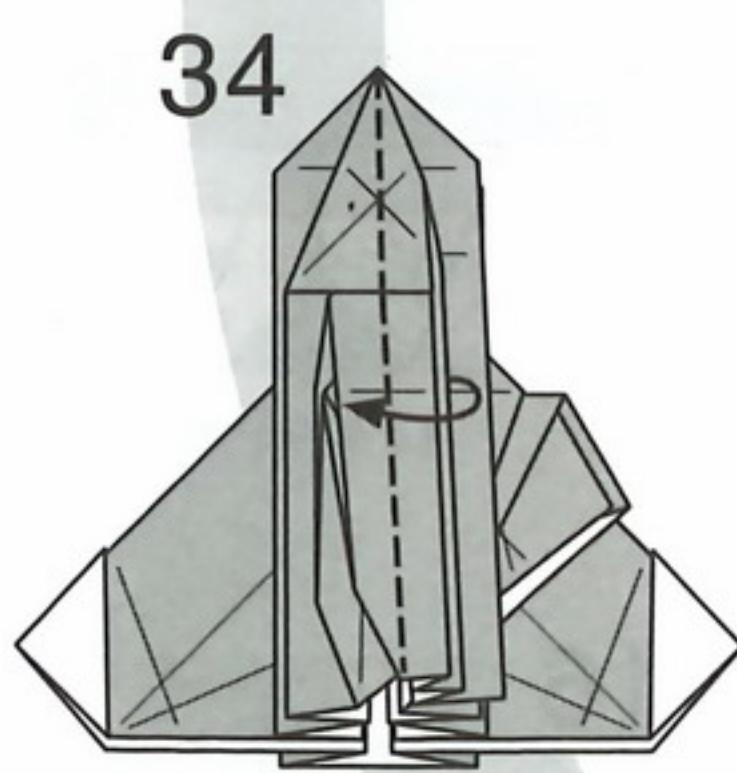
半分の幅で
折り筋をつける



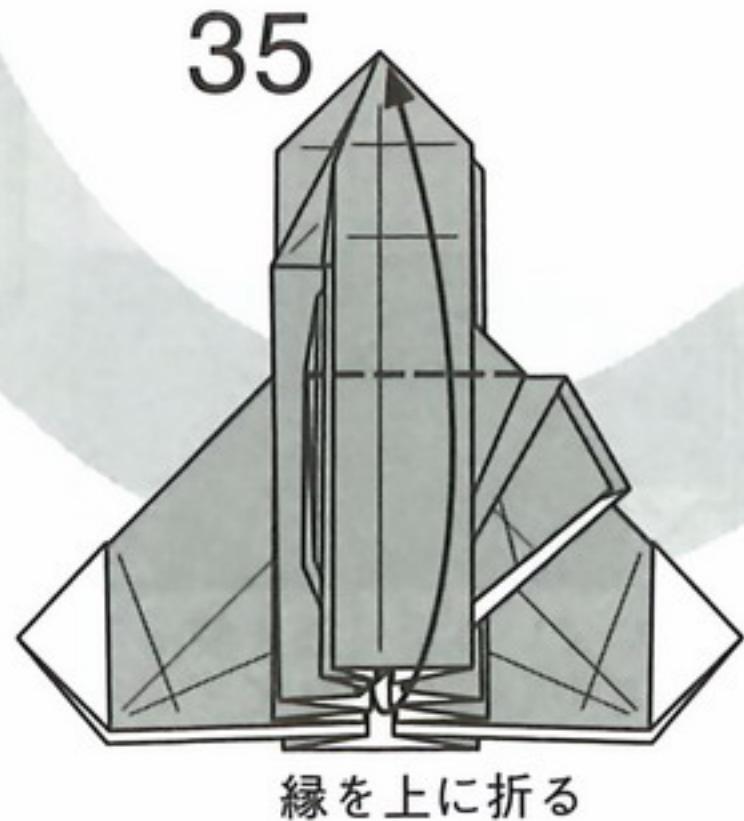
後ろの縁のところで
折り筋をつける



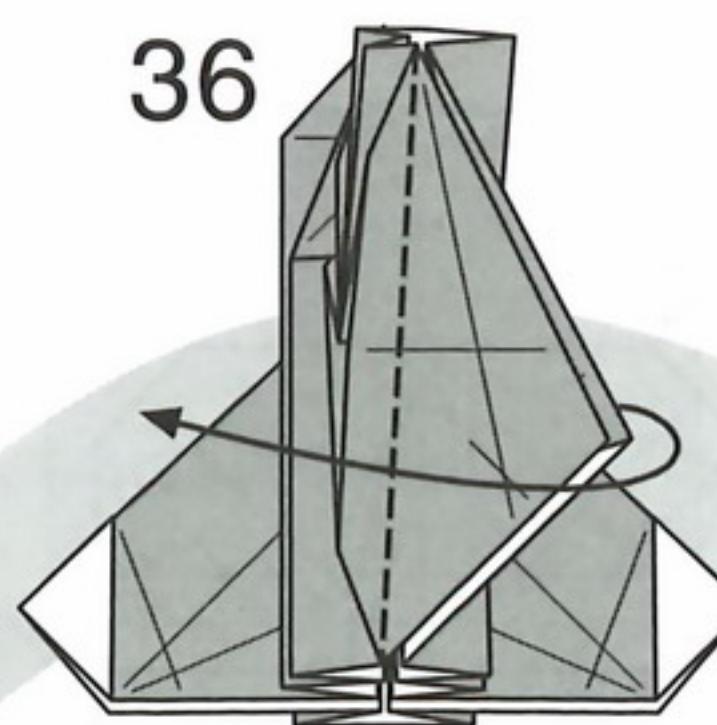
しづめ折り
(Closed sink)



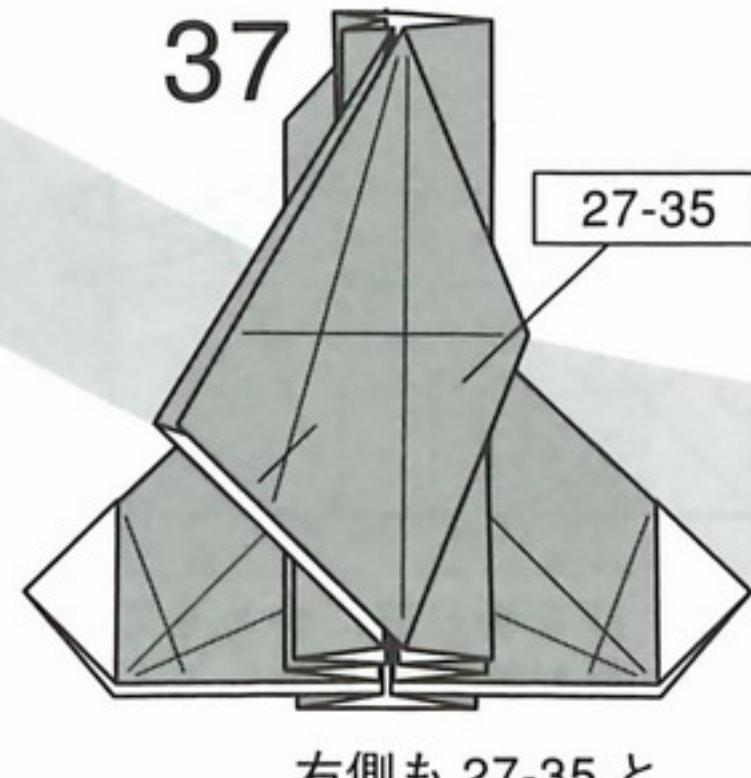
中心の隙間で
反対側に折る



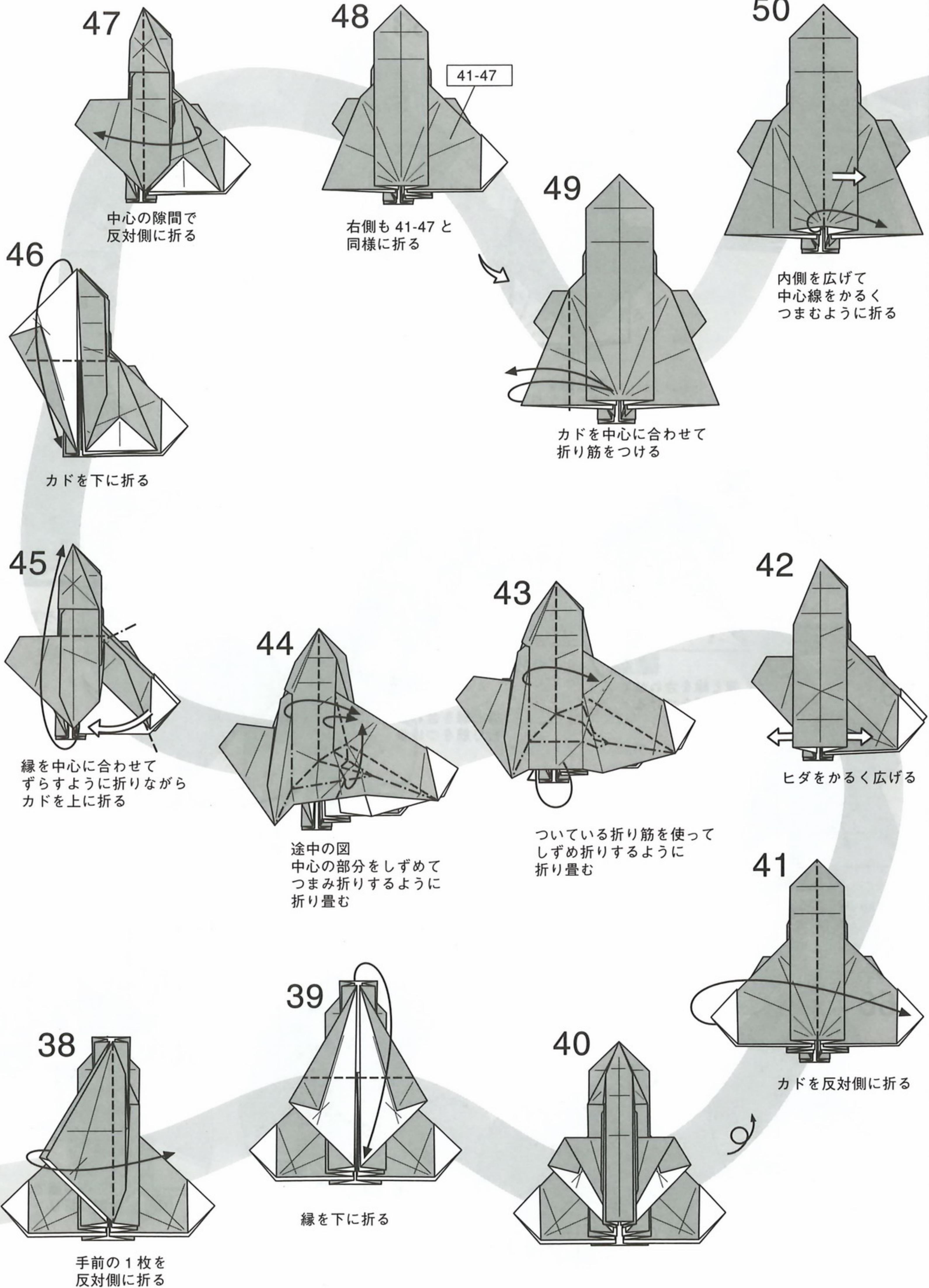
縁を上に折る

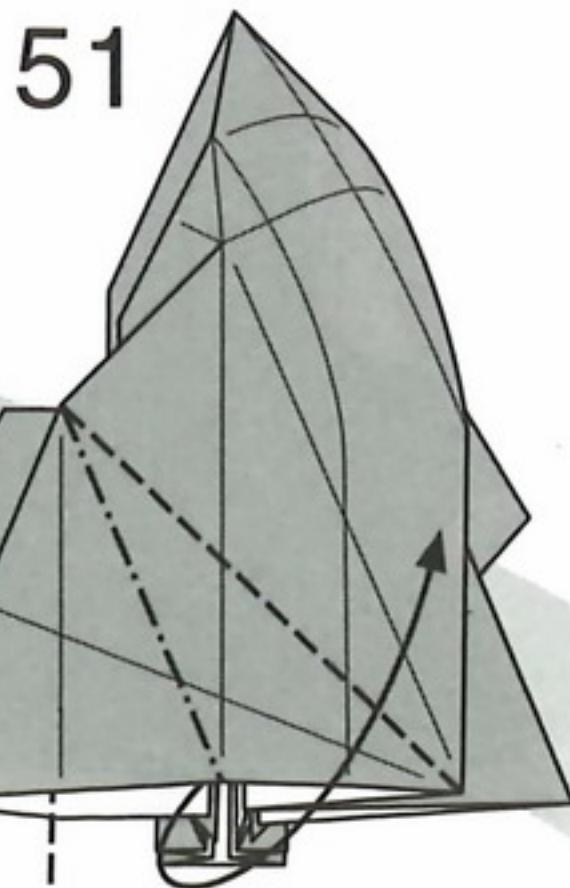


手前の2枚を
反対側に折る

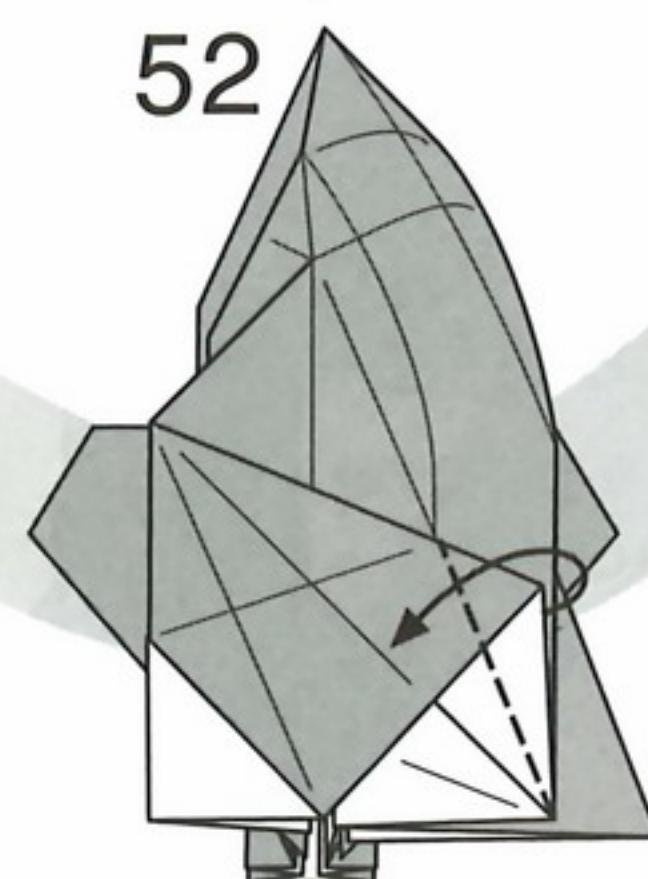


右側も 27-35 と
同様に折る

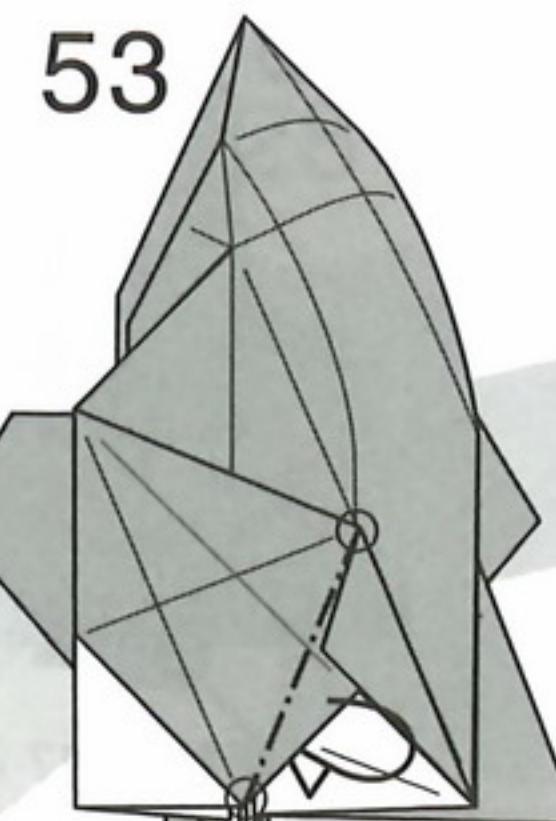




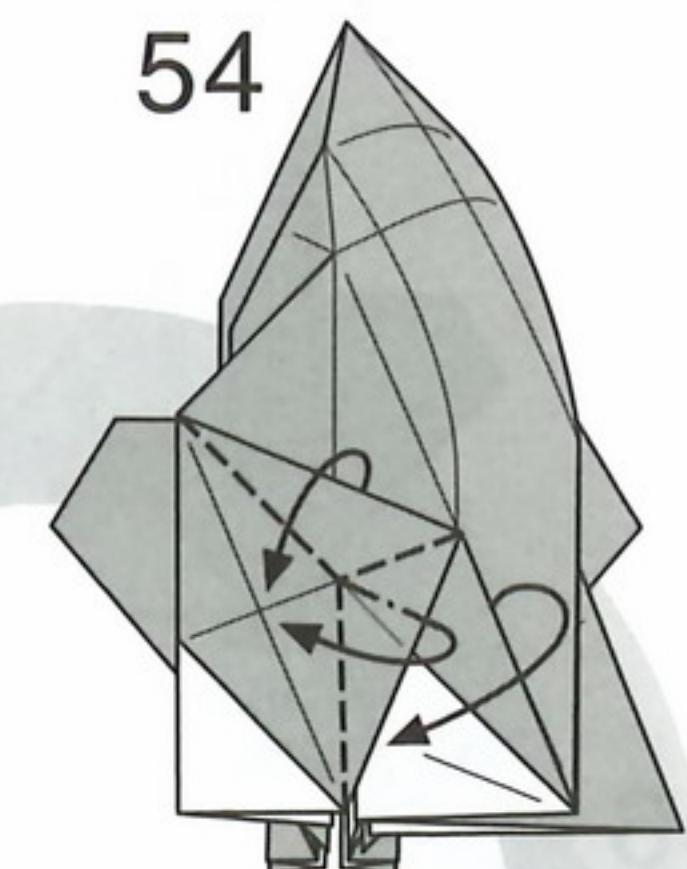
内側を広げて
ずらすように折る



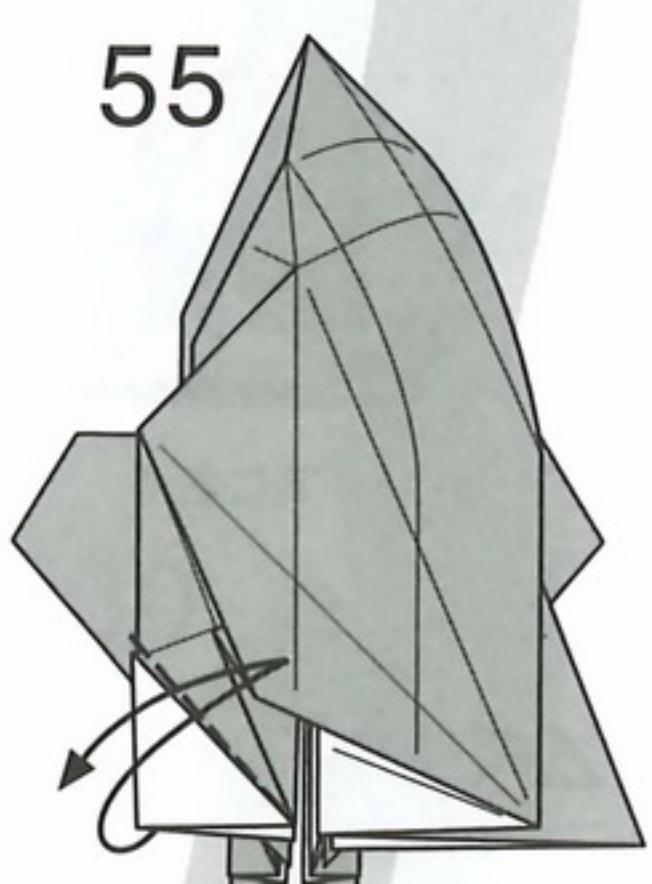
縁と縁を
合わせて折る



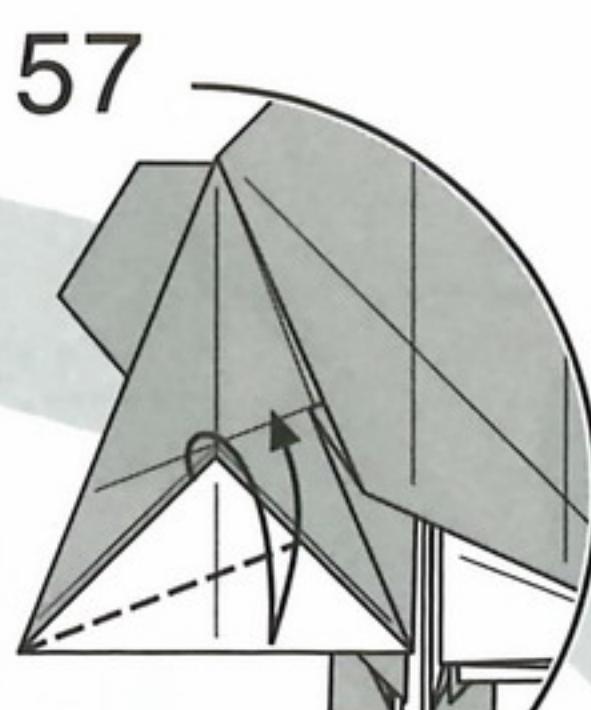
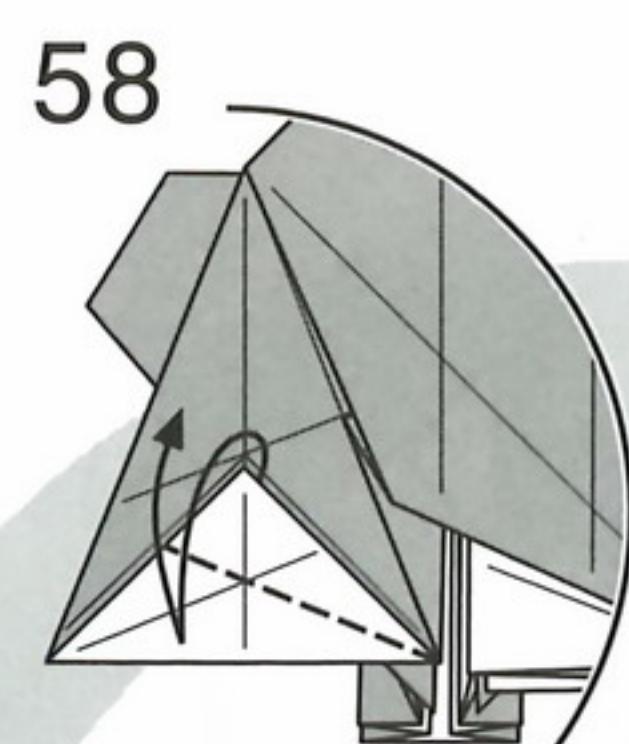
カドを結ぶ線で
後ろへ折る



つまむようにしながら
縁を反対側に折る



縁のところで
折り筋をつける



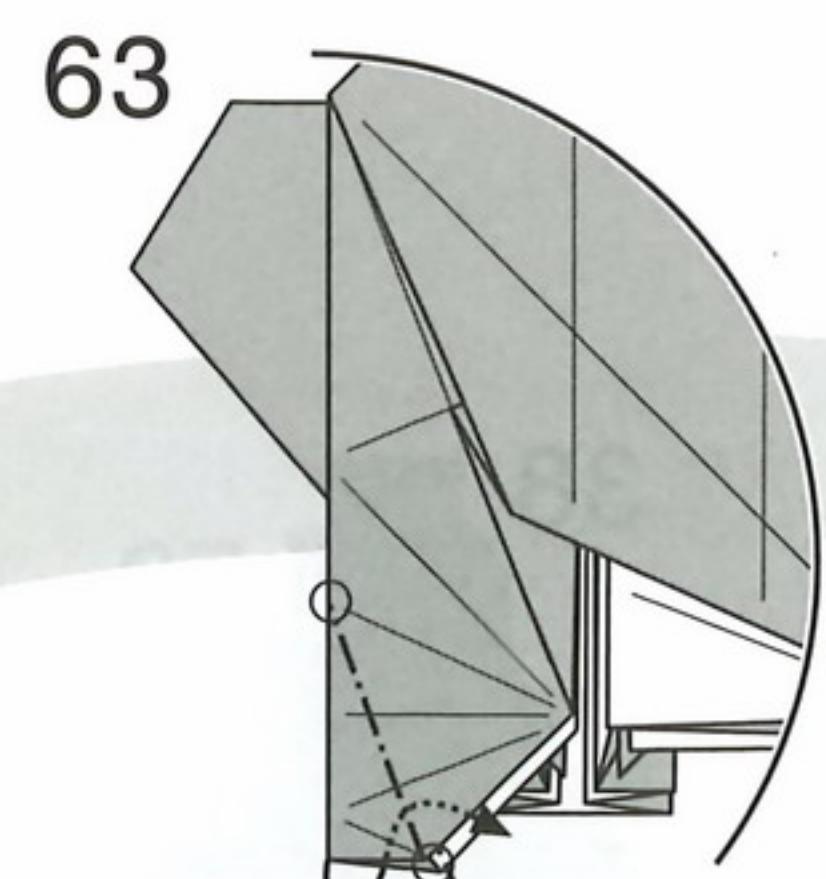
縁と縁を合わせて
折り筋をつける



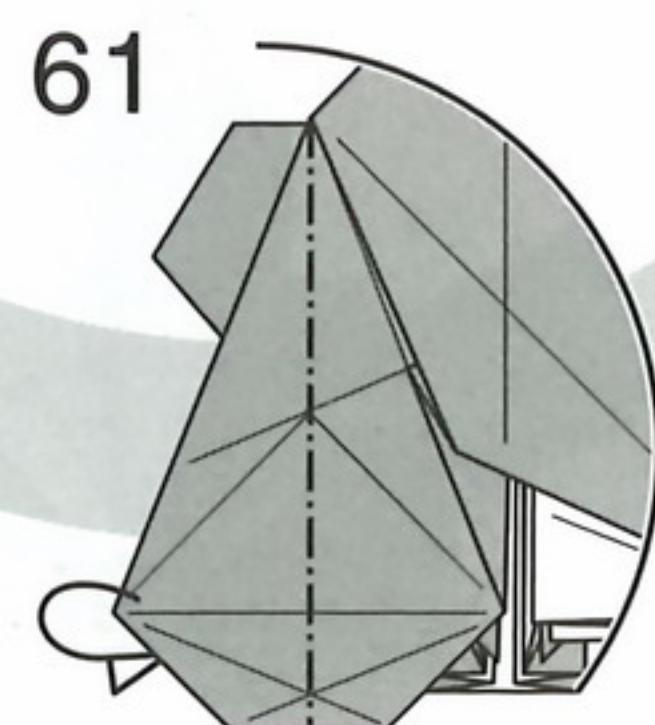
○を結ぶ線で折る



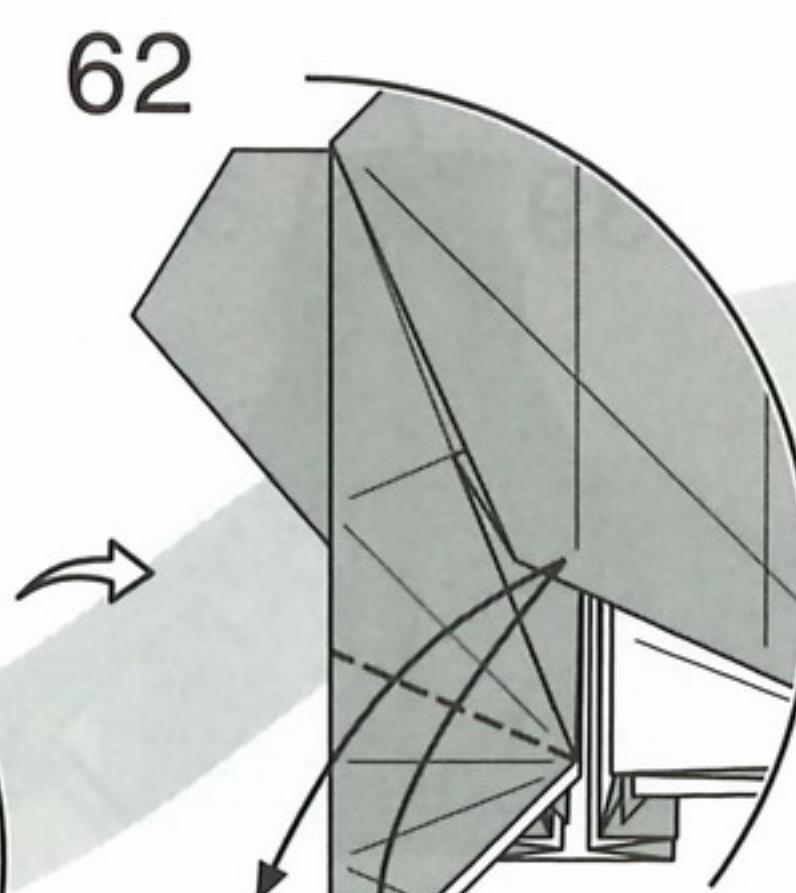
後ろのカドを
ずらすように引き出す



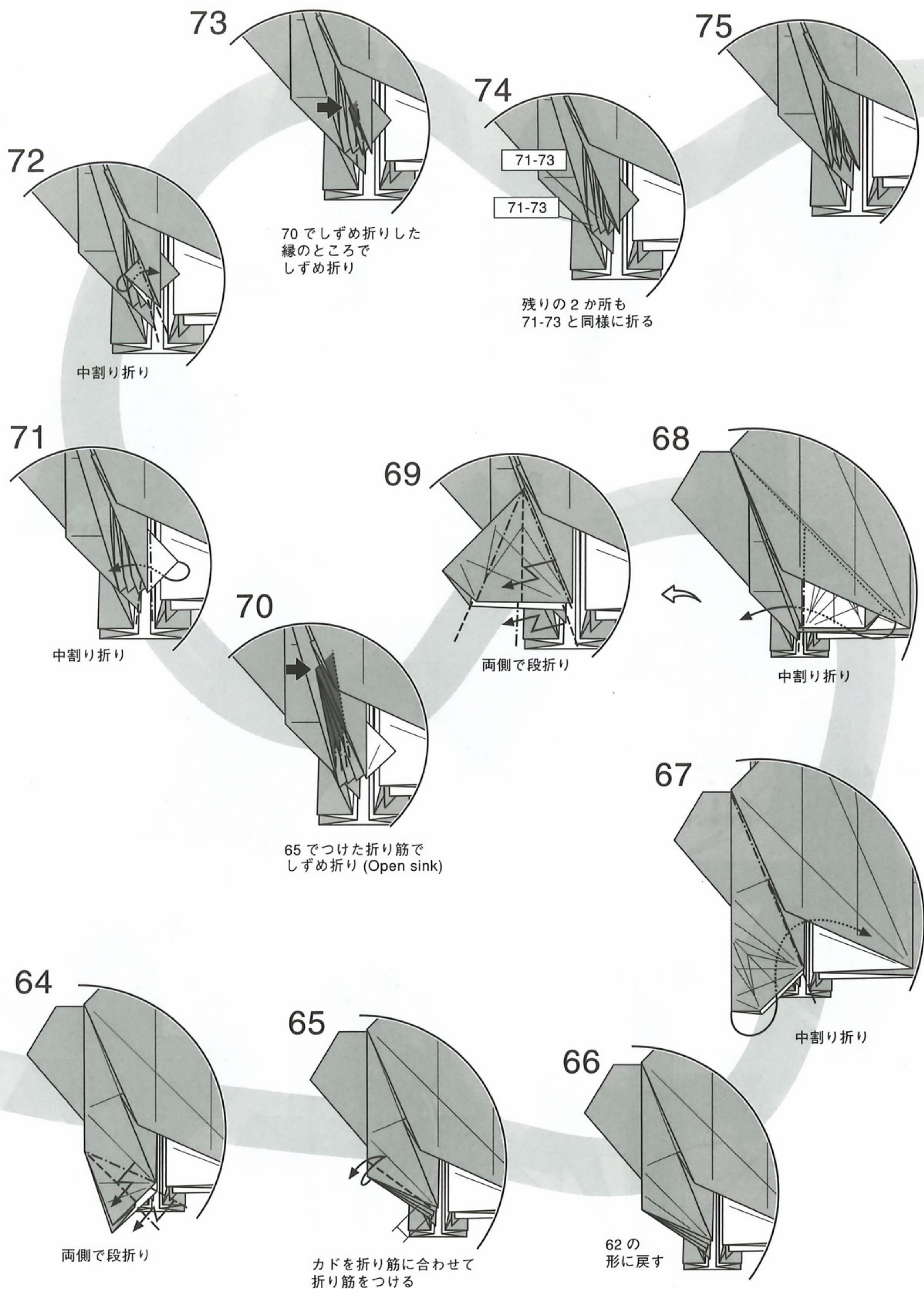
○を結ぶ線で
中割り折り

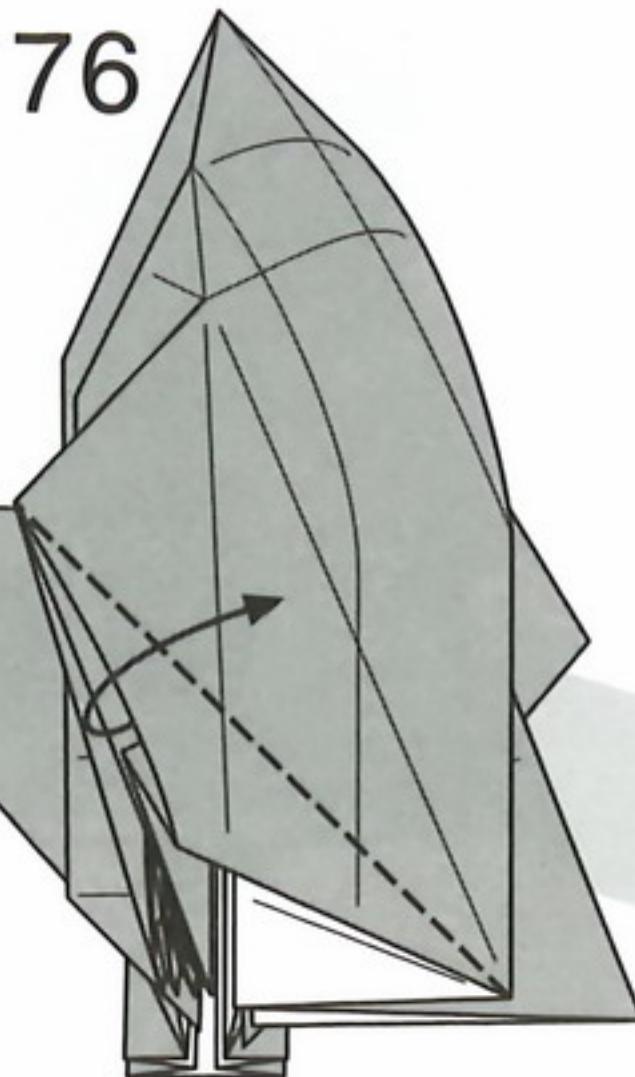


半分の角度で
折り筋をつける

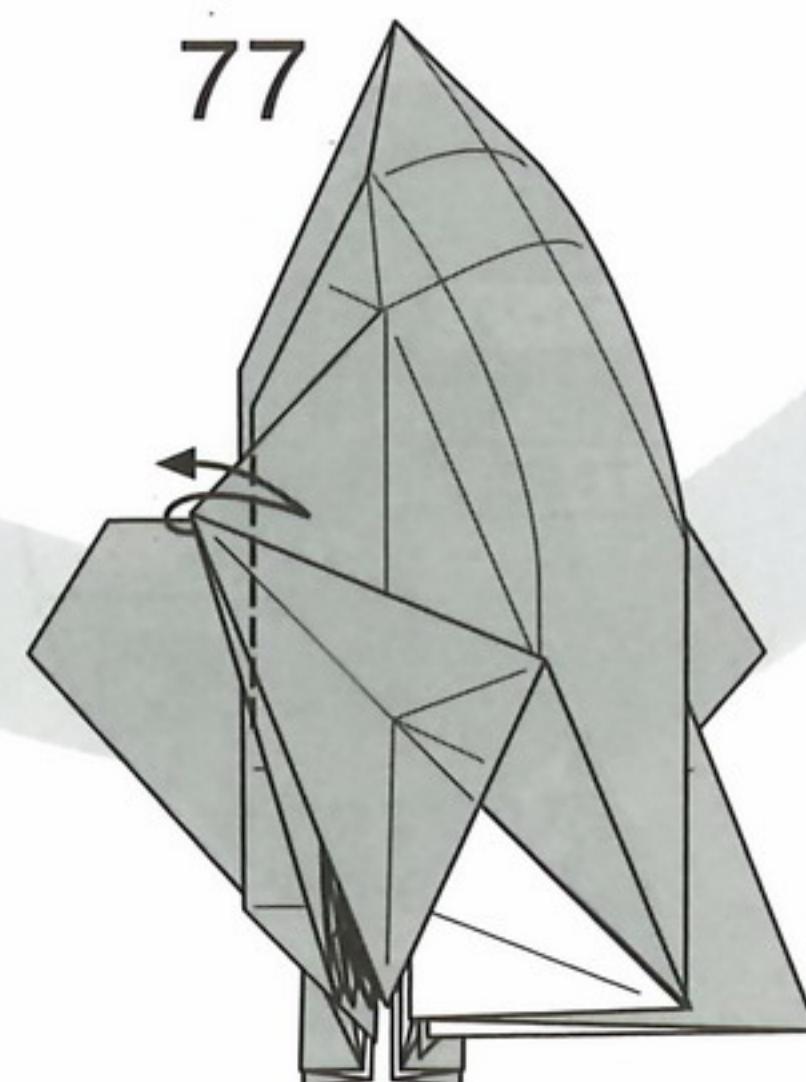


56で引き出したカドを
戻すように折る

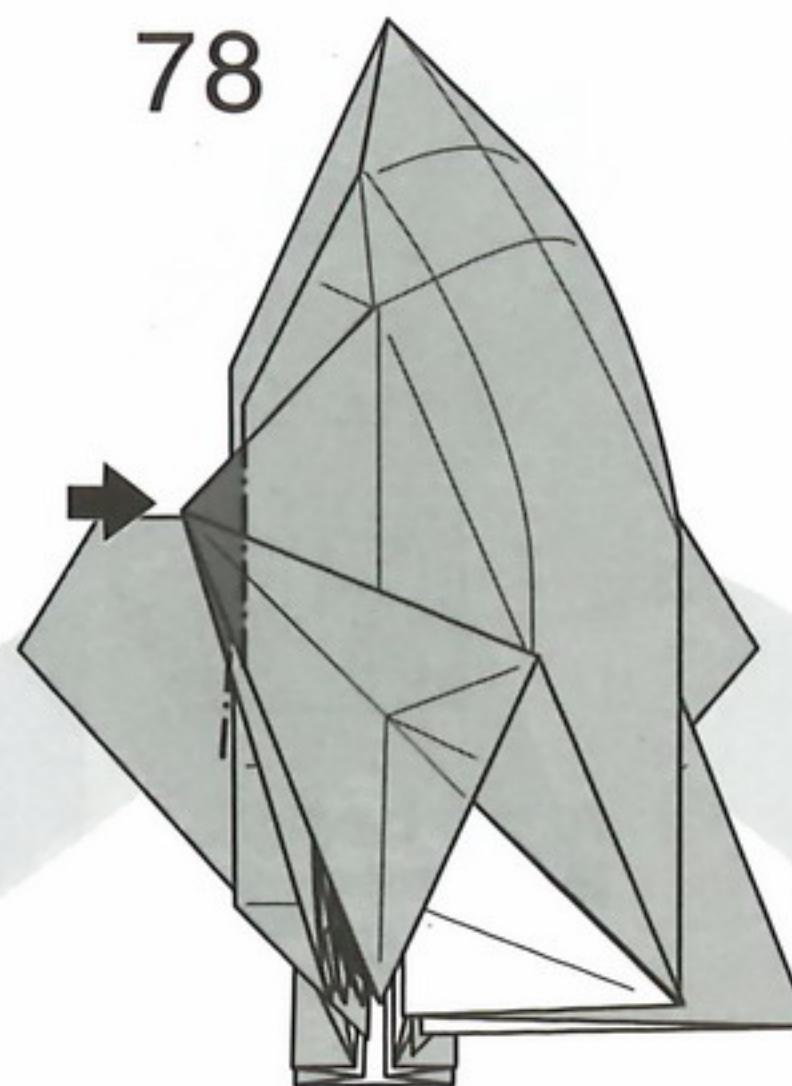




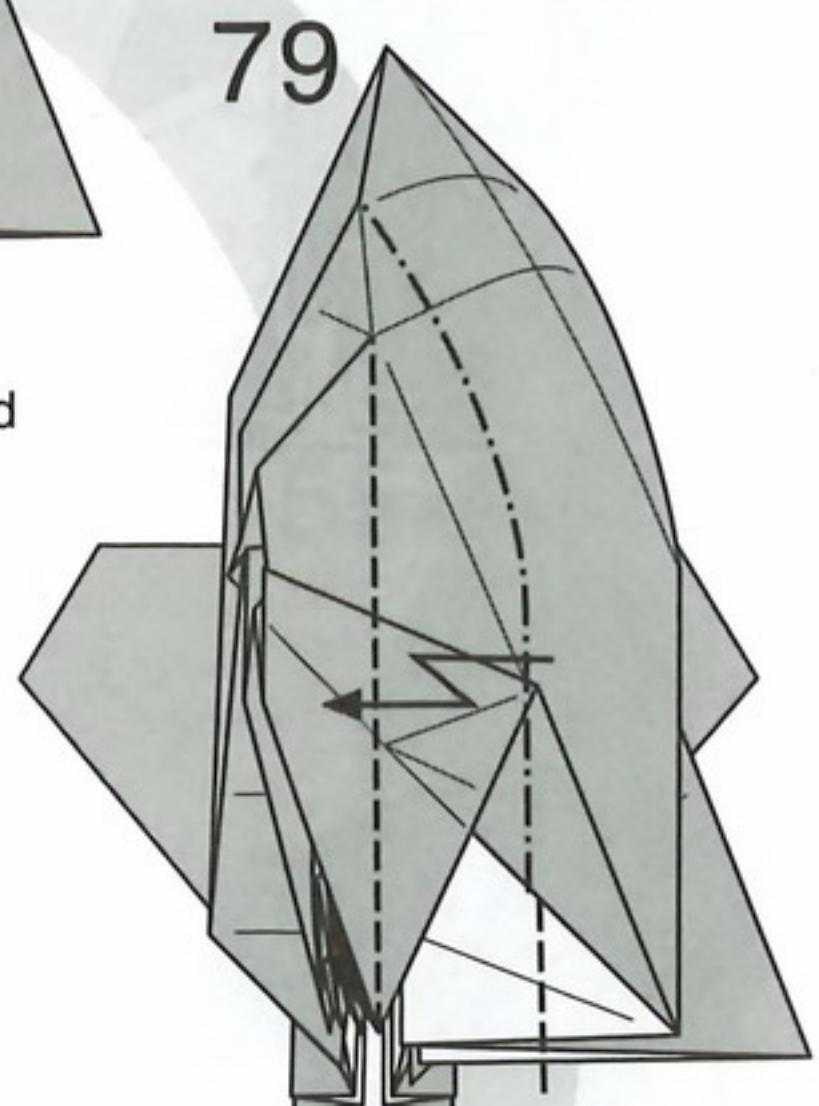
隙間を広げて
平らにする



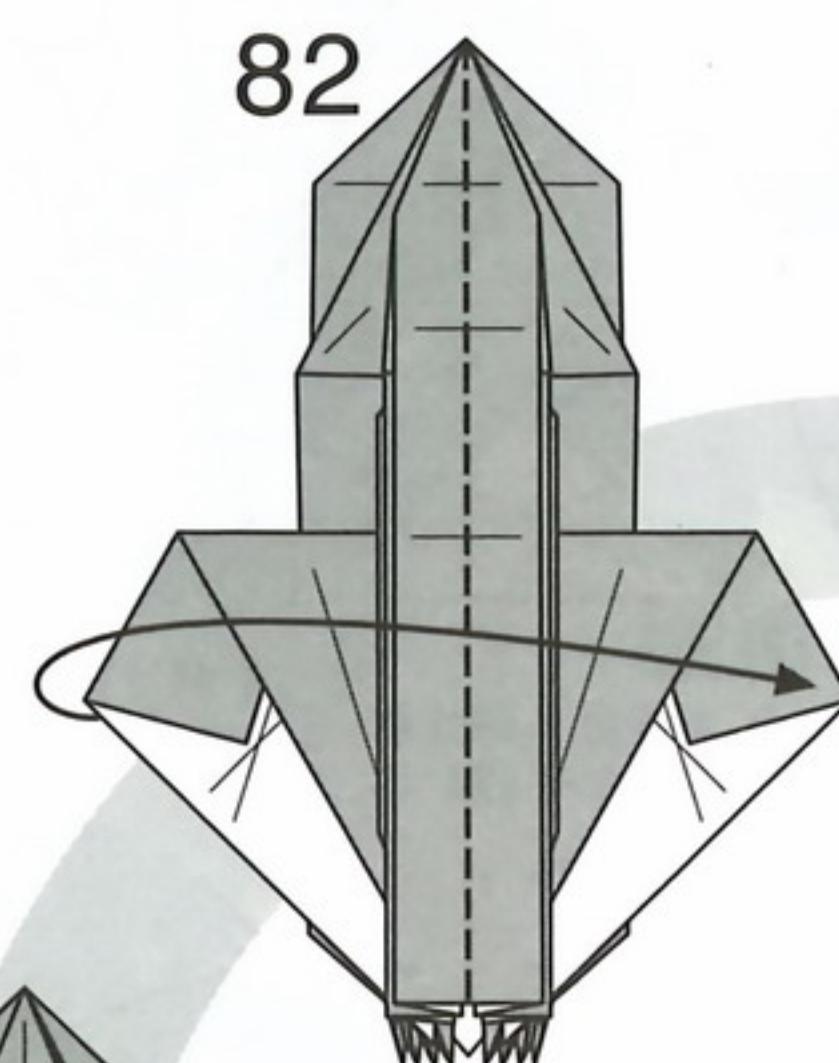
後ろの縁のところで
折り筋をつける



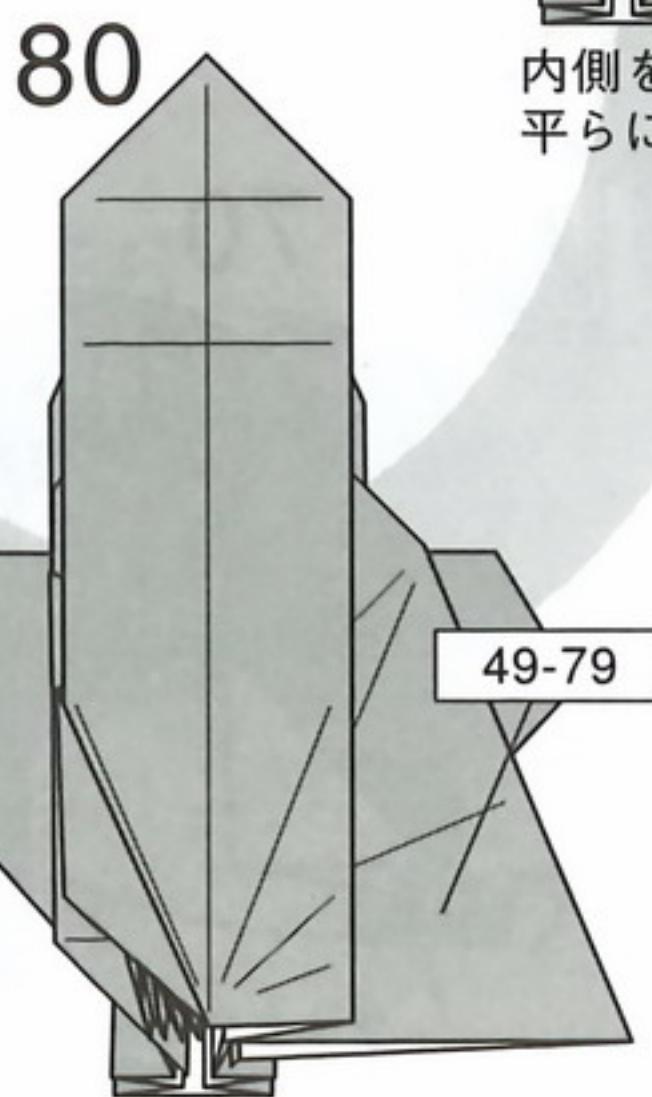
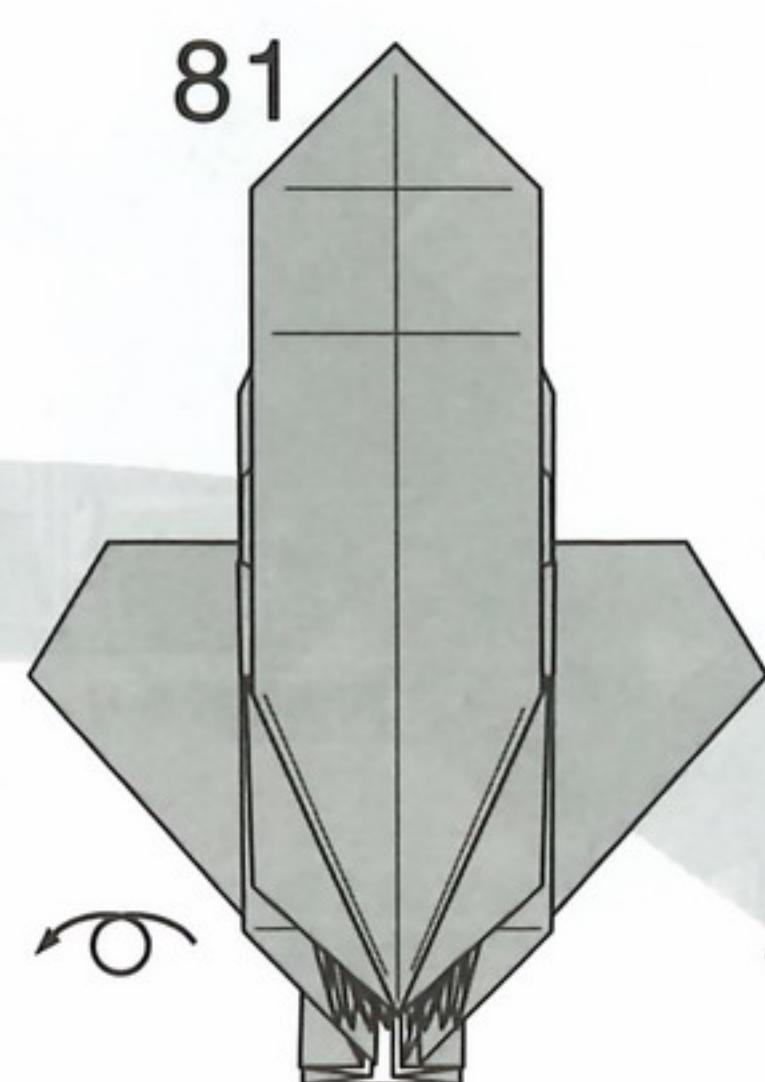
しづめ折り
(76で折った縁は Closed
それ以外は Open sink)



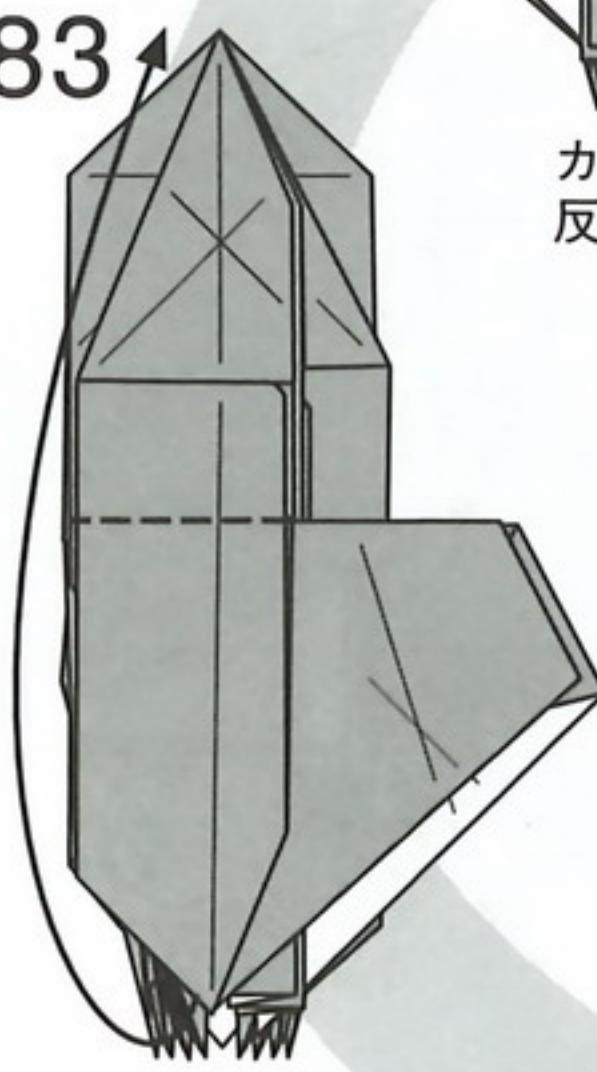
内側を広げて
平らにつぶすように折る



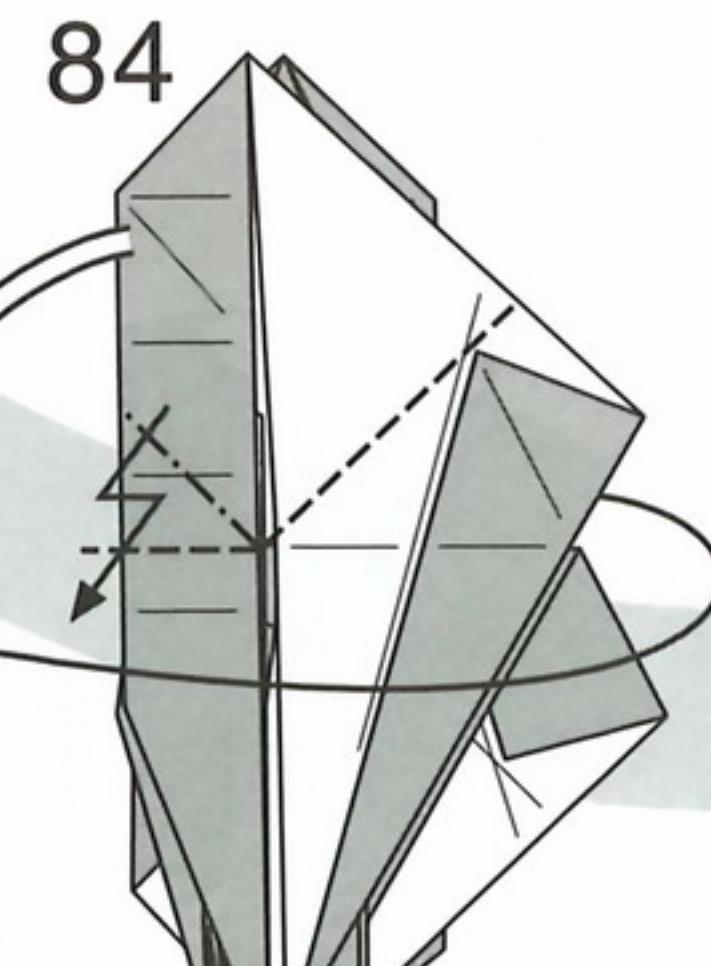
カドを
反対側に折る



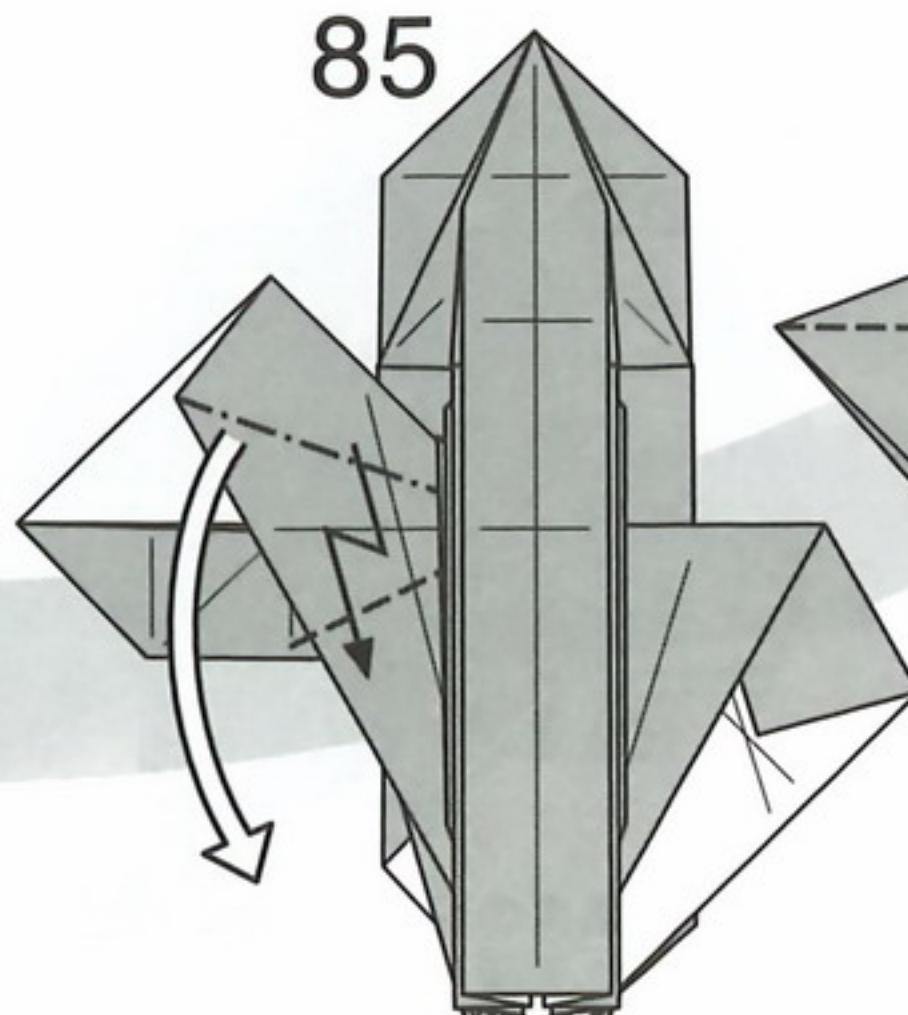
反対側も 49-79 と
同様に折る



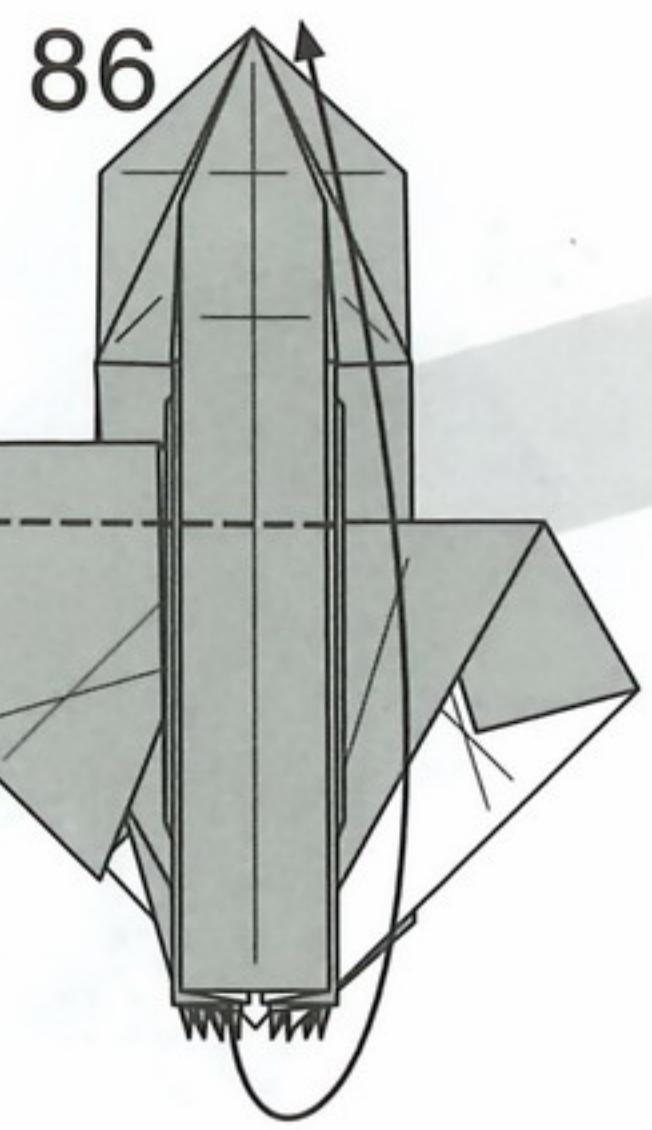
カドを上に折る



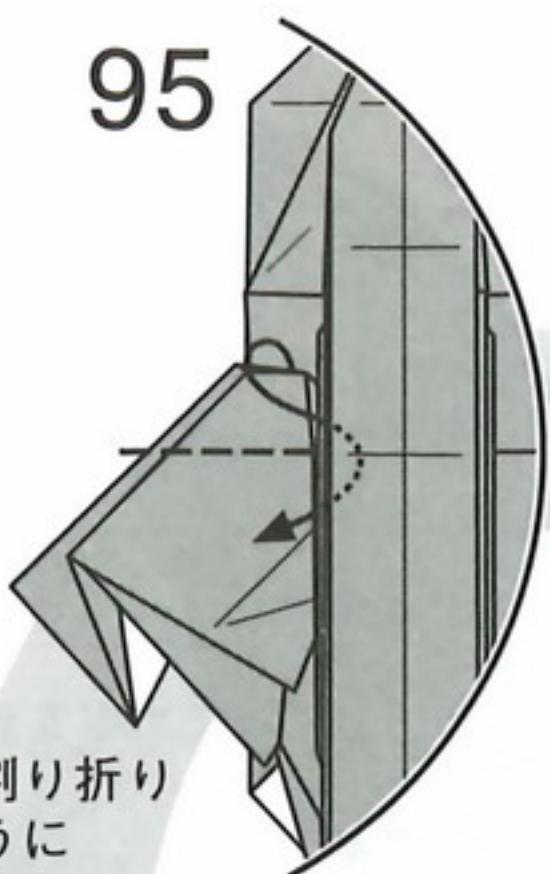
カドをずらすように
段折りしながら
横に折る



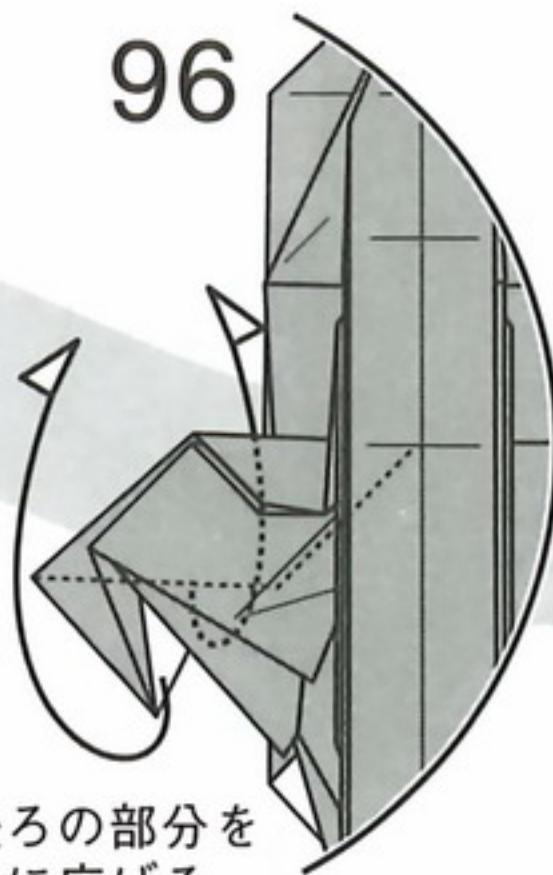
カドをずらすように
段折り



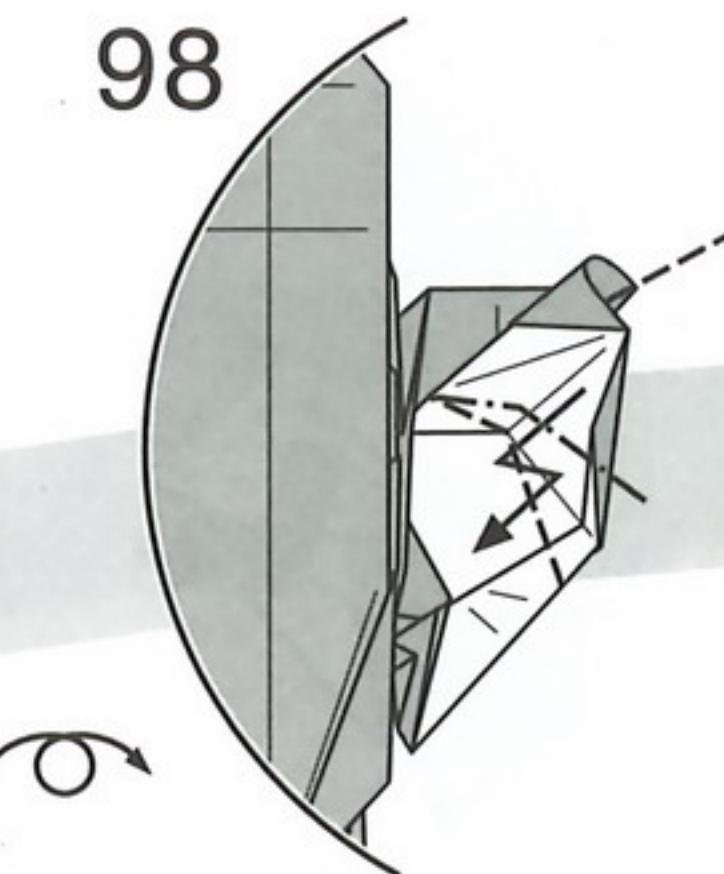
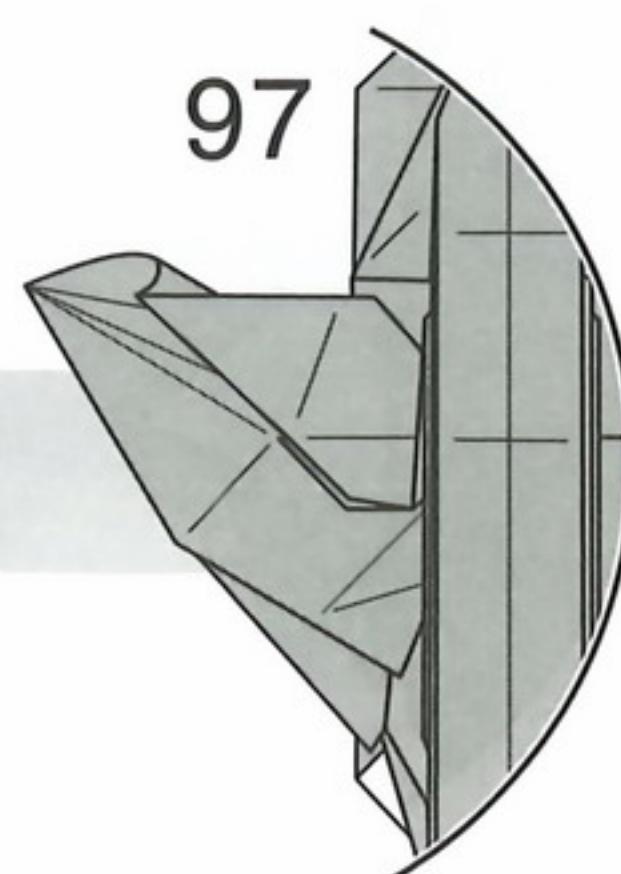
カドを上に折る



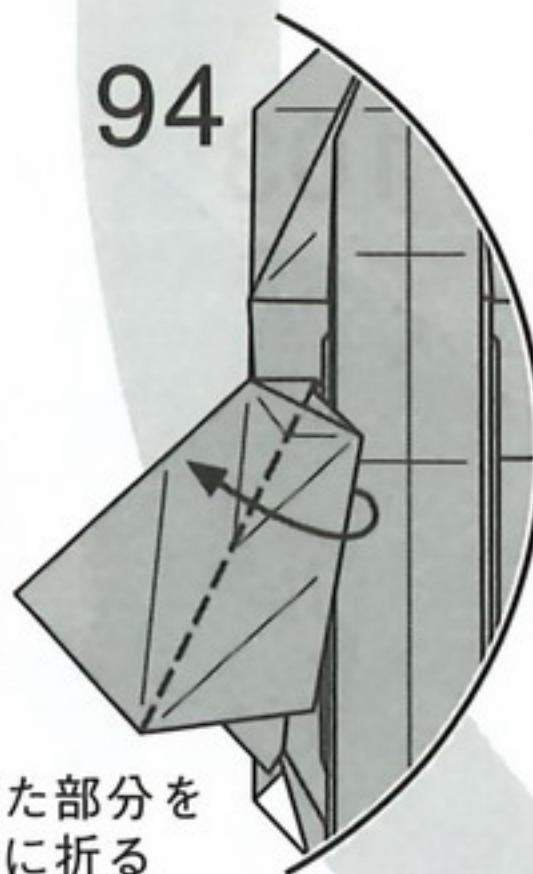
縁を中割り折りするように下に折る



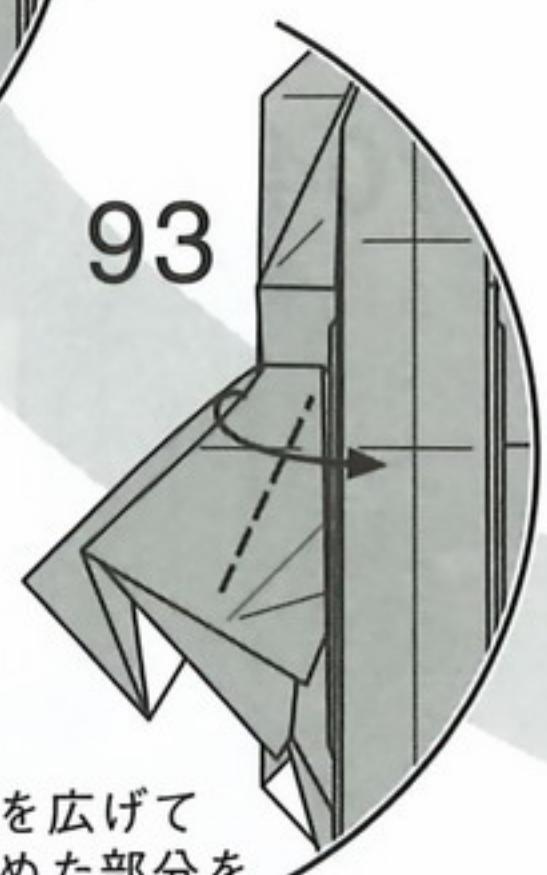
後ろの部分を上に広げる



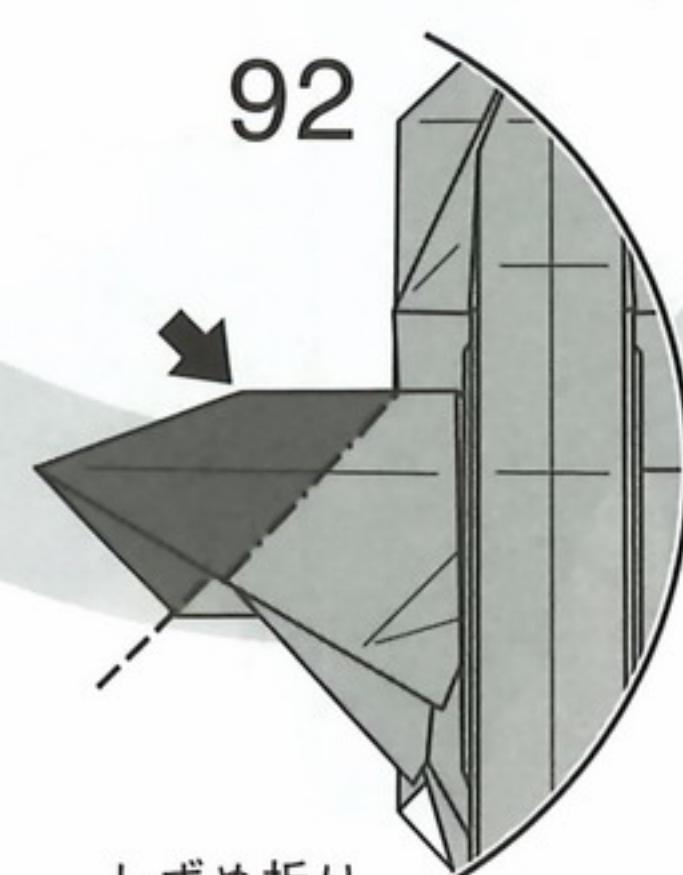
平らになるように段折り



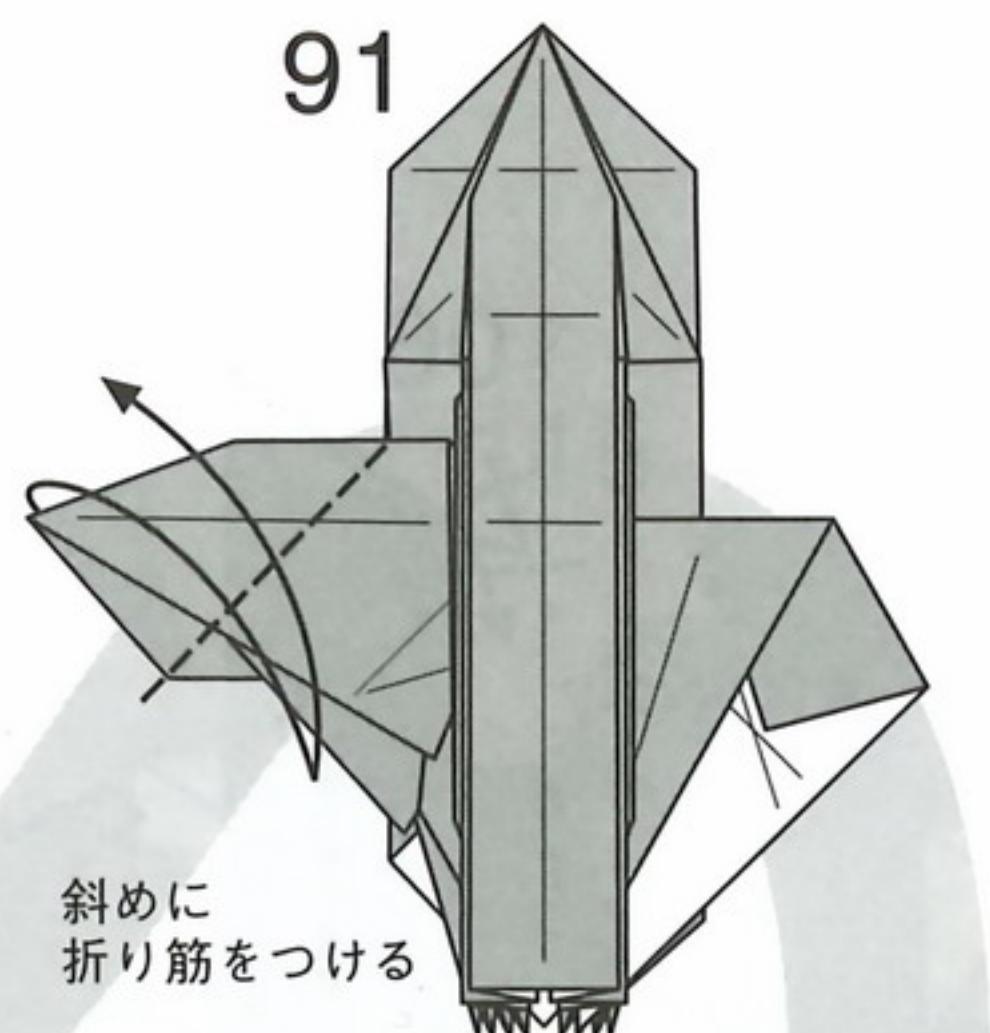
広げた部分を半分に折る



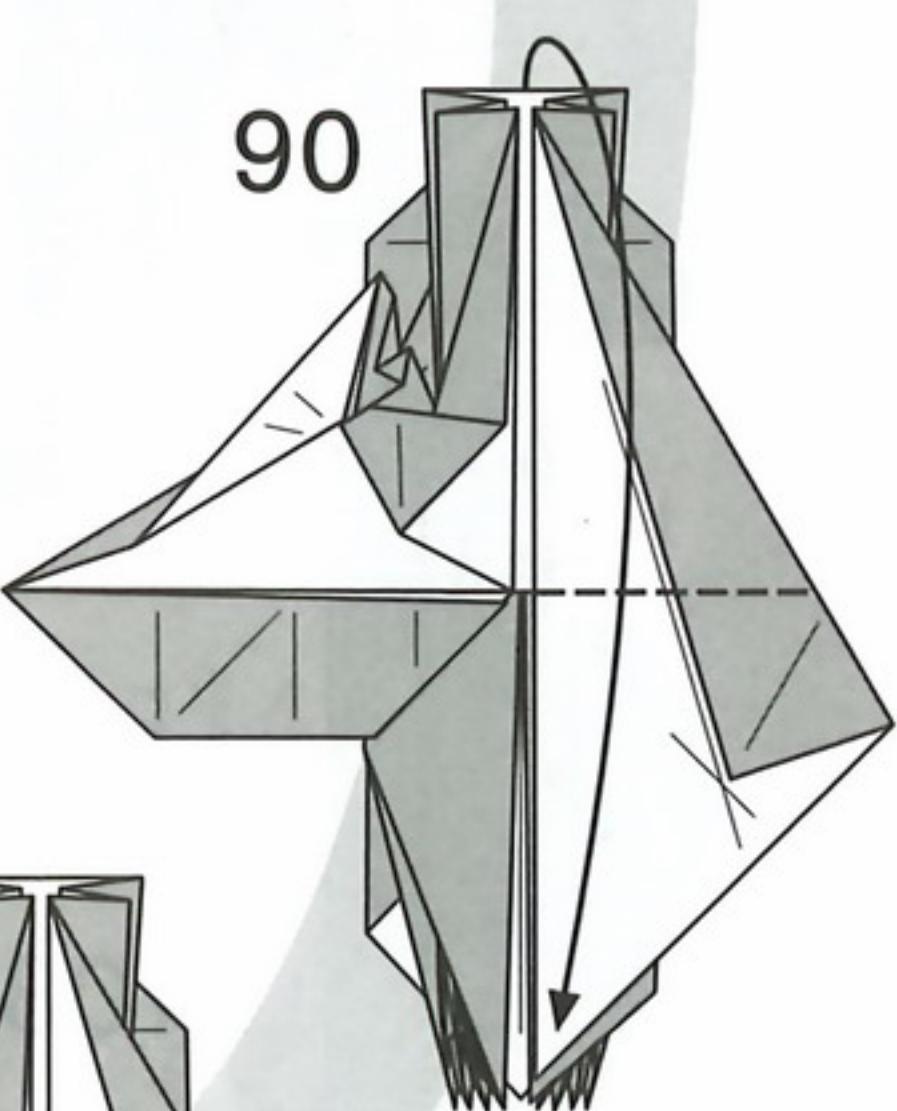
隙間を広げてしづめた部分を平らにする



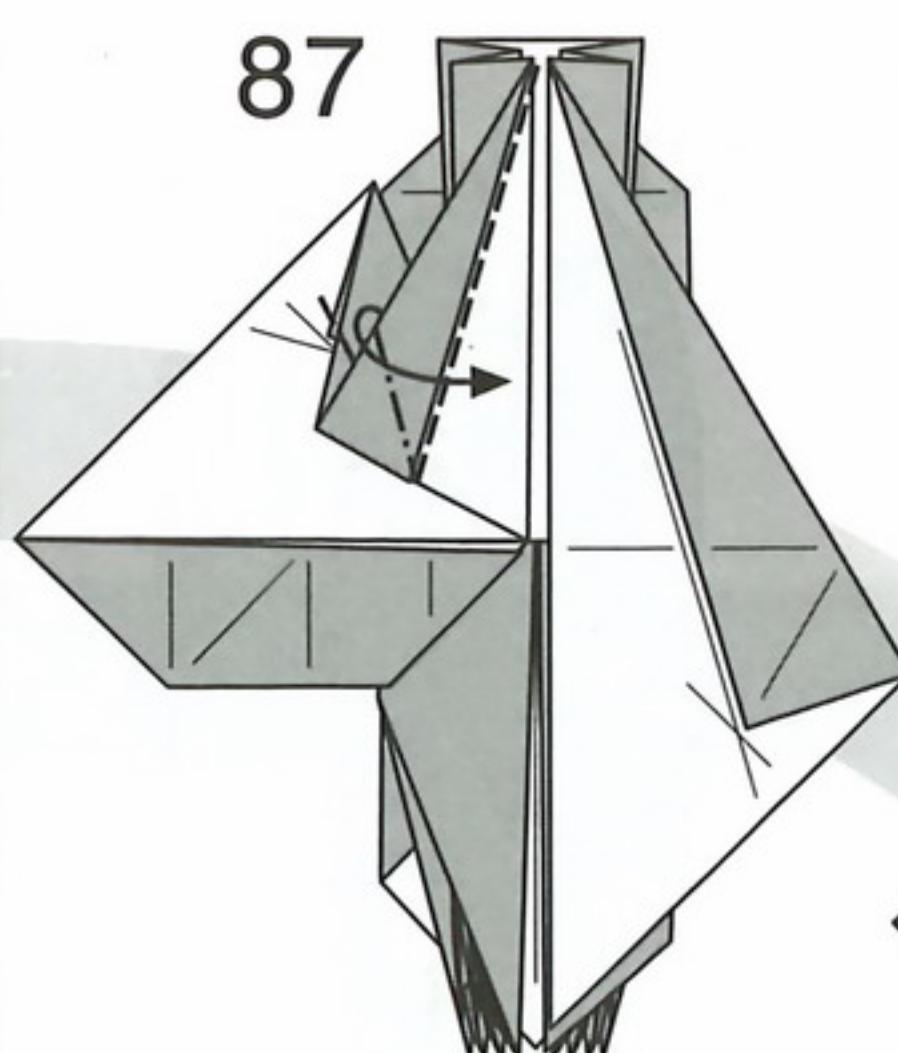
しづめ折り
(Open, Closedどちらでもよい)



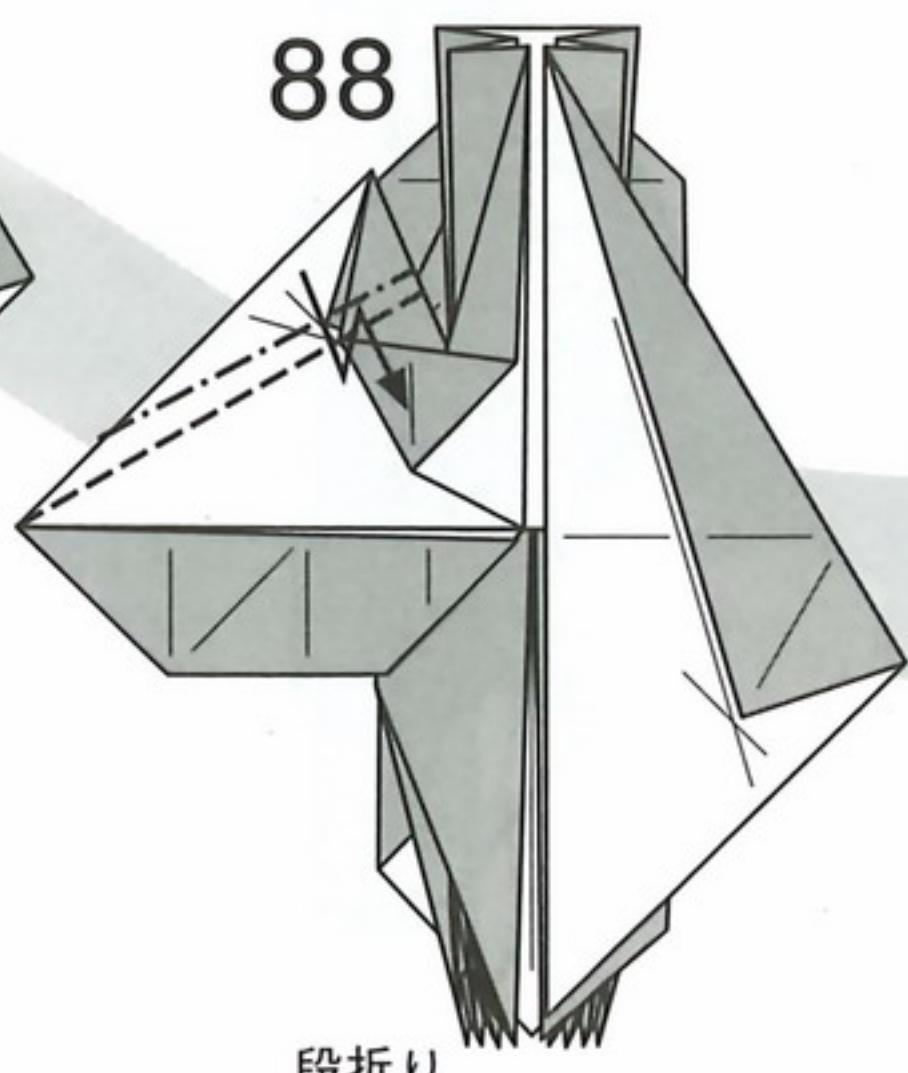
斜めに折り筋をつける



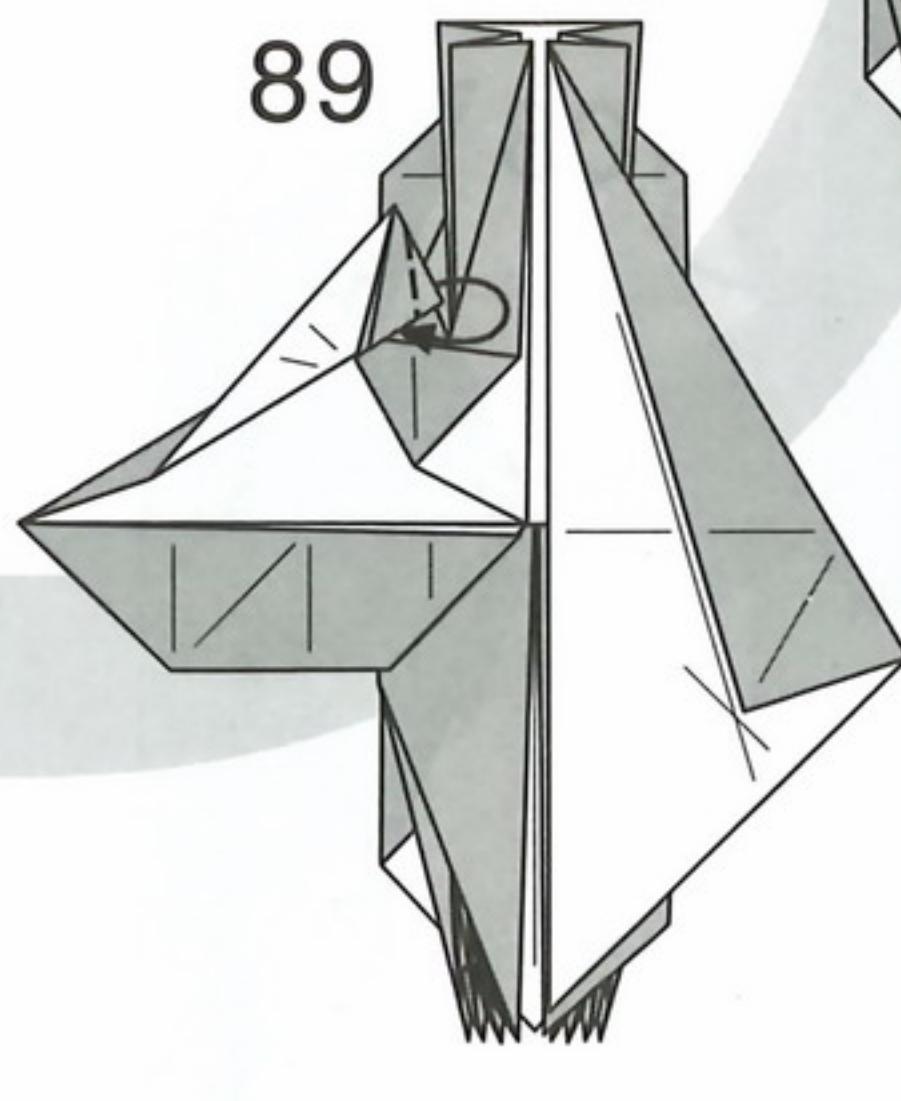
カドを下に折る



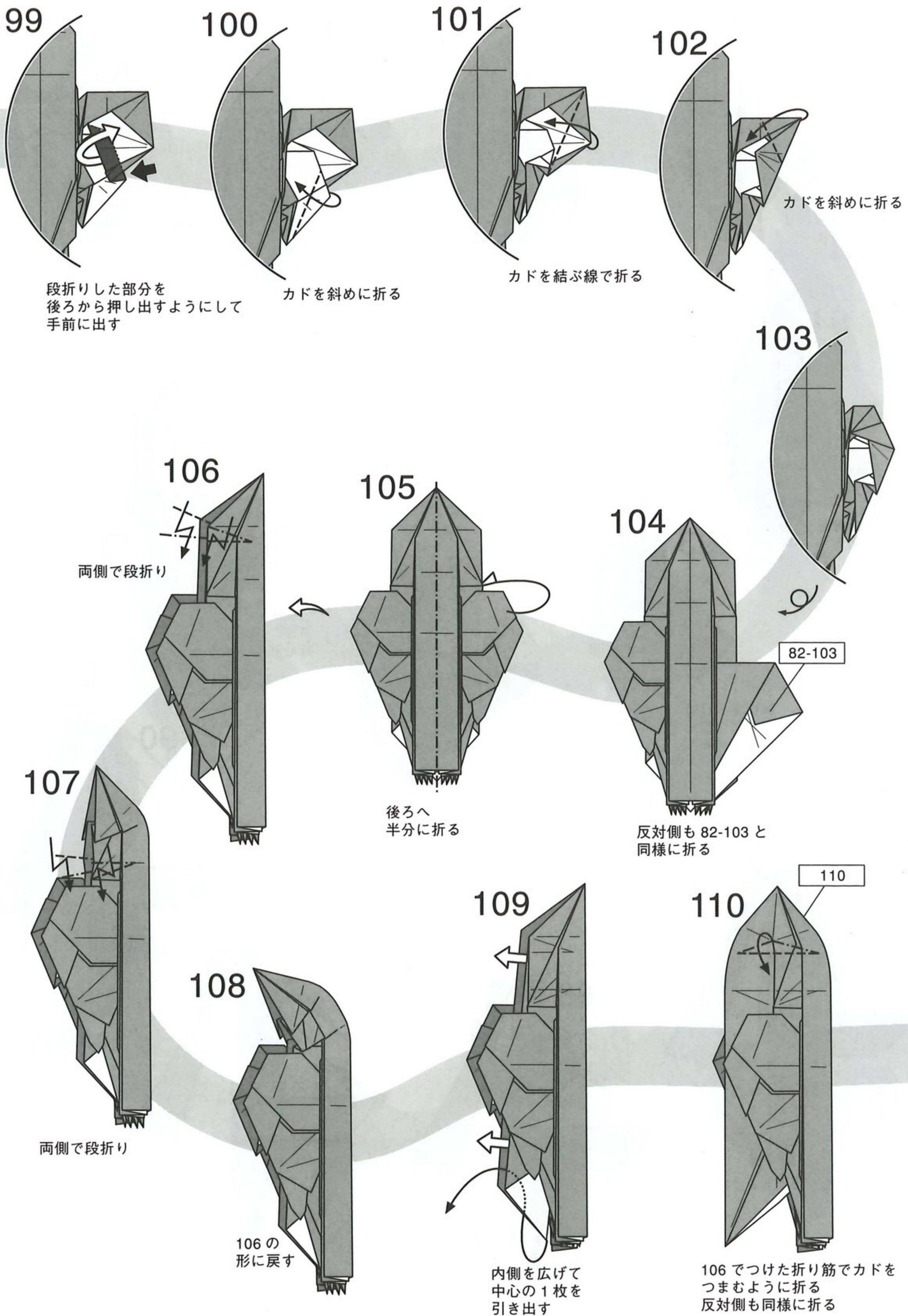
縁を引き寄せるように折る



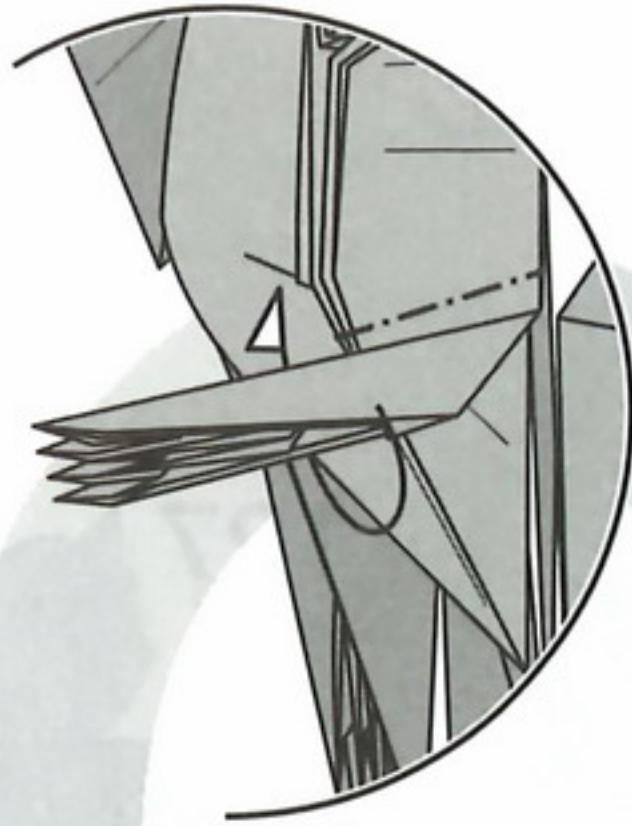
段折り



カドを少し折る

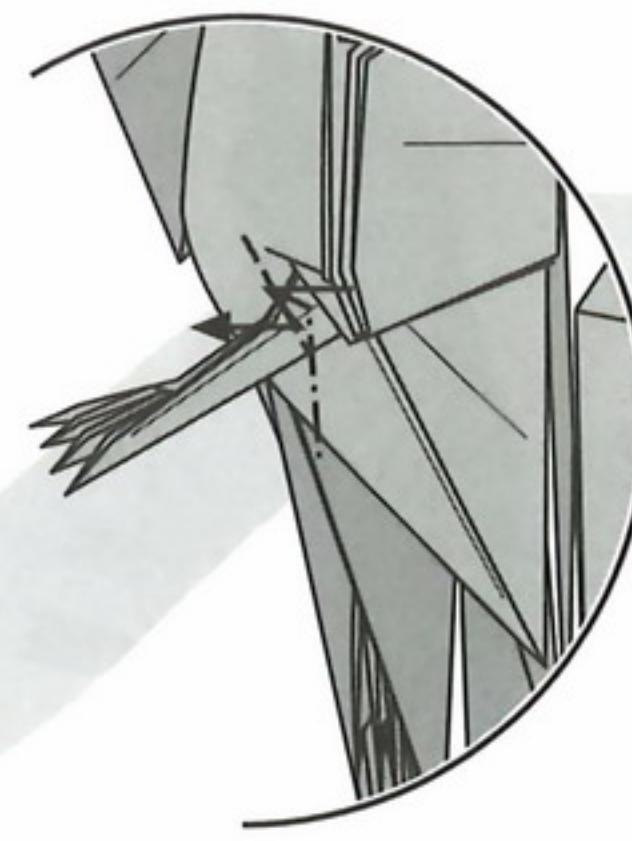


119

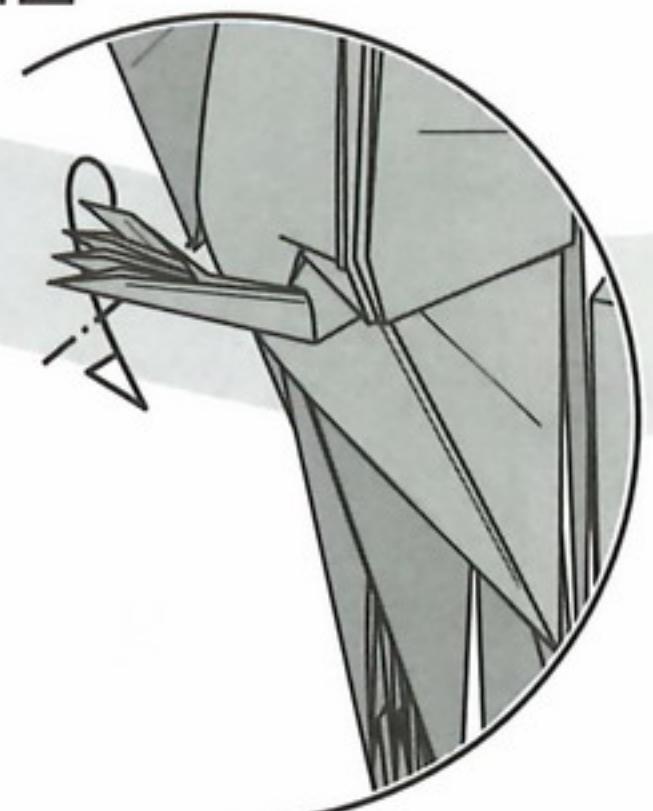


カドを後ろへ折る

121

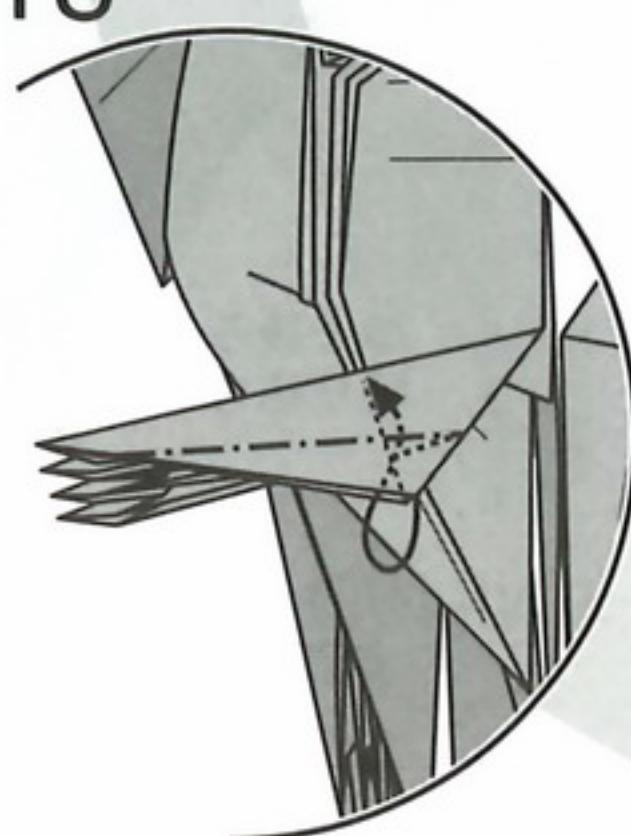


122



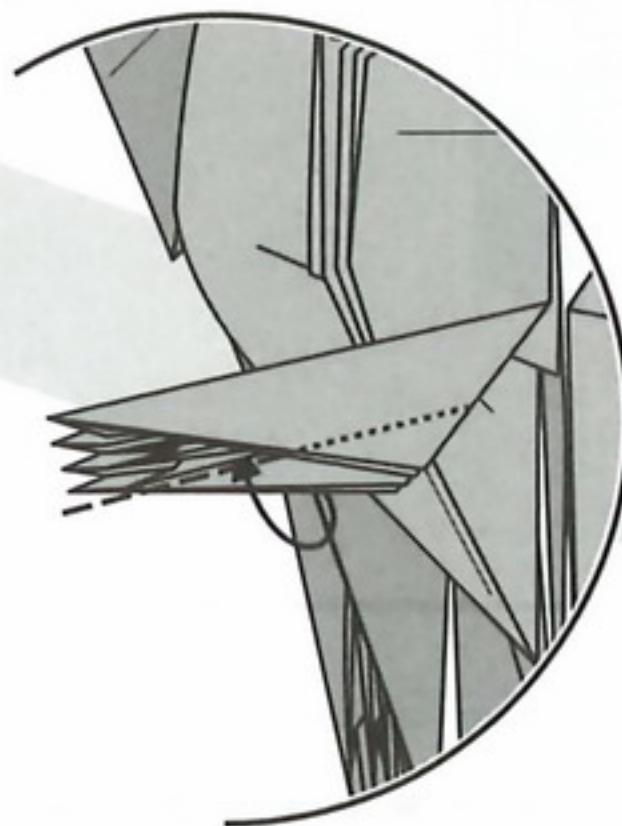
奥のカドを後ろへ折る

118



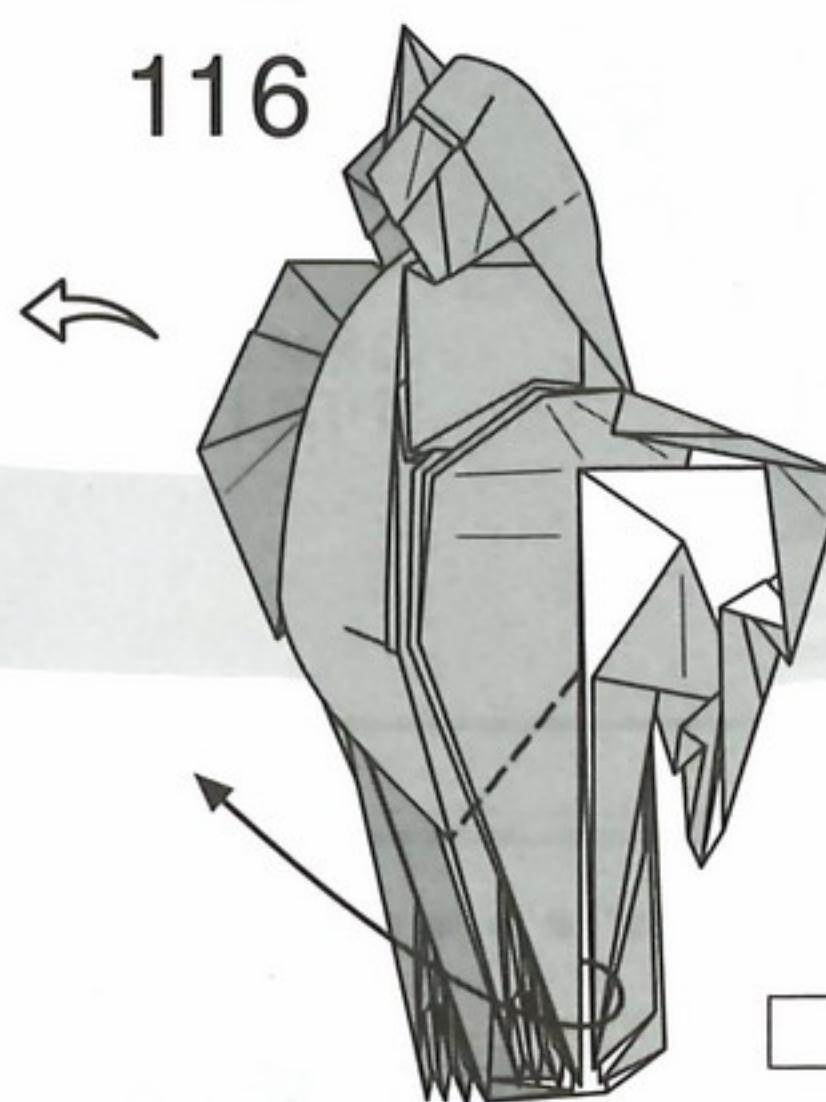
カドをそれぞれつまむように折る

117



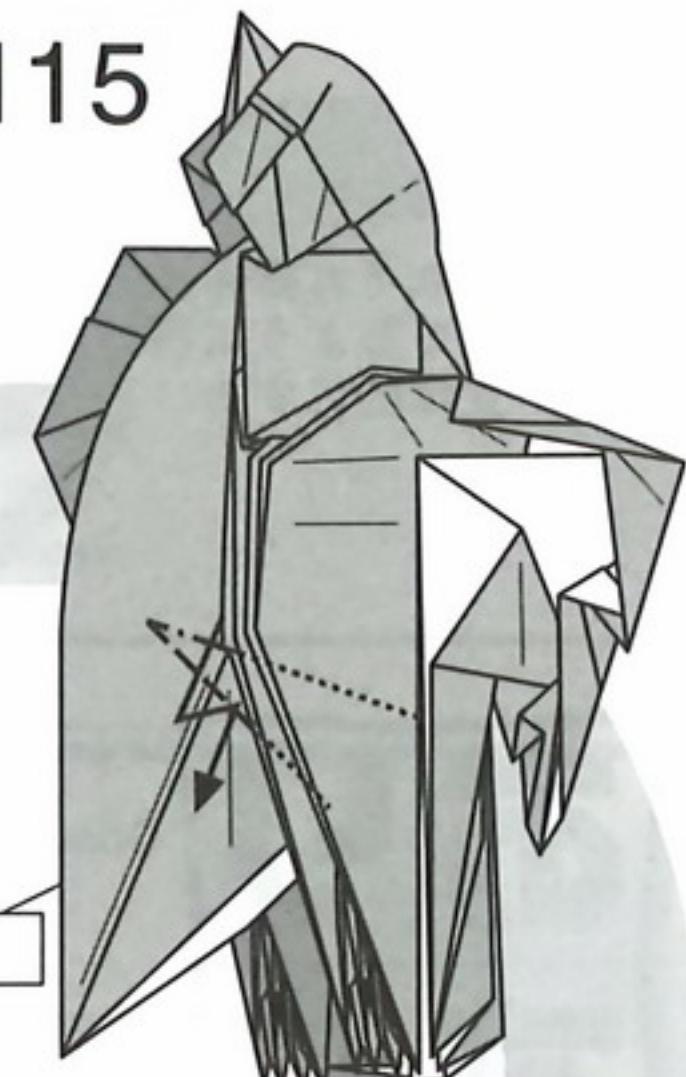
内側の縁のところで手前の2枚をまとめて折り込む

116



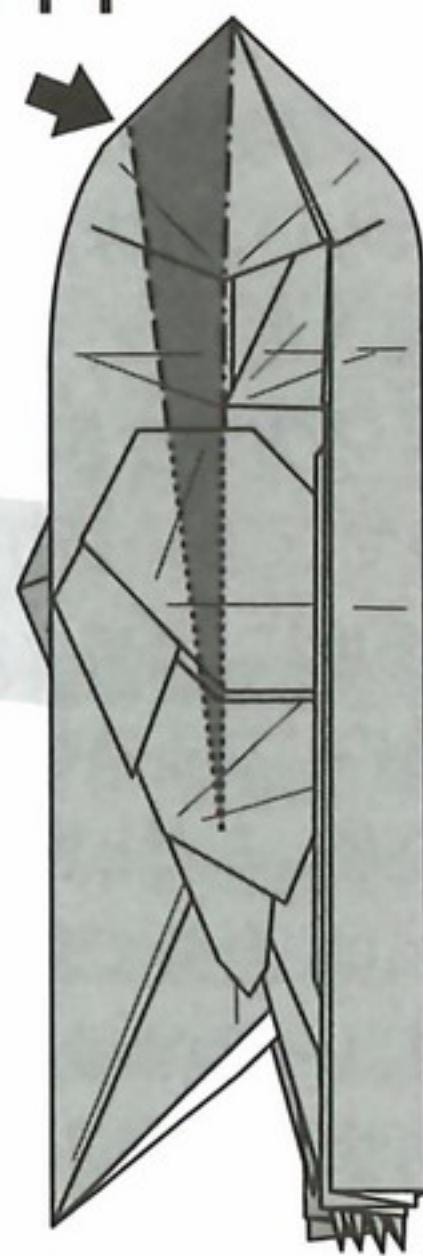
カドを斜めに折る

115



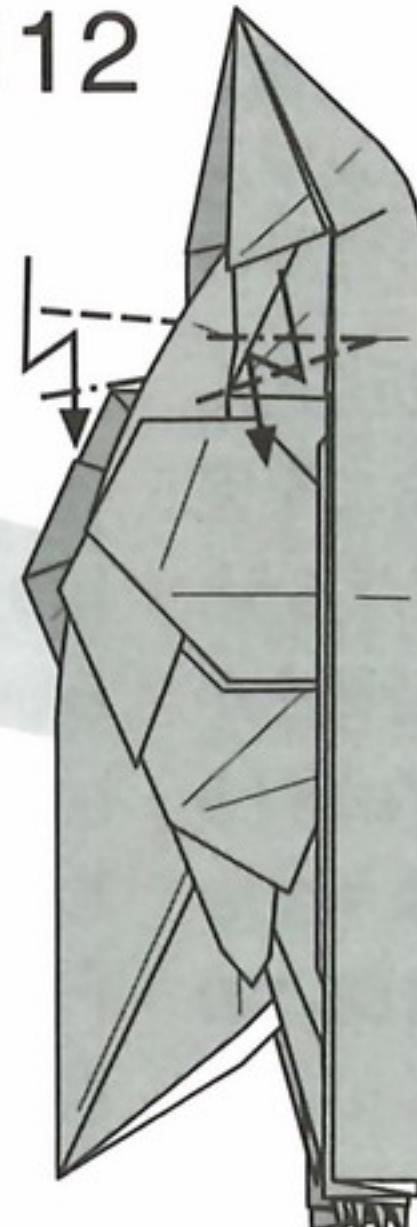
両側で段折り

111



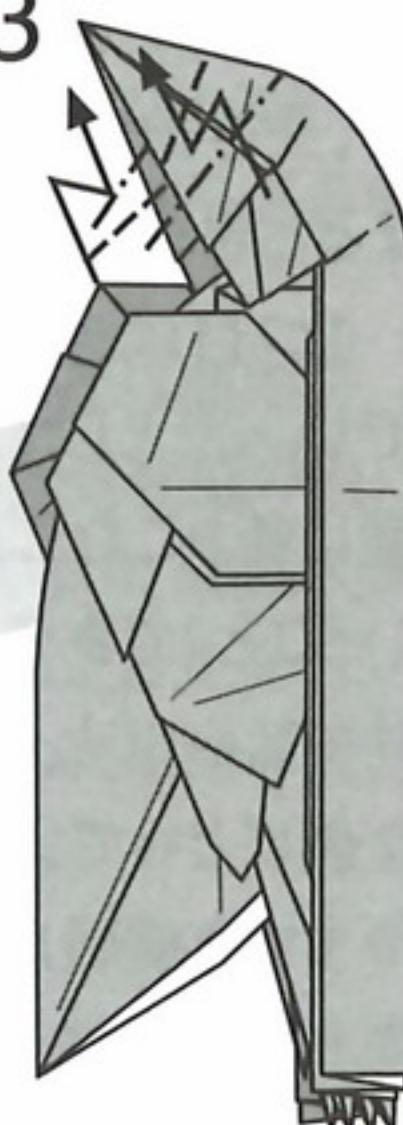
斜めに両側で段折りするようにしてしづめ折り

112



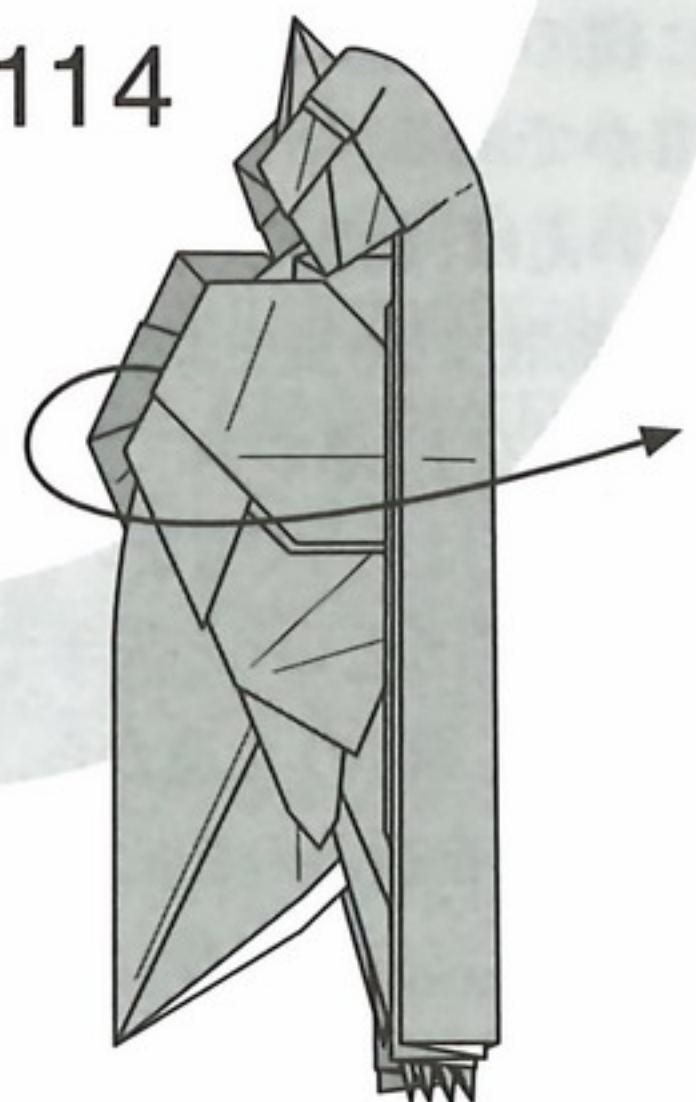
両側で段折り

113

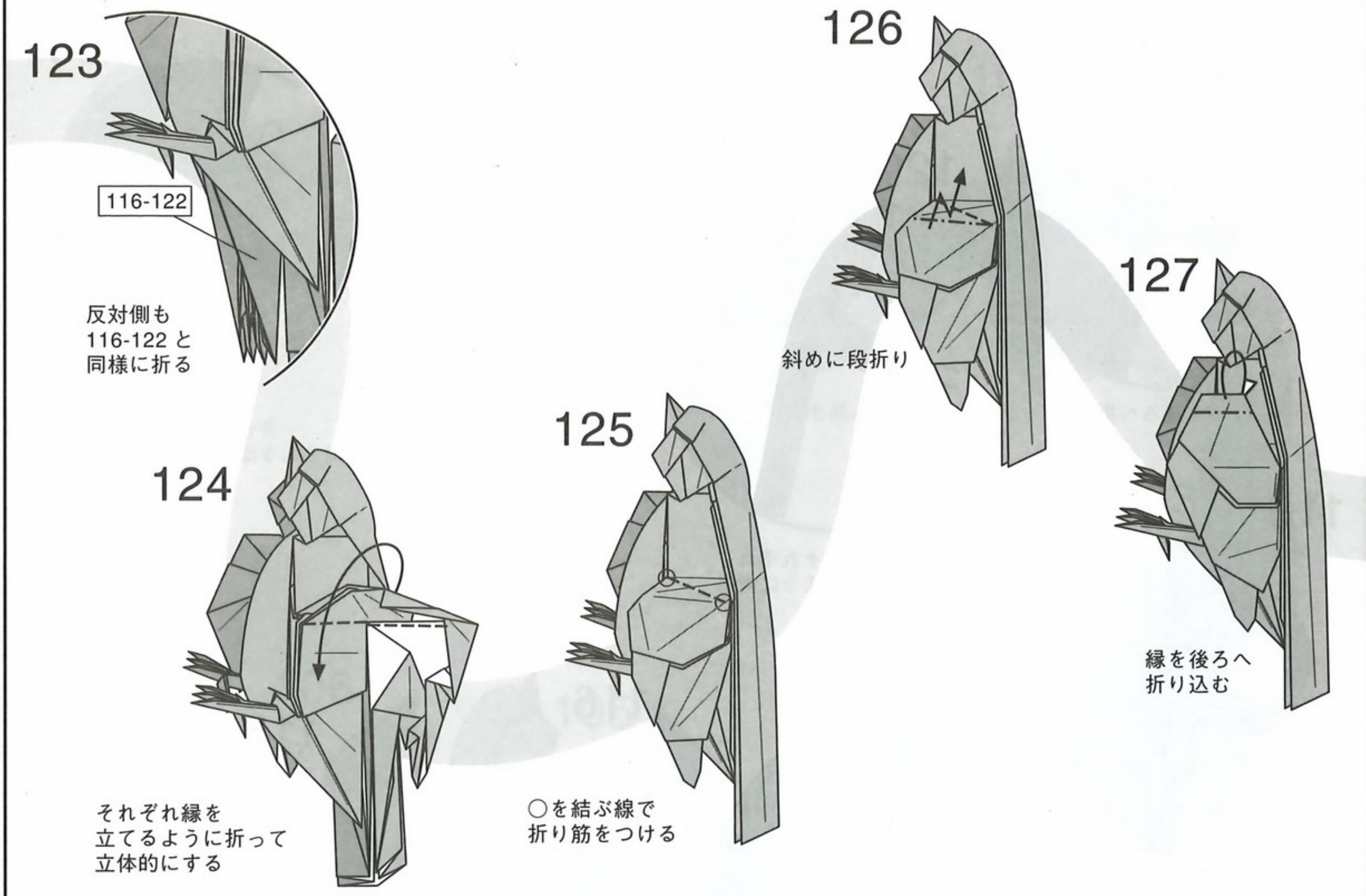


両側で段折り

114



翼の後の隙間をかるく開く



おひ すじ

虫の折り紙

Origami and Insects

金澤隆史
Kanazawa Takashi

僕の作品は、ほとんどが動物か虫である。今までに考えた種類でいえば、動物と虫は同じくらいだが、動物よりも虫をよく折る。「虫好きなんだな」と思われてしまいそうだが、実際はそうでもない。本物の虫は、どちらかというと苦手である。そう言うと、周りの人達から、「なら、なんで、虫を折るのさ」とよく聞かれるが、それに対して僕は、「何となく、見た目が折りにくそうで、何か折ってみたくなるから……」などと、答えになっていない返事をする。

正直なところ、自分でも理由が

はっきりとしていないのである。それでも、2つ、はっきりと「虫を折るとき、ここは楽しい!」と思えることがある(虫に限らず、生き物であればなんにでも当てはまると思うが……)。

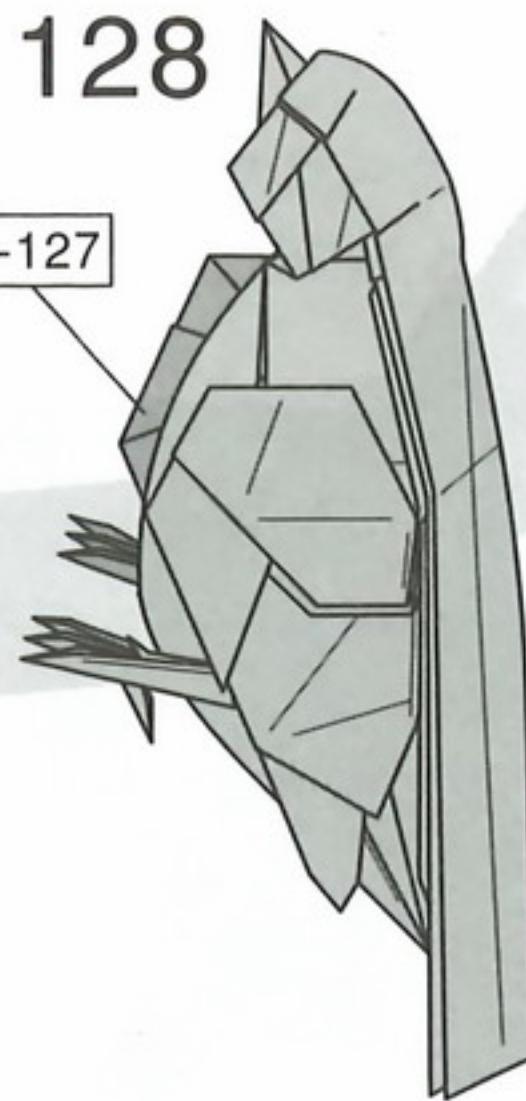
1つ目は、「どんなに細かく折り込んでいったとしても、細部まで全てを完璧に折りこむことは、まず無理だろうということ」である。だからこそ、時間をかけてじっくりと1つの事をするのが好きな僕にとって、完璧に近づけようと、いつまでも挑戦しつづけていられるこの題材に魅力を感じる。

2つ目は、「ぐらい折りを多用できる

こと」である。「虫を折るのに、そんなにぐらいうちに使つて平氣なのか?」と思われるかもしれない。好みの問題だとは思うが、個人的には、少しバランスが崩れている方が生き物らしい感じがするので、ぐらいうちに多用する。また、折る度に、出来上がりの形が少し違うものになるのも、ぐらいうちならではの楽しみだと思う。

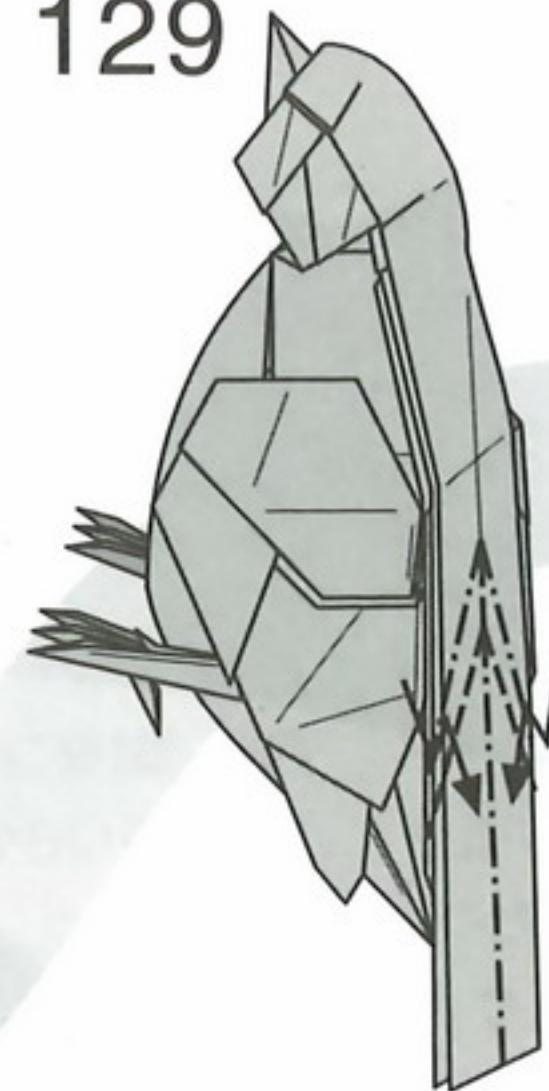
そして今、手元には、自分で創作した虫の折り紙が、いくつもある。「さて、何処から折りなおそうか」と悩む今日この頃である。

128

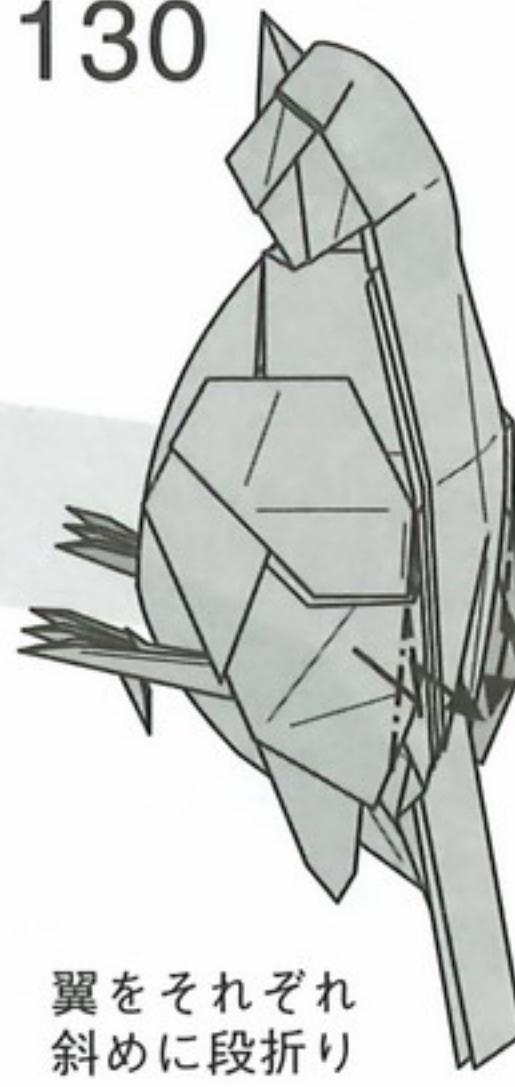


124-127

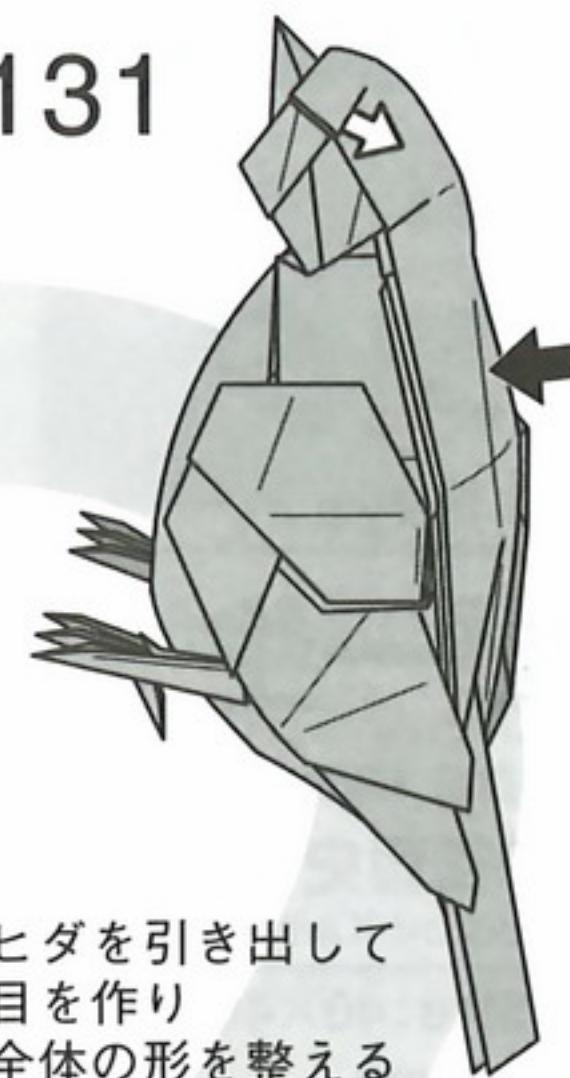
129

尾の部分を
つまむようにして
両側で段折り

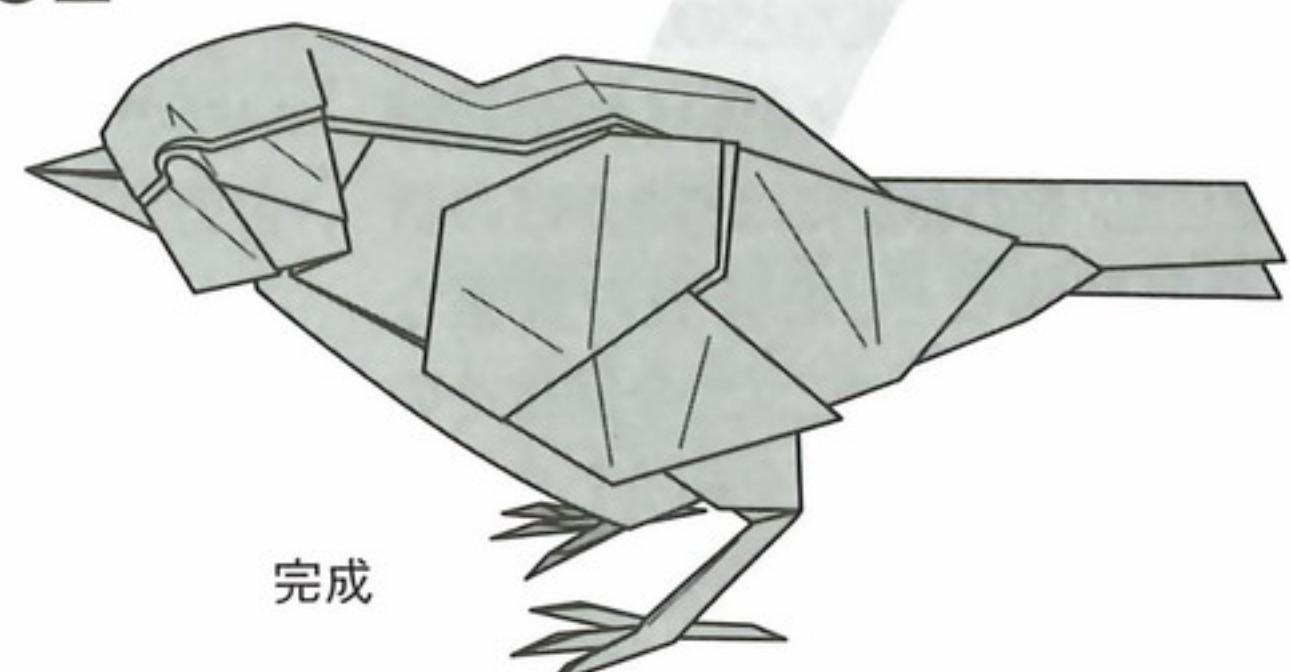
130

翼をそれぞれ
斜めに段折り

131

ヒダを引き出して
目を作り
全体の形を整える

132



完成

折紙三昧

(37)

Origami-Zanmai (This Origami and That)

JOASの周辺から

JOAS Membership, Origami Instructor Renewal,
and A New Maekawa Book

◇ 御礼会員増

7月はじめ6月30日時点で会員登録いただいた皆様に総会のご案内を送付しています。送付総数は300を超えており、ほぼ前期末の会員数水準に達しています。会員登録増は会の活動を支えるために非常に重要です。ご支援ありがとうございます。

◇ 指導員認定証送付について<重要>

現在、折紙指導員認定証を発送中ですが認定証送付条件に関して再度ここにお知らせします。今まで約60名の指導員を認定いたしておりますが、取得年月日によって要件が異なりますのでご注意下さい。お手持ちの認定証の取得年月日をご確認下さい。

1) 取得年月日が2006年4月以降の方

日本折紙学会の第18期会員登録をしていただければ、2008年3月31日までの認定証を発行いたします(初年度更新料免除)。2009年3月31日までの認定証は、19期会員登録と更新料1,500円が必要です。

2) 取得年月日が2006年3月以前の方

日本折紙学会の第18期会員登録の他に更新料1,500円を頂いており、確認次第2008年3月31日までの認定証を発行いたします。更新料が未納のため指導員認定証をお送りできない方がいらっしゃいます。更新手続きが1年以上滞りますと再試験頂くこともありますのでご注意下さい。

◇ 待望の前川淳氏の新刊

この号が皆様の手に届く頃は既に店頭に見つけている方もいるかもしれません、日本折紙学会の評議員代表でもある折り紙作家前川淳氏の新刊『本格折り紙一入門から上級まで』が日貿出版社より発刊されました。『ビバ!おりがみ』の復刊を願った多くの愛好家が待ちに待っていたことでしょう。折り紙作品の成り立ちを40以上の様々な視点(テーマ)から論じ、それぞれに作例を以て解説した日本版『Origami Design Secrets』ともいいうべき事典・教科書的仕上がりになってます。悪魔をはじめ名作や未発表作も収載の愛好家必携の1冊は間違いないし。

西川誠司 Nishikawa Seiji

展開図折りに

挑战!

Crease Pattern

Challenge!

第48回

マンタ

Manta Ray

吉野一生

Yoshino Issei

解説:神谷哲史

Annotated by Kamiya Satoshi

Paper Size: 40×40cm

Length: 34cm

先 日、おりがみはうすのHDDのバックアップデータの中から、故・吉野一生氏が折り図集などのためにそろえたと思われるデータがいくつか発掘されました。そのなかには書きかけの折り図や展開図など、未発表の貴重なデータも含まれていました。今回はその中からマンタの展開図を紹介します。

私がこの作品の存在を知ったのは、『折紙探偵団新聞』21号(1993)に掲載された大阪で巨大なマンタが展示されたという記事でした。当時の新聞は残念ながら印刷方法などの関係で写真が見づらく、いったいどんな作品なのか気になっていたのですが、数年後におりがみはうすに展示されていた薄紫のマンタを見て、なるほどこれがと納得したのを思い出します。

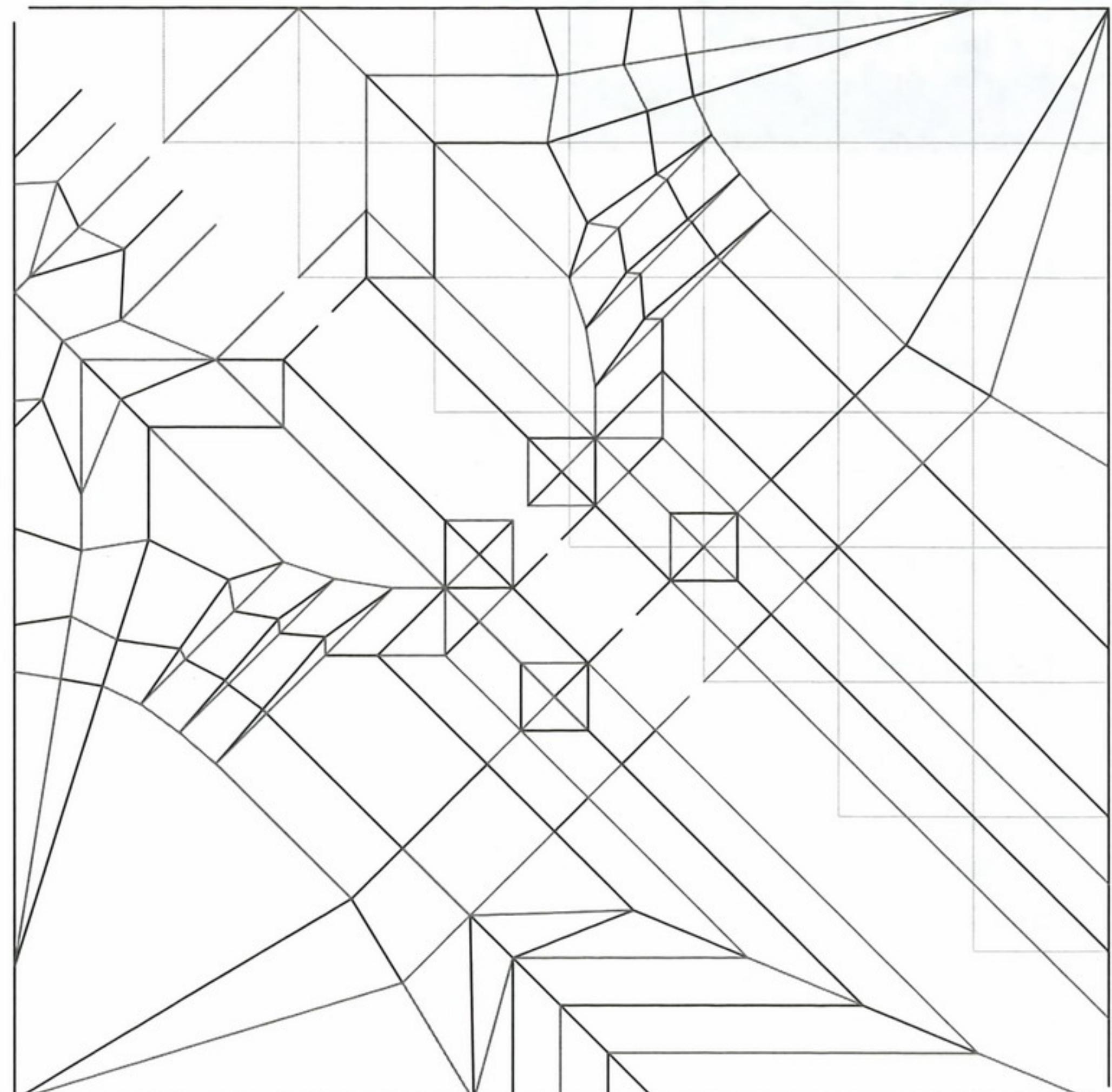
展開図を見ると、45度と自由角を組み合わせて作られています。非常に吉野作品らしい展開図なのですが、そのなかでも最も特徴的な部分は、やはりヒダを使ったエラの部分でしょう。吉野氏はヒダの使い方をいろいろと研究されていたようで、馬のたてがみの部分など、いくつかの作品で同様の手法が使われています。造形的には非常に強力な手法なのですが、同時に周りの構造とのバランスをとるのが非常に難しい手法もあります。筆者もシロナガスクジラなどでヒダを使った造形を試みた経験がありますが、扱いにはかなり苦労しました。吉野氏の個性的な作風は、この手法をはじめとしていろいろな表現



方法を柔軟に取り込んでいく過程で出来たものなのかもしれません。

吉野氏がどういった順番で折り進めていたのかはわかりませんが、構造や他の吉野作品の折り方を見る限り、まずは基本的な折り筋をつけて、頭部から順番に進めていくのが良いかと思います。展開図右上で基本的なパーツを折り出し、左下で形をととのえます。折り畳んだ後は各部のヒダをそれぞれ隙間に差し込んでロックして、口や尾の部分を仕上げれ

ば完成です。最大の難所となるのはエラの部分で、すべてを同時に、完璧に折るのは難しいのである程度強引にまとめてしまう事も必要となるでしょう。



File-23

シッポ・マボナ

Sipho Mabona

■OrigamiUSAのコンベンションに参加したのは初めてだそうですが、どちらからいらしたのですか。

スイスからです。父は南アフリカ出身ですが、私はスイスで生まれました。

■昨年のイタリアCDOコンベンションにも参加されていましたが(本誌101号アフタヌーン・オリガミ参照)、ほかのコンベンションには参加されましたか。

昨年のイタリアが最初でした。今回のアメリカが2度目になります。スイスにも折り紙団体がありますが、私の住んでいる地域では活動しておらず、定期的にコンベンションを開いていません。またシンプルな作品を折っている人たちが中心なので、私は参加していません。普段は独りぼっちで折り紙を折っています。

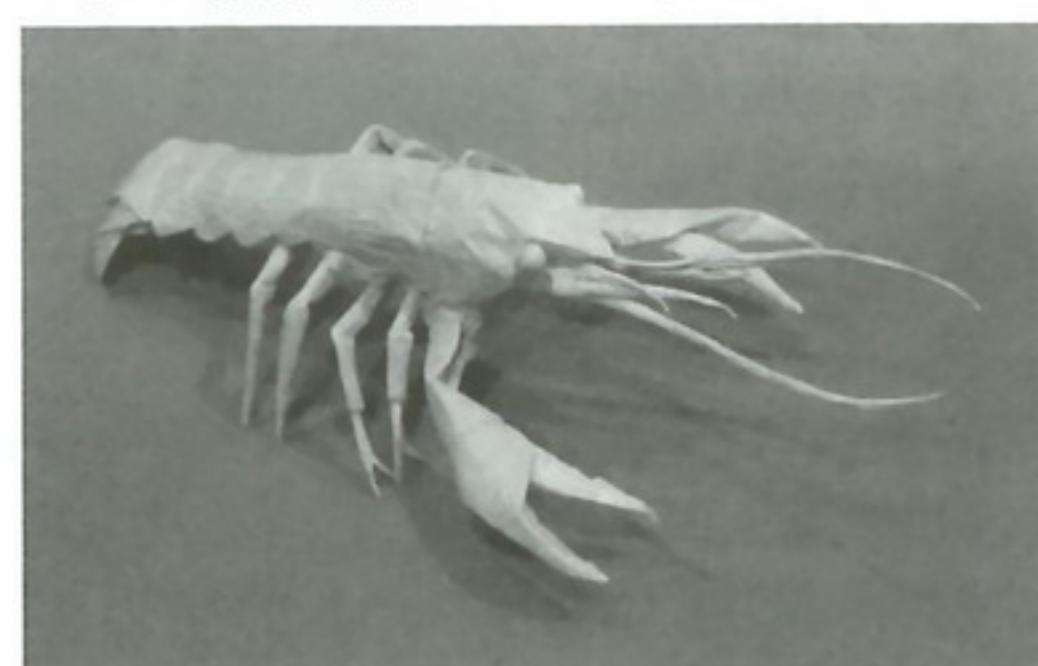
コンベンションに参加すると、インターネットで名前を見かけるような有名な作家やアーティストの多くに直に会えるので、たいへん楽しいですし、光栄なことにも感じます。

■どのようにして折り紙を始めたのですか。

私はもともと紙飛行機が趣味でした。紙飛行機の本も書いたことがあります、残念ながらまだ出版はしていません。今でも紙飛行機は続けています。紙飛行機にはさまざまな世界記録がありますが、それを破るのが私の夢です。7年前のことですが、折り紙を学べば、自分の紙飛行機の性能を向上させることができのではないかと考えました。それが折り紙を始めたきっかけです。

■作品を拝見すると、いくつか異なったスタイルをお使いのようですが、創作はどのように学んだのですか。

私が創作を始めたのは最近のことです。



▲ザリガニ

Hatori Koshiro

シッポ・マボナ(Sipho Mabona)：1980年スイス生まれ。小学校の教師をしながら、大学院で臨床心理学を学んでいる。スイス・ルツェルン在住。

取材：羽鳥公士郎



▲フグをふくらますマボナ氏

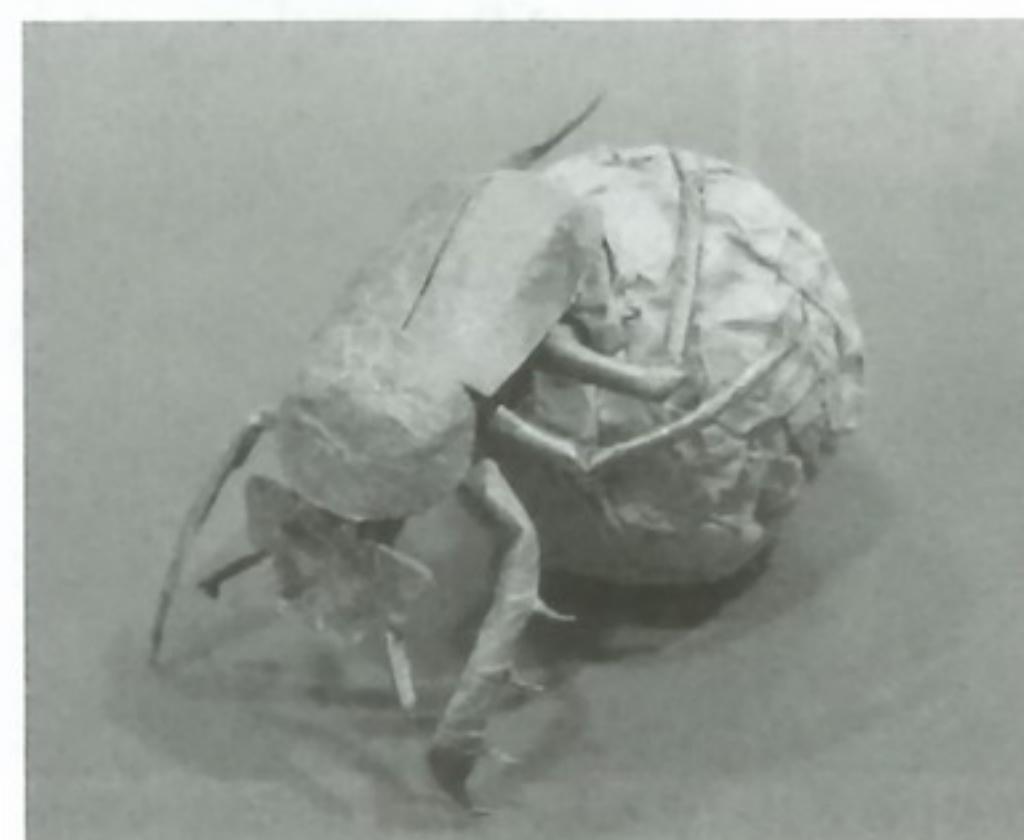
インターネットでさまざまなウェブサイトを見ながら創作を始めました。次いでロバート・ラングさんの『Origami Design Secrets』を読んで、多くのことを学びました。私は当初、ジャン・ディンさんのようなスタイルの、曲面を使ったシンプルな人物像を作っていました。そのような作品をFlickr(インターネットの写真共有サイト)で公開していたところ、ブライアン・チャンさんからコメントがあって、複雑な昆虫を作つてみないかと言われました。そこで複雑な作品も創作するようになりました。これらの作品ではボックスプリーツの手法を使っています。

■「フグ」はOrigamiUSAのコンベンションでも注目を集めていました。これはどのようにして考えたのですか。

これは、2006年にベルバニアで開かれたイタリアCDOコンベンションの中、「水」をテーマにしたコンテストのために創作しました。締め切りまで2日間しかなかったので、いそいで創作して折る必要がありました。以前から風船の基本形を敷きつめた平織りでいろいろ遊んでいたので、これを何か具象的な折り紙にしようと考えました。フグができるかもしれないとは思いましたが、そのときは具体的な折り方が分かっていたわけではありません。突然、紙の四隅を真ん中に折ってからつまみ折りすれば、ひれができるとひらめきました。それと風船の基本形の平織りを組み合わせて、形を整えました。

■影響を受けた折り紙作家は誰ですか。

ロバート・ラングさんはもちろんですが、



▲フンコロガシ

日本の多くの創作家からも大きな影響を受けています。川畠文昭さん、小松英夫さん、神谷哲史さん、北條高史さん、そして吉澤章さんといった人たちです。

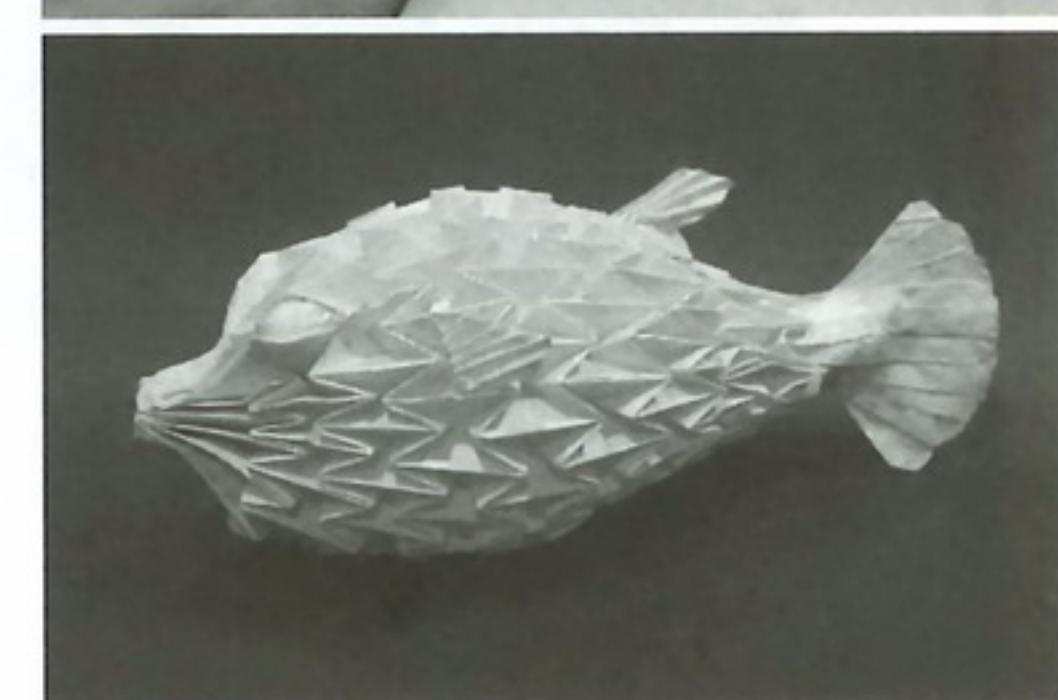
■今後はどのような作品を作りたいとお思いですか。

題材としては、動物や人物を折つてみたいです。また、1枚の紙から複数のものを折るということにも興味があります。作品を創作するにあたっては、できるだけ多くの細部を盛り込みたいと思っているのはもちろんですが、それと同時に、折り上がった作品の審美的な側面も重視したいと思っています。ホイル紙をくしゃくしゃに折るのではなく、すっきりとして、仕上がりに余計な折り線の出ない作品を作るよう心がけています。また、シンプルな曲面を使った作品や、柔らかく丸みを帯びた形も、引き続き作つてゆきたいと思っています。

■ぜひ日本のコンベンションにもお越しください。

折紙探偵団のウェブサイトや、関連する皆さんのウェブサイトはよく見てています。特に「おりがみ新世代」の作品にはいつも刺激を受けています。そのような創作家の皆さんのお作品を直に見たり、会ってお話ししたりできたら、すばらしいですね。

また、日本の文化、特に建築にも興味があります。機会があったら、ぜひ日本を訪れたいたいと思います。



▲フグ。上はふくらませる前



Rabbit Ear

つまみおり

Information



▲大勢の参加者で賑わう自由スペース(ホスピタリティー)

NY OUSA Convention Report

三谷 純

6月22日から25日にニューヨークのFIT(Fashion Institute of Technology)にて OrigamiUSA Convention 2007が開催された。今年も世界各国から800人余りの参加者があり、折り紙愛好家らが国境を越えて集う盛大なイベントとなった。

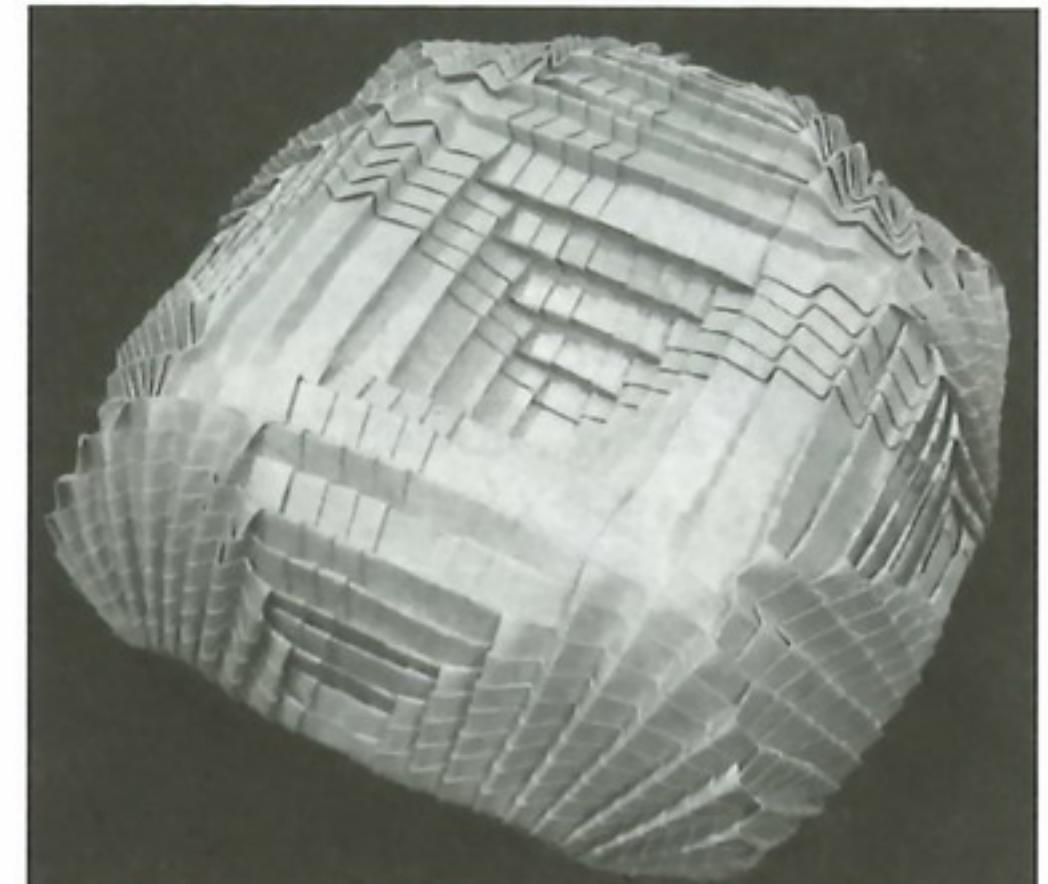
OrigamiUSA Convention では初参加者の名札に「First Timer」のリボンが貼り付けられる。今回、このリボンを頂戴した初参加者の視点からコンベンションを報告させていただこう。

まず開催初日に受付と作品展示があり、2日目と3日目には折り紙作品の一般講習、最終日には折り紙技法(設計手法など)に重点がおかれた講習が行われた。プログラム構成やコンベンションの運営の様子は例年と変わらなかったようであるが、初参加者としては見るものすべてが新しく、受講を希望する講習会の申し込み方、各教室での講習の内容、大会場での盛り上がり、作品展示のレベルの高さ、ど

れもこれもが驚きの連続であった。

私自身は最近、幾何学的な形や構造を持つ折り紙作品に興味を持っているため、会期中には次のような折り紙の講習を受講した。Daniel Kwan氏によるユニット折り「Truncated Rhombic Triacanthahedron」、Jeannine Mosely氏による幾何学おもちゃ「Kaleidogon」、Goren Konjevod氏による、まるで織物のような「Pureland Tessellations」、そしてEric Gjerde氏によるテッセレーション「Pecten Magellanicus」である。

また、最終日にはRay Schamp氏、Robert Lang氏、日本からの館氏による、折り紙の理論的な講習を聞くことができた。もちろん



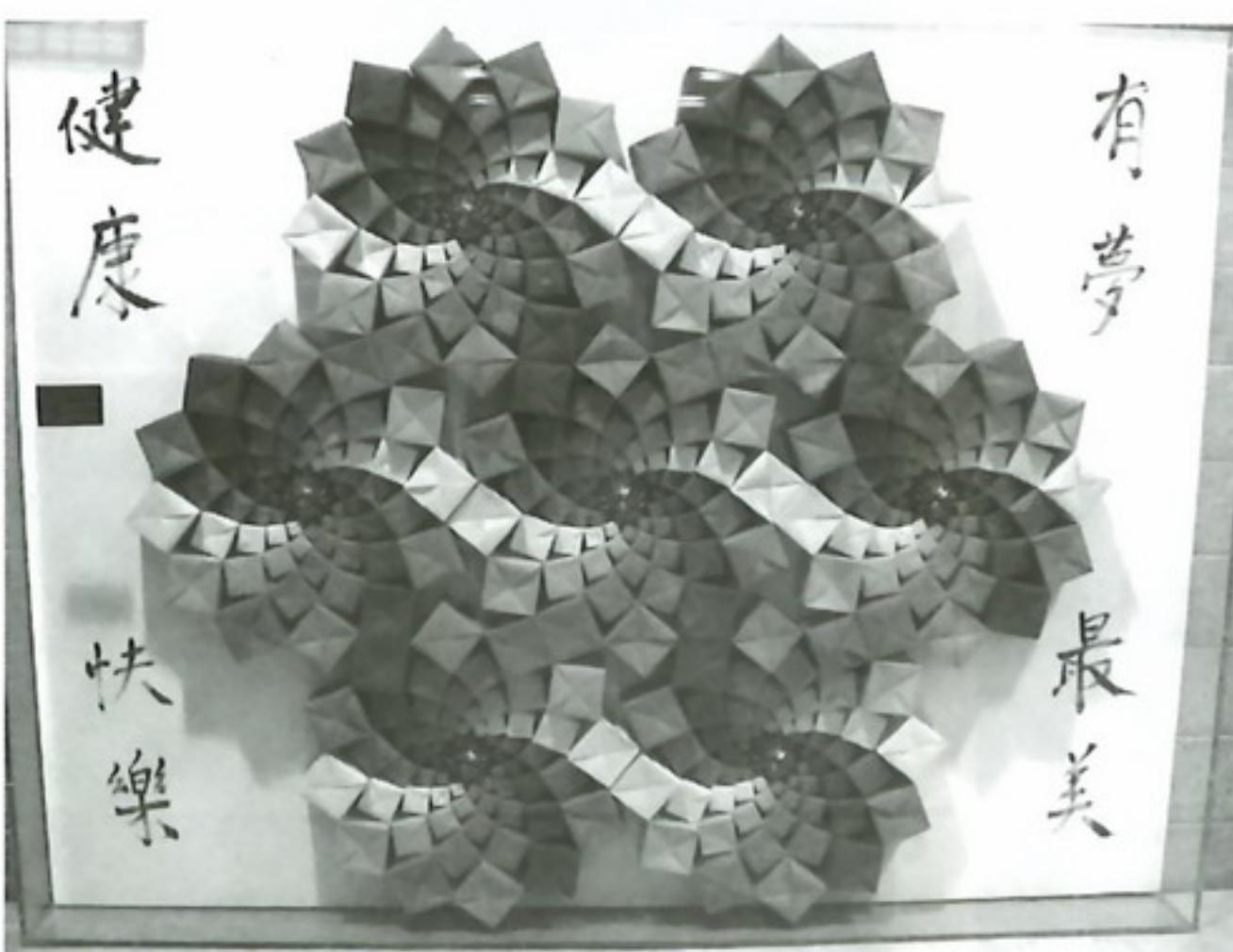
▲Goren Konjevod氏によるPureland Tessellations

他にも興味深い講習はたくさんあり、それらも受講したかったが、受講できた講習はどれも中身が濃く、折り紙初心者である私にとっては目の回るような体験であった。

講習以外にも、このコンベンションに独特なものとして、深夜遅くまで開放された折り紙のフリースペースが挙げられる。夜を徹して折り紙に励むもよし、折り紙談義に花を咲かせるもよし、何の制約も無く自由気ままに折り紙三昧な時間を過ごすことができる。

今回のコンベンションを通して、多くの折り紙愛好家の方々と交流を持つことができ、今まで本誌やWeb上の情報を通じてしか知りえなかった方々と実際に話をすることができたことは素晴らしい体験となった。ニューヨークには短い滞在期間であったが、折り紙漬けな非常に充実した日々であった。

最後に、今回のコンベンション参加において会期中にお世話をなった方々にこの場を借りて感謝申し上げたいと思う。ありがとうございました。



▲初日の講習で作成したユニット折りと報告者

5月17-20日にパリで開催されたMFPP(Le Mouvement Francais des Plieurs de Papier)コンベンションに参加してきました。2007年の海外ゲストとしてどうかとパリの佐藤直幹さんから打診されたのが昨年の11月。1週間ほど会社を休むことになる海外コンベンションへの参加は、残念ながらこのところずっと断り続けていました。しかし今回は、パリに特別の思いのある妻を連れて行くという遅い新婚旅行を兼ねたアイデアのもと訪問計画を立てたのでした。

MFPPコンベンションは主にフランス国内や隣国の大好家70-80名が集います。今年の会場はアンバリッド宮殿に近い7区にある閑静な住宅街のそれほど大きくない学校。午前中には近くで有名な朝市も楽しめるとてもすてきな街です。今回の招待作家は私の他に、イギリスからデビッド・ブリルさん、国内からエリック・ジョワゼルさんと欧州の両巨頭と、同席することとなりました。折り紙教室は3教室で午前1コマ、午後2コマがゆったりと組まれ



▲ニコラス・テリーさんの周りに10-20代の若い愛好家が集まる



ベロニクさんと佐藤さん



西川の周囲の古い街並は見飽きることがありません。パリの観光を兼ねたMFPPコンベンションは是非おすすめです。



▲エリックさんとデイブさん

◆伏見康治先生の白寿を祝う会 松浦英子

2007年6月3日、東京千代田区神田錦町にある学士会館において、日本折紙学会の名誉顧問である伏見康治先生の、白寿を祝う会が行われた。伏見先生は1909年(明治42年6月29日)生まれで、今年は数えの99歳である。

先生は日本の物理学者としての最長老であるとともに、日本の科学研究体制の確立と発展の貢献者であり、核融合の研究、学術会議議長、参議院議員、ロシアの科学者の救援活動、物理学の後継者の育成に

尽力。また、核兵器を廃絶し世界平和を実現するための、世界平和アピール七人委員会のメンバーなど、現在も多彩な方面での活躍をされている。

司会の大塚先生はじめ物理学者に留まらず、広い分野から200人

を超える人々が集まった。日本折紙学会からは、この会の発起人の一人である山口真氏をはじめ、評議員代表の前川淳氏、北條高史氏、羽鳥公士郎氏、川崎敏和氏、川村みゆき氏、布施知子氏、西川誠司氏、三浦公亮氏らが、日本折紙協会からは佐野友氏が参席した。

「思いで写真展」と題されたスライドショーでは、先生の小学校時代の写真、東京高校時代の写真、大学時代の研究室での活動など先生の99年の歩みが会場に映し出された。湯川秀樹氏をはじめとする歴史的人物との写真も多数あり、戦後の物理学史を語り継ぐような貴重な内容であった。

日本折紙学会からは、川崎敏和氏が壇上に上がり、折り紙の実演つきでお祝いを

述べた。氏のバラは当日の会場を華やかに飾り、参加者にはケースに入れられた「一分ローズ」が配られ、好評を得ていた。

最後に、伏見先生が99歳とは思えぬ、しっかりとした姿勢と足取りで壇上に登られ、挨拶をされた。「こんなに長生きするとは思わなかったので、心の準備をしないまま99歳になってしまった。」とユーモアも交え、参加者への感謝の言葉を述べられた。

会の最中は、テーブルについた先生へお祝いの言葉をかけようとする参加者が後を絶たなかった。先生は疲れた様子も見せず、一人ひとりの名前を聞き、きちんと思い出して丁寧にお返事をされていた。先生が多彩な活躍をされてきた理由、現在も元気でいらっしゃる理由、多くの人々が慕う理由はここにあるのだろう。



▲元気な姿で挨拶される伏見先生



▲川崎氏は壇上で1分ローズを披露



▲お祝いの言葉をかける山口氏



▲JOASの参加者と記念写真

◆第3回折紙探偵団名古屋コンベンション

第3回折紙探偵団名古屋コンベンションが開かれる。会場も定着した感のある名古屋芸術大学西キャンパス。今年の目玉は100体を超す兵馬が来場者を迎える。また、今年の海外からのスペシャルゲストはイギリスの折紙作家デビッド・ブリル氏に決まった。ブリル氏は本誌連載でもお馴染みの作家で世界各地で開かれるコンベンションに招待される人気作家である。東海地方には今回が初見参。氏の魅力に触れてみるチャンス。また、昨年同様に人気投票によるコンテストも開かれる。

スペシャルゲストのデビッド・ブリル氏▶



第3回折紙探偵団名古屋コンベンションは、下記の日程で開催される予定です。

●会期:2007年11月24日(土)・25日(日)

●場所:名古屋芸術大学西キャンパス

●参加費(折り紙用紙、バッジなど含む)

大人4,000円、学生3,000円(小、中、高、大、専門学校生)

親子割引:大人4,000円+子ども2,000円×人数分(保護者1名につき小学生以下2名まで適用可)

●懇親会参加費:大人4,000円、中学生以下2,000円※希望者のみ

折り紙作品人気投票 コンテスト展示作品募集

折り紙作品人気投票コンテストに多くの方からの作品募集をしています。

コンテストは創作部門、習作部門に分かれているので、創作作品のない方でも参加ができます。習作とは創作者が他にいる作品を折った場合のことです。この場合は、創作者名を必ず記してください。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール／参加費=500円(中学生以下300円)／講習会=14:00～／研究会=16:00～

●8月4日(土)／JOASホール／講師:金沢隆史／作品:トリケラトプス

●9月1日(土)／JOASホール／講師:未定／作品:未定

東海友の会※折り紙は各自持参

●8月18日(土)会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟204・205／参加費=大人500円(中学生以下は200円)／時間=13:00～16:30／G204教室／講習「皆で兵馬俑を作ろう」

■宿泊(希望者のみ)

1泊素泊まり=5,000円(予定)

24日・25日及び前泊、後泊を含めて予約を受け付けます。

■11月24日(土)

9:00～受付

11:00～12:30 全体会 講演

13:30～17:20 折り紙教室

18:00～20:00 お楽しみ懇親会

■11月25日(日) 折り紙教室 2日目

9:00～受付

10:30～16:20 折り紙教室

16:30～全体会

折り紙作品コンテスト結果発表

参加申込書(同封別紙)にて、ファックスか郵送でお申し込みください。

FAX送付先 052-832-9884

郵送の場合

〒468-0073 名古屋市天白区塩釜口
2-1515 折紙探偵団東海友の会
お問い合わせは日本折紙学会事務局
電話 03-5684-6040

(富永バージョン、川畠バージョンなどあります)

●9月(日時未定)会場=名古屋芸術大学 西キャンパスG棟204・205／作品、講師未定。

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●8月／未定。定例会が行われる場合ははがきにてご案内をお送りします。

静岡友の会※折り紙は各自持参

●9月9日(日) 会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費=500円／時間=10:30～12:00／問い合わせ: 054-254-4541(増武内 山口16～20時)

BOS 40周年記念 コンベンション

British Origami Society(BOS)の40周年記念コンベンションが9月6日から9日までイギリスのケンブリッジのKaetsu Educational & Cultural Centreで開催される。この記念大会には日本から川村みゆき氏がスペシャルゲストとして招かれている。他に、アメリカからロバート・ラング氏、フランスからエリック・ジョワゼル氏の2人もスペシャルゲストとして招かれている。また、日本からの参加者を募集中。JOASから山口真氏と神谷哲史氏も参加する。詳しくは <http://www.britishorigami.info/society/meetings/40th/40data.htm> をご覧ください。

JOASホール今後の予定

8月のJOASホールはコンベンションのためお休みとなります。

◆9月15日(土)「知子の部屋」布施知子／
参加費=2,500円／12:30-16:00

◆9月30日(日)「ある折紙創作家の教室」
神谷哲史／参加費=3,000円
／11:00-16:00／講習作品「飛翔鶴」

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これでできない場合は電話でも受けます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。

編集後記

■このところコンベンションの準備のため毎週のように日曜日がつぶれている。■コンベンションスタッフの若手が積極的に参加してくれるのでうれしい。■このマガジンの入稿が終わると次は折り図集の制作だ。■ほかに宿舎の手配、プログラムなどまだまだ続く。■時には連れ合いに忙しさの愚痴をこぼす。「でも楽しいんでしょ。」の一言。「はい。」■楽しいのだからもう少し頑張らなくてはな。

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2007年7月25日発行 第18巻2号通巻104号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/前川 淳

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子・神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円 (本体605円)

広告のコーナー



おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>
E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第13回折紙探偵団
コンベンション 折り図集vol.13

日本折紙学会 編／2,000円／送料420円
B5判／全256頁／約50作品収録予定

2007年8月18日発売！

※18~19日はコンベンション参加者のみ購入可能
予約受付中！

申し込み方法は通常の通信販売方法(右下参照)と同様です。送料と本の代金をお送りください(送付先住所と商品名を明記のこと)。コンベンション終了後発送開始致します。

書籍名／著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判／全228頁／カラ一口絵4頁／19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判／全196頁／カラ一口絵4頁／32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畠文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判／全196頁／カラ一口絵 4頁／17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判／全196頁／カラ一口絵4頁／18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中真子 著 山口 真 編	2,500円		B5判／全120頁／カラ一口絵8頁／31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判／全200頁／全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 残部僅少 川畠文昭 著	2,900円		B5判／全180頁／カラ一口絵4頁／18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第12回折紙探偵団 折り図集vol.12 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作52作品を収録
第11回折紙探偵団 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第9回折紙探偵団 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判／全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録

※第1回～第8回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

限定版 折紙探偵団Tシャツ

折紙探偵団のロゴが入ったTシャツ。
色は黒のみで布は厚手。

XS, S, M, L, XL 各サイズ 定価 2,000円／2着まで送料500円

※数に限りがありますので、ご注文の際には在庫を確認してください。

商品名

価格(税込)

送料

内 容

恐竜柄おりがみ用紙

1,000円

国内一律
1~2セット

35×35cm／10枚入／70kgの
洋紙に細かい恐竜模様を印刷

恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット

1,200円

440円

恐竜柄おりがみ用紙+
ドラゴン(北條高史作)の折り図

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。送料には梱包材代が含まれています

書籍
の
送
料
複
数

書籍2冊の送料は530円／書籍3冊の送料は670円(例外を除く・下記参照)

例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集9.10と色紙百花1冊)のみ530円

上記以外の場合はお問い合わせください／書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい

小松英夫折紙作品集／小松英夫・著 サプライズをお楽しみに
北條高史折紙作品集／北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定
折紙図鑑「犬」／佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替か現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間～10日です(お盆・年末年始等を除く)。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

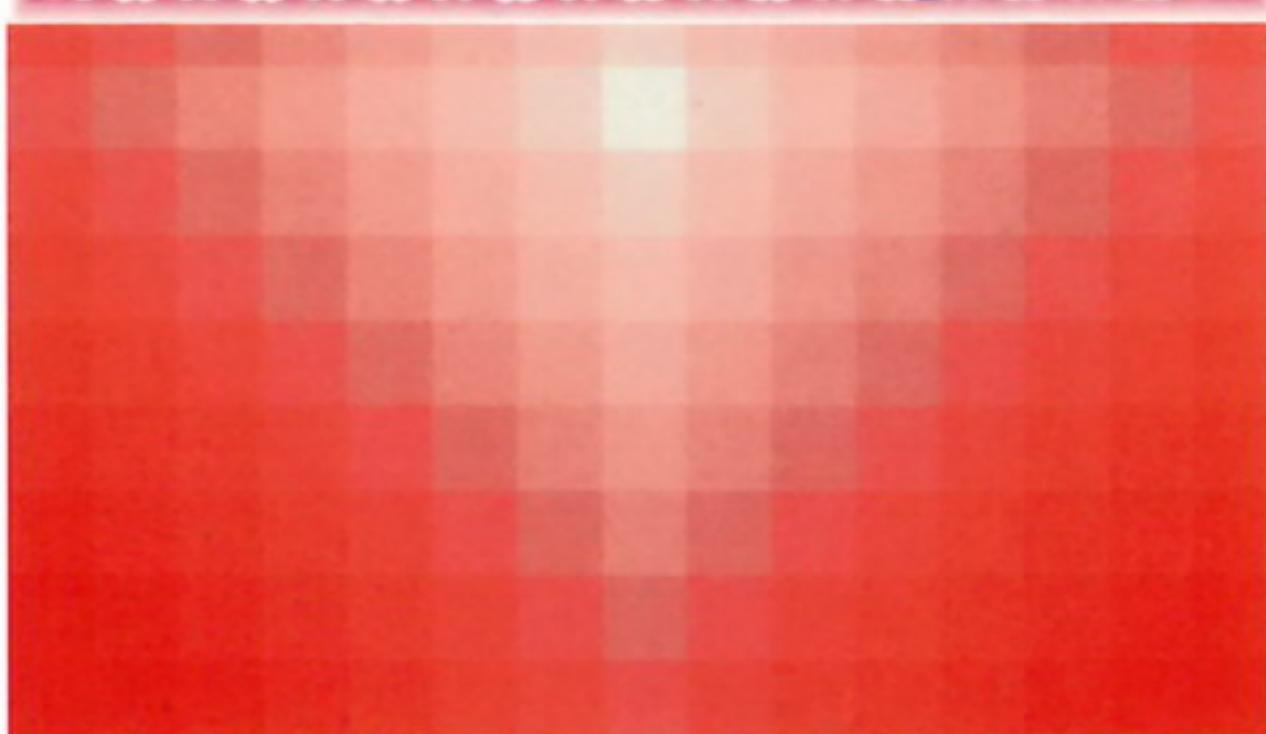
E-mail : info@origamihouse.jp 10時～18時 日・祝休

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2007年9月25日

ファンタジーカラー おりがみ

ダリア



¥200 ファンタジーカラー (15.0) ダリア



¥200 ファンタジーカラー (7.5) ダリア

フラワー



¥200 ファンタジーカラー (15.0) フラワー



¥200 ファンタジーカラー (7.5) フラワー

